

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	がこがくがくじん こががくかん 学校法人 皇學館								
フリガナ大学の名称	こががくがくがいがく 皇學館大学 (Kogakkan University)								
大学本部の位置	三重県伊勢市神田久志本町1704番地								
大学の目的	わが国民の歴史と伝統とに基づく文化を究明し、洋の東西に通ずる道義の確立を図り、祖国愛の精神を教育培養するとともに、社会有為の人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	現代日本における文化、社会、福祉などの教育を通じて徳性と知性と技能を磨き、それらの融合から引き出される応用力によって現代日本社会の諸問題に主体的・創造的に対応することで、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成することを教育目的とする。また、この教育目的達成のために、現代日本社会を多面的・総合的に考察することを研究目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	現代日本社会学部 [Faculty for Study of Contemporary Japanese Society] 現代日本社会学科 [Department for Study of Contemporary Japanese Society] 計	4年	100人	—人	400人	学士 (現代日本社会学)	平成22年4月 第1年次	三重県伊勢市神田 久志本町1704番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	社会福祉学部 (廃止) 社会福祉学科 (△140) (3年次編入定員) (△4) ※平成22年4月学生募集停止 (3年次入学定員は平成24年4月学生募集停止) 教育学部 教育学科 [定員増] (12) (改組する社会福祉学部の定員を一部振替)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	現代日本社会学部 現代日本社会学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	現代日本社会学部 現代日本社会学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
			7人 (5)	9人 (1)	1人 (0)	0人 (0)	17人 (6)	0人 (0)	15人 (15)
			—	—	—	—	—	—	—
	計		7 (5)	9 (1)	1 (0)	0 (0)	17 (6)	0 (0)	15 (15)
	既設	文学部 神道学科	4 (6)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	7 (7)	0 (1)	2 (2)
		国文学科	4 (4)	4 (4)	0 (1)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	2 (2)
		国史学科	5 (4)	2 (1)	0 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	7 (7)
		教育学科	0 (4)	0 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (10)	0 (0)	0 (0)
		コミュニケーション学科	9 (7)	3 (2)	0 (1)	0 (0)	12 (10)	0 (0)	3 (3)
一般教養科目担当		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	52 (52)	
概要	社会福祉学部 社会福祉学科	0 (9)	0 (14)	0 (0)	0 (2)	0 (25)	0 (0)	0 (50)	
	教育学部 教育学科	9 (5)	13 (2)	0 (1)	4 (3)	26 (11)	0 (0)	16 (16)	
	計		31 (39)	24 (30)	0 (5)	5 (5)	60 (79)	0 (1)	82 (132)
合計		38 (44)	33 (31)	1 (5)	5 (5)	77 (85)	0 (1)	97 (147)	

平成20年度より学生募集停止

文学部・教育学部・現代日本社会学部共通

平成22年度より学生募集停止

平成22年度より定員増 (12)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	平成23年3月31日をもって名張キャンパス校地・校舎を名張市に返還し、伊勢キャンパスへ統合				
	事 務 職 員		56 (61)	7 (25)	63 (86)					
	技 術 職 員		7 (12)	18 (14)	25 (26)					
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)	2 (8)	6 (12)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	1 (1)	1 (1)					
	計		67 (77)	28 (48)	95 (125)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	伊勢キャンパス (78,052㎡) 名張キャンパス (45,018㎡) 平成23年3月31日をもって名張キャンパス校地を名張市に返還し、伊勢キャンパスへ統合				
	校 舎 敷 地	59,059㎡	0㎡	0㎡	59,059㎡					
	運 動 場 用 地	15,013㎡	0㎡	0㎡	15,013㎡					
	小 計	74,072㎡	0㎡	0㎡	74,072㎡					
	そ の 他	3,980㎡	0㎡	0㎡	3,980㎡					
	合 計	78,052㎡	0㎡	0㎡	78,052㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	伊勢キャンパス 開設時 (23,006㎡) 完成年度 新1号館を含む (31,071㎡) 名張キャンパス (11,430㎡) 平成23年3月31日をもって名張キャンパス校舎を名張市に返還し、伊勢キャンパスへ統合				
		31,071㎡	0㎡	0㎡	31,071㎡					
		( 34,436㎡ )	( 0㎡ )	( 0㎡ )	( 34,436㎡ )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	40室	33室	49室	3室 (補助職員 人)	1室 (補助職員 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数	17 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体 図書 冊 373,039 [29,951] (339,570 [28,831]) 学術雑誌 種 5,032 [ 93] ( 5,032 [ 93]) 視聴覚資料 点 2,748 (2,508)		
	現代日本社会学部 現代日本社会学科	76,198 [9,745] (71,023 [9,145])	737 [ 54] ( 737 [ 54])	0 [ 0] ( 0 [ 0])	1,361 (1,161)	0 ( 0)	0 ( 0)			
	計	76,198 [9,745] (71,023 [9,145])	737 [ 54] ( 737 [ 54])	0 [ 0] ( 0 [ 0])	1,361 (1,161)	0 ( 0)	0 ( 0)			
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		伊勢図書館 (4,058㎡) 体育館 (5,361㎡) 名張図書館 (1,675㎡) 体育館 (1,331㎡) 平成23年3月31日をもって名張キャンパス校舎を名張市に返還し、伊勢キャンパスへ統合			
	4,058㎡		313		545,000					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				平成23年3月31日をもって名張キャンパス校舎を名張市に返還し、伊勢キャンパスへ統合			
	5,361㎡		弓 道 場 (198㎡)		武 道 場 (210㎡)					
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部全体
		教員1人当り研究費等		440千円	440千円	440千円	440千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		156千円	314千円	478千円	645千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	2,566千円	2,566千円	5,189千円	7,882千円	10,645千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	855千円	855千円	1,730千円	2,627千円	3,548千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,025千円	1,025千円	1,025千円	1,025千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

既設大学等の状況	大学の名称		皇學館大学						所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
文学部	神道学科	4	70	—	280	学士(文学)	1.14	昭和52年度	三重県伊勢市神田 久志本町1704番地	
	国文学科	4	80	—	320	学士(文学)	1.38	昭和37年度		
	国史学科	4	80	—	320	学士(文学)	1.24	昭和37年度		
	教育学科	4	—	—	240	学士(文学)	—	昭和50年度		
	コミュニケーション学科	4	80	—	320	学士(文学)	0.99	平成12年度		
									平成20年度より文学部教育学科(△120)学生募集停止	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	140	3年次 4	752	学士(社会福祉学)	0.72	平成10年度	三重県名張市春日丘 7番町1番地	平成22年4月より 学生募集停止予定
	教育学部 教育学科	4	198	—	368	学士(教育学)	1.29	平成20年度	三重県伊勢市神田 久志本町1704番地	平成22年4月より (12)定員増予定 社会福祉学部から定員振替
専攻科 神道学専攻	1	10	—	10			3.10	昭和56年度	三重県伊勢市神田 久志本町1704番地	
大学院 文学研究科	修士・博士前期課程									
	神道学専攻	2	3	—	6	修士(文学)	1.83	平成2年度	三重県伊勢市神田 久志本町1704番地	
	国文学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	0.70	昭和41年度		
	国史学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	0.70	昭和41年度		
	教育学専攻	2	8	—	16	修士(文学)	0.12	平成16年度		
	博士後期課程									
	神道学専攻	3	2	—	6	博士(文学)	0.66	平成16年度		
	国文学専攻	3	2	—	6	博士(文学)	0.83	昭和48年度		
国史学専攻	3	2	—	6	博士(文学)	0.50	昭和48年度			
社会福祉学研究科 修士課程 社会福祉学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉学)	0.40	平成14年度	三重県名張市春日丘 7番町1番地		
附属施設の概要	該当なし									

教育課程等の概要																	
(現代日本社会学部現代日本社会学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目 (全学共通)	皇学	皇学	1前	2			○			1					兼15	オムニバス	
		伊勢学	1後	2			○								兼12	オムニバス	
		小計(2科目)	—	4	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0		—	
	総合基礎	初学び(入門演習)	1前集		1			○									文学部・教育学部用 現代日本社会学部用
		キャンパス・セミナー	1前	2				○		1							
		文章入門	1前	2				○		1							
		文章応用	1後		2			○		1							現代日本社会学部用
		古文Ⅰ	1前		1			○								兼1	
		古文Ⅱ	1後		1			○								兼1	
		漢文Ⅰ	1前		1			○								兼3	
		漢文Ⅱ	1後		1			○								兼3	
		総合演習	2前・後		2			○		1	1						
		情報処理Ⅰ(基礎)	1前		1			○								兼4	
		情報処理Ⅱ(応用)	1後		1			○								兼4	
		情報処理Ⅲ(ネットワーク)	2前		1			○								兼1	
		情報処理Ⅳ(プログラミング)	2後		1			○								兼1	
	小計(13科目)	—	4	13	0	—	—	—	—	2	1	0	0	0		—	
	外国語	英語基礎Ⅰ	1前		1			○								兼7	
		英語基礎Ⅱ	1後		1			○								兼7	
		英語コミュニケーションⅠ	1前		1			○								兼9	
		英語コミュニケーションⅡ	1後		1			○								兼9	
		英語総合Ⅰ	2前		1			○								兼1	
		英語総合Ⅱ	2後		1			○								兼1	
		英語資格対策Ⅰ	2前		1			○								兼1	
		英語資格対策Ⅱ	2後		1			○								兼1	
		英会話Ⅰ	2前		1			○								兼2	
		英会話Ⅱ	2後		1			○								兼2	
		英語資格A	1後		2			○								兼1	
		英語資格B	1後		2			○								兼1	
		英語資格C	1後		2			○								兼1	
		ドイツ語Ⅰ	1前		1			○								兼1	
		ドイツ語Ⅱ	1後		1			○								兼1	
		ドイツ語Ⅲ	1前		1			○								兼1	
ドイツ語Ⅳ		1後		1			○								兼1		
フランス語Ⅰ		1前		1			○								兼1		
フランス語Ⅱ		1後		1			○								兼1		
フランス語Ⅲ		1前		1			○								兼1		
フランス語Ⅳ		1後		1			○								兼1		
ポルトガル語Ⅰ		1前		1			○								兼1		
ポルトガル語Ⅱ		1後		1			○								兼1		
ポルトガル語Ⅲ		1前		1			○								兼1		
ポルトガル語Ⅳ		1後		1			○								兼1		
中国語Ⅰ		1前		1			○								兼1		
中国語Ⅱ		1後		1			○								兼1		
中国語Ⅲ		1前		1			○								兼1		
中国語Ⅳ		1後		1			○								兼1		
外国語Ⅰ		1後		2			○								兼1		
外国語Ⅱ		1後		2			○								兼1		
小計(31科目)	—	0	36	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0		—		
日本文化と世界	神道	1後		2			○								兼1		
	哲学	1後		2			○								兼1		
	言語学	1後		2			○								兼1		
	日本の歴史	1後		2			○								兼1		
	日本の文学	1後		2			○								兼1		
	日本の思想	1後		2			○								兼1		
	日本の民俗	1後		2			○								兼1		
	世界の歴史	1後		2			○								兼1		
	世界の思想	1後		2			○								兼1		
小計(9科目)	—	0	18	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0		—		

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考			
			必	選	自	講	演	実	教	准	講	助	助				
			修	択	由	義	習	習	授	授	師	教	手				
共通科目 (全学共通)	現代と生活	法学(日本国憲法)	2前	2		○			1								
		政治学入門	1前	2		○				1							兼1
		経済学入門	1前	2		○											兼1
		社会学入門	1前	2		○											兼1
		統計学入門	1前	2		○											兼1
		心理学入門	1前	2		○											兼1
		現代と福祉	1前	2		○				1							兼1
		現代と健康	1前	2		○											兼1
		現代と教育	1前	2		○											兼1
		現代の課題	1前	1		○											兼2
		人権論	2前	2		○											兼1
	小計(11科目)	—	0	21	0				1	2	0	0	0			—	
自然と科学	数学	1前		2		○											兼1
	生物学	1前		2		○											兼1
	化学	1前		2		○											兼1
	物理学	1前		2		○											兼1
	天文学	1前		2		○											兼1
	環境地理学	1前		2		○											兼1
	自然地理学	1前		2		○											兼1
	自然科学史	1前		2		○											兼1
	小計(8科目)	—	0	16	0				0	0	0	0	0				—
伝統の心と技	武道Ⅰ	1前		1				○									兼3
	武道Ⅱ	1後		1				○									兼3
	武道Ⅲ	2前		1				○									兼1
	武道Ⅳ	2後		1				○									兼1
	書道Ⅰ	2前		1				○									兼3
	書道Ⅱ	2後		1				○									兼3
	伝統の心と技1	1前・後		2				○									兼1
	伝統の心と技2	1前・後		2				○									兼3
	伝統の心と技3	1前・後		2				○									兼2
	伝統の心と技4	1前・後		2				○			1						
	伝統の心と技5	1後		2				○									兼1
	伝統の心と技6	1前・後		2				○			1						
	伝統の心と技7	1後		2				○									兼1
伝統の心と技8	1前・後		2				○									兼1	
伝統の心と技9	1後		2				○									兼2	
伝統の心と技10	1後		2				○									兼1	
伝統の心と技11	1前・後		2				○									兼1	
伝統の心と技12	1後		2				○									兼1	
小計(18科目)	—	0	30	0					0	1	0	0	0			—	
人生と仕事	人生と仕事	2前		1		○											兼1
	ビジネス実践論	2後		1				○									兼7
	生涯学習概論	3前		2				○									兼1
	インターンシップ	2前		1				○									兼2
	ボランティアⅠ	2前		1				○									兼2
	ボランティアⅡ	2後		1				○									兼1
小計(6科目)	—	0	7	0					0	0	0	0	0			—	
共通科目計(98科目)			—	8	141	0			3	3	0	0	0			—	

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目	基礎科目	現代日本総論	1前	2			○			5							オムニバス	
		日本人物論	1後	2			○			2							オムニバス	
		日本国家論	1後	2			○			1								
		小計 (3科目)	—	6	0	0	—			5	0	0	0	0			—	
	基幹科目	日本の文化	日本文化論	2前		2		○			1							
			日本文学論	2前		2		○			1							
			日本歴史論	2後		2		○						1				兼1
			日本民俗論	2後		2		○										
		現代の社会	社会学概論	1後		2		○				1						
			現代社会論	2前		2		○				1						
	現代人権論		2前		2		○			1							兼1	
	生活と福祉	社会保障論	2前		4		○										兼1	
		現代憲法論	2後		2		○			1								
		社会福祉原論	1後		4		○			1								
		福祉政策論	2後		2		○			1								
	地域福祉論	3前		4		○			1									
	小計 (12科目)	—	0	30	0	—			5	2	1	0	0			—		
展開科目	日本の文化	日本建築論	2前		2		○				1						兼1	
		日本倫理思想史	2前		2		○										兼1	
		日本工芸論	2後		2		○				1						兼1	
		地域文化論	2後		2		○										兼1	
		日本礼法論	3前		2		○				1						兼1	
		日本芸能論	3前		2		○										兼1	
		日本神話論	3後		2		○			1							兼1	
		神道概説	3後		2		○					1					兼1	
		武士道論	3後		2		○										兼1	
		日本宗教概説	4前		2		○										兼1	
	現代の社会	地域社会論	1後		2		○										兼1	
		心理学	1後		2		○										兼1	
		医学概論	2前		2		○										兼1	
		政治社会学	2前		2		○				1						兼1	
		地域情報論	2前		2		○										兼1	
		社会情報学	2前		2		○			1							兼1	
		精神医学	2前		4		○										兼1	
		精神保健学	2前		4		○										兼1	
		国土構造論	2前		2		○			1								
		地域構造論	2前		2		○			1								
		国土計画論	2後		2		○			1								
		地域計画論	2後		2		○			1								
		社会調査法	2後		2		○			1								
		社会情報分析	2後		2		○				1							
		教育社会学	2後		2		○				1							
		家族社会学	2後		2		○				1							
		産業社会学	3前		2		○				1							
社会統計学 I (基礎統計)	3前		2		○				1									
産業革新論	3前		2		○			1										
文明開化論	3後		2		○			1										
質的調査論	3後		2		○			1										
社会統計学 II (多変量解析)	3後		2		○				1									
観光社会学	3後		2		○				1									
医療社会学	3後		2		○			1										

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考			
			必	選	自	講	演	実	教	准	講	助	助				
			修	択	由	義	習	習	授	授	師	教	手				
専門科目	生活と福祉	社会福祉援助技術論Ⅰ(専門職制度)	1後	4		○										兼1	
		社会福祉援助技術論Ⅱ(理論)	2前	4		○				1							
		介護概論	2前	2		○					1						
		児童・家庭福祉論	2前	2		○										兼1	
		精神保健福祉論Ⅰ(援助理念)	2前	2		○					1						
		精神保健福祉援助技術総論	2前	4		○					1						
		社会福祉援助技術論Ⅲ(実践)	2後	4		○					1						
		障害者福祉論	2後	2		○					1						
		公的扶助論	2後	2		○										兼1	
		社会福祉発達史	2後	2		○										兼1	
		高齢者福祉サービス論	2後	2		○					1						
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ (援助活動)	2後	2		○					1						
		リハビリテーション論	2後	2		○										兼1	集中
		精神保健福祉論Ⅱ(施策と業務)	2後	2		○					1						
		医療福祉論	3前	2		○										兼1	
		精神保健福祉論Ⅲ(制度とサービス)	3前	2		○					1						
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ (ケアマネジメント)	3前	2		○					1						
		精神科リハビリテーション論	3前	2		○										兼1	
		神道福祉論	4前	2		○							1				
	小計(53科目)	—	0	118	0			—		4	8	1	0	0		—	
発展科目		日本経済論	2前	2		○										兼1	
		日本政治論	2前	2		○					1						
		経済政策論	2後	2		○										兼1	
		日本マスコミ論	2後	2		○										兼1	
		日本外交論	3前	2		○										兼1	
		農業政策論	3前	2		○										兼1	
		近代神道論	3前	2		○				1							
		公共政策論	3前	2		○										兼1	
		地方自治論	3前	2		○				1							
		コミュニティビジネス論	3前	2		○										兼1	
		起業論	3前	2		○										兼1	
		地方財政論	3後	2		○										兼1	
		政教問題論	3後	2		○				1							
		国際政治論	3後	2		○										兼1	
		サブカルチャー論	3後	2		○				1							
		文化政策論	3後	2		○					1						
		雇用政策	2後	1		○					1						
		スクールソーシャルワーク論	3後	2		○										兼1	
		権利擁護と成年後見制度	3後	2		○										兼1	
	福祉行財政と福祉計画	4前	2		○										兼1		
	社会福祉経営論	4前	2		○				1								
	司法福祉論	4前	1		○				1								
	小計(22科目)	—	0	42	0			—		4	3	0	0	0		—	
実習科目		文化継承実習Ⅰ	2前	1												兼4	
		産業社会実習	2通	4						1	1						
		文化継承実習Ⅱ	2後	1												兼4	
		文化継承実習Ⅲ	3前	1												兼4	
		社会調査実習	3通	2							2						
		社会福祉援助技術現場実習	3通	4							3						
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ (事前指導)	3通	2							3						
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ (事後指導)	3通	1							3						

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手					
専門 科目	実習 科目	精神保健福祉援助実習	3通	6				○										
		社会臨床実習	3通	2						1	1							
		社会情報実習	3通	2							1							
		文化継承実習Ⅳ	3後	1														兼4
		文化継承実習Ⅴ	4前	1														兼4
		スクールソーシャルワーク実習	4前	2														兼1
		文化継承実習Ⅵ	4後	1														兼4
	小計(15科目)	—	0	31	0			—		1	7	0	0	0				—
	演習 科目	現代日本演習Ⅰ	2通	4					○		4	3						
		社会福祉援助技術演習Ⅰ (コミュニケーションスキル)	2後		2						2	1						
		社会福祉援助技術演習Ⅱ (相談援助のプロセス)	3前		2						2	1						
		精神保健福祉援助演習	3前		2							1						
		現代日本演習Ⅱ	3通	4							4	3						
		社会福祉援助技術演習Ⅲ (相談援助の実際)	3後		1						2	1						
		スクールソーシャルワーク演習	4前		2													兼1
課題研究演習(卒業研究)		4通	4							6	9	1						
小計(8科目)	—	12	9	0			—		6	9	1	0	0		兼1	—		
専門科目計(113科目)		—	18	230	0			—		7	9	1	0	0			—	
合計(211科目)		—	26	371	0			—		7	9	1	0	0			—	
学位又は称号		学士(現代日本社会学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
共通科目 8単位必修を含めて30単位以上 専門科目 基礎科目 6単位必修 基幹科目 日本の文化・現代の社会・生活と福祉の各分野 から4単位必修を含めて18単位以上 展開科目 日本の文化・現代の社会・生活と福祉の各分野 から4単位必修 実習科目 4単位以上 演習科目 12単位必修 上記を含めて62単位以上 合計124単位以上を取得することを卒業要件とする。							1学年の学期区分			2学期								
							1学期の授業期間			15週								
							1時限の授業時間			90分								



授 業 科 目 の 概 要			
(現代日本学部現代日本学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	皇学	<p>本学建学の精神を理解するために、「日本」の国にかかわるさまざまなことについて、いろいろな立場の教員がテーマごとに講義を行なう。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (松浦 光修教授/1回)</p> <p>①皇学—その継承と発展のために 皇学とは何か?、「やまと心」と「やまと魂」について、本居宣長や五木寛之の著書等により講義を行う。</p> <p>(橋本 雅之教授/1回)</p> <p>②神話—日本神話の世界へ 神話とは何か、神話のタイプ、日本の神話、『古事記』神話の梗概、日本神話の研究、まとめ、の内容で講義を行う。</p> <p>(本澤 雅史教授/1回)</p> <p>③神道—かしこき物への信仰と儀礼 一、「神」とは「かしこき物」、二、本居宣長『古事記伝』三之巻、三、万葉集に見られる「かしこき物」への信仰と儀礼、の内容で講義を行う。</p> <p>(松本 丘准教授/1回)</p> <p>④天皇—「国体」を考える 1、「鼓腹撃壤の民」 2、「国体」とは? 3、「万世一系」 4、「義は君臣、情は父子」 5、「君徳、四海を覆ふ」 6、「皇護奉賛」の内容で講義を行う。</p> <p>(加藤 十八講師/1回)</p> <p>⑤教育—日本の伝統的教育 1 伝統的教育、2 日本の伝統的教育、3 進歩主義的教育—アメリカ教育の革新、4 わが国の教育理念をどう正すのか、の内容で講義を行う。</p> <p>(勝岡 寛次講師/1回)</p> <p>⑥思想—占領と戦後教育 「はじめに」、「私が大学生の頃」、「昭和ひとケタ世代と歴史の断絶」、「昭和ひとケタ世代が『歴史に対して自信を喪失』したのは何故か?」、「この変化は、占領軍による意図的なものだった。」、「大学時代と学問」、「おわりに 皇學館大学で「皇学」を学ぶ意義」の内容で講義を行う。</p> <p>(松田 典祀教授/1回)</p> <p>⑦国語—国語の特質としての言霊思想 古典に見る『言霊』、(言挙げ)、事柄について講義を行う。</p> <p>(中川 照将准教授/1回)</p> <p>⑧文芸—日本の物語の変容 1、『源氏物語』って知ってますか? 2、『源氏物語』の作者は紫式部ではない? 3、『源氏物語』増幅・成長の形跡 4、作品内・外部へと広がる物語世界、の内容で講義を行う。</p> <p>(川村 一代准教授/1回)</p> <p>⑨国際—日本人と英語 世界の主要20言語使用人口、使用者との関係からみた英語の3変種、海外旅行客数の推移、習い事:アンケート東京電力TEPORE(テポレ)等の資料を用いて講義を行う。</p> <p>(田中 英道講師/1回)</p> <p>⑩美術—日本の美 聖武天皇と天平の「美」について、奈良の大仏が建立され、その美しさ、その力強さはまさに「古典の美」にふさわしいものであり、他の作品とあわせ、ギリシャ古典の諸像やイタリア・ルネッサンスのそれにも匹敵する作品となっていて、そこには天皇によっておこなわれた道徳的な政治が、日本人の「美」と重なり合っているのを見て取ることができることを講義する。</p> <p>(渡部 年晴講師/1回)</p> <p>⑪安全—我国の防衛における海上自衛隊の現状 1 我国の地理的特徴等、2 我国に影響する脅威、3 海自の概要:役割(任務)と兵力等、4 海自の現状等、5 国際貢献等、6 佐久間艇長と第6潜水艇、の内容で講義を行う。</p>	オムニバス方式

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	皇学	<p>(市川 千秋教授／1回) ⑫心理－天皇・神話・日本人の心性 「日の丸」の心理学的解明に向けて、1 太陽(母性)は生命・生産の根源、2 「日の丸」と「死と再生」、3 「日の丸」と日本人の精神的自立、の内容で講義を行う。</p> <p>(大島 信生教授・西山 嘉代子教授／1回) ⑬国歌－「君が代」の歴史と歌唱 一、国歌 二、国歌の由来 三、国旗及び国歌に関する法律 四、古今和歌集 五、拾遺和歌集 六、和漢朗詠集 七、拾玉集 八、「君が代」の様々な形 九、万葉集 十、小学校学習指導要領における国旗、国歌の取扱いの経緯、の内容の講義を行い、その後国歌「君が代」の練習を行う。</p> <p>(本間 一誠講師／1回) ⑭領土－戦後教育の欠落・国家観と領土 一、「国家」とは？ 二、東京裁判史観(反日自虐史観) 三、戦後教育における国家および国家観教育の欠落 四、北方領土に関する両国間の条約 五、北方領土に関する条約・宣言・協定、の内容で講義を行う。</p> <p>(多田 實道講師／1回) ⑮信仰－日本の民間信仰と仏教 現在は仏教行事となっている、特に、盂蘭盆会と彼岸に関して諸説を紹介しながら、講義を行う。</p>	オムニバス方式
	伊勢学	<p>「日本人の心のふるさと」とされる伊勢について学ぶことで、わが国の文化や歴史そのものを学ぶことができる。また、伊勢とその関連項目について学ぶことで、伊勢の地で学ぶことの意味を考える。さまざまな立場の教員がテーマごとに講義を行なうとともに、体験型学習として初穂曳に参加する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (齋藤 平准教授／1回) ①伊勢学のすすめ この科目の導入として、伊勢について学ぶことで、わが国の文化や歴史そのものを学ぶことができ、また、伊勢とその関連項目について学ぶことで、伊勢の地で学ぶことの意味を考えることができることを講義する。あわせてテーマごとに講義を行なうとともに、体験型学習として初穂曳に参加することを説明する。</p> <p>(講演／1回) ②神嘗祭と初穂曳き(1)講義 伊勢神宮奉仕会の顧問の方に特別講師として来ていただき、伊勢神宮の神嘗祭及び初穂曳について講義を行っていただく。</p> <p>(体験型学習／1回) ③神嘗祭と初穂曳き(2)実践 体験型学習として、毎年10月15日に行われる伊勢神宮外宮の初穂曳に参加し、初穂を乗せたお木曳車を外宮神域内まで履修者全員で曳く。あわせて地域文化や地域との連携について考えさせる。</p> <p>(体験型学習／1回) ④神嘗祭と初穂曳き(3)実践 ③と内容は同じ。</p> <p>(井後 政晏教授／1回) ⑤伊勢の神宮と式年遷宮 一、伊勢の神宮 二、唯一神明造りの本殿(社殿) 三、神宮式年遷宮(式年遷宮の歴史、式年遷宮の意義)、の内容の講義を行う。</p> <p>(岡田 登教授／1回) ⑥お蔭参りと御師 〔1〕御師(おんしー神宮は私幣禁断)、〔2〕参宮と群参、〔3〕御師と檀家、〔4〕回檀、他の内容について講義を行う。</p> <p>(深津 睦夫教授／1回) ⑦伊勢と和歌 伊勢の西行について、(一)西行について、(二)「何事」歌の真偽、(三)伊勢在住時代の西行、(四)伝説化された西行、の内容の講義を行う。</p>	オムニバス方式

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	皇学 伊勢学	<p>(半田 美永教授／1回) ⑧近代文学と伊勢 三重県にゆかりのある詩人、伊良子清白の作品である「安乗の稚児」の鑑賞を通して、伊勢と文学について講義を行う。</p> <p>(上野 秀治教授／1回) ⑨外からみた伊勢 「人国記」、ルイス・フロイスの日本年報、ツェンペリー「江戸参府随行記」、フィッセル「日本風俗備考」、『西遊草』、「弘化二年伊勢参宮覚」などの史料により、講義を行う。</p> <p>(千種 清美講師／1回) ⑩世界に発信する伊勢 1、伊勢から何を発信するのか 2、発信力のある切り口を探す。 3、環境問題を切り口に発信してみる。 4、食の安全を切り口に発信してみる。 5、技術の伝承について発信してみる。 6、日本人の精神について発信してみる。 の内容で講義を行う。</p> <p>(高倉 一紀教授／1回) ⑪国学と伊勢 鈴屋学とははじめ－神の道と歌の学び－について、一 「道の学問」－「真心」への回帰、二 「歌の学び」－二つの「古」と詠み分け－、の内容で講義を行う。</p> <p>(西村 尚美講師／1回) ⑫伊勢の食べ物 現在・過去・未来 伊勢で有名な食べ物を紹介し、伊勢の食べ物の過去、未来についても講義を行う。</p> <p>(大平 和典助教／1回) ⑬伊勢での学び－皇學館の歴史－ 明治15年に創立された皇學館大学の歴史・変遷をたずねることによって、皇學館大学のある伊勢の地で学ぶ意味を考える講義を行う。</p> <p>(森下 隆生講師／1回) ⑭これからの伊勢 ◎これまでのまちづくり…ご遷宮と伊勢のまち、◎これからのまちづくり…第62回の遷宮に向けて、◎最後に…まちづくりの主人公はみなさんです。の内容で講義を行う。</p> <p>(伴 五十嗣郎教授／1回) ⑮建国記念日と伊勢 『日本書紀』(養老四年720の成立) 神武天皇元年の条、橋本景岳(左内) 書状 中根雪江宛、の史料により講義を行う。</p>	オムニバス方式
共通 科目	総合 基礎	<p>初学び(入門演習) 皇學館大学で学ぶことの意義を建学の精神に基づいて確認することによって本学への帰属意識を高めるとともに、講義・演習の授業形態による大学での学びの基本的な態度と方法を身に付けることを目的とする。 本学の目標とこれまでの成果、殊に人材育成を中心にその実績を講義する。これによって大学での学びの目標を具象化し、自ら学ぶ態度への動機付けを行う。また、学生生活の諸問題についてデータに基づく討論によって論理的思考を養う必要性への気づきを促進し、あわせて思考の表現技法を獲得していくための導入とする。</p>	
	キャンパス・セミナー	<p>大学での学びの基礎、大学生活の基本など、キャンパスライフに欠かすことのできない学習方法とキャンパスマナーを身につける。講義におけるノートの取り方、参考資料のレファランス、学習計画の建て方、演習発表におけるプレゼンテーションの仕方など、高等教育におけるさまざまなスキルを中心に演習する。</p>	
	文章入門	<p>社会人として求められる文章能力を身につけることを目標とし演習する。文章要約、紛らわしい表現の訂正、敬語表現、課題作文などを反復演習し、レポート・小論文などにおける的確な文章を書く能力を養う。なお、毎回漢字小テストを実施する。</p>	
	文章応用	<p>優れた文章を書く力を身につけるために、近現代の小説・随筆・評論などの中から、評価の高い名文を鑑賞し、それを要約し論点を的確にまとめる実力を養成すると同時に、その文章に対する自らの意見を論理的に論ずる力を身につける。</p>	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	総合 基礎	古文 I  伊勢物語や徒然草などの標準的な古典作品を用い、古文読解のために必要な当時の風俗や制度といった基本的な知識と方法を身につけることを目的とする。高等学校において「古典」科目を未履修の学生を主な対象とし、古典文法に重点をおいた講義を行う。また、段階的に古語辞典を参照しながら読解させる機会を増やしていくことで、古文の特性を明確化するとともに、自ら古典に親しむ態度を養う。	
	古文 II  Iでの学習を踏まえ、さらに伊勢物語や徒然草などの標準的な古典作品を用い、古文読解のために必要な当時の風俗や制度といった基本的な知識と方法を身につけることを目的とする。高等学校において「古典」科目を未履修の学生を主な対象とし、古典文法に重点をおいた講義を行う。また、段階的に古語辞典を参照しながら読解させる機会を増やしていくことで、古文の特性を明確化するとともに、自ら古典に親しむ態度を養う。		
	漢文 I  日本語において現代に至るまで大きな影響を持ちつづけた漢文について総合的な理解を深めることは、国語教育において必須であろう。漢文は中国古典語を基礎とし、日本でも訓読法の確立などに見られるように早くから文化的に咀嚼されていた。本講義では、日本で大きな影響力を持っていた漢文を歴史的かつ学問的観点から検討する。また漢文訓読の実習のみならず、いわゆる古典作品の思想的・文学的背景を押さえることで、国語教育における総合的理解の向上を図る。		
	漢文 II  日本語において現代に至るまで大きな影響を持ちつづけた漢文について総合的な理解を深めることは、国語教育において必須であろう。漢文は中国古典語を基礎とし、日本でも訓読法の確立などに見られるように早くから文化的に咀嚼されていた。本講義では、Iでの学習を踏まえ、さらに日本で大きな影響力を持っていた漢文を歴史的かつ学問的観点から検討する。また漢文訓読の実習のみならず、いわゆる古典作品の思想的・文学的背景を押さえることで、国語教育における総合的理解の向上を図る。		
	総合演習  (新田均教授) 今日の教育界において重要な問題となっている「アメリカ教育の失敗と再生」「教育公務員の立場と職員団体」「道徳教育」「国旗・国歌」「性教育」「男女平等」「家庭教育」「歴史認識」などの様なテーマを取り上げ、多角的に検討して、生徒に教える前に、まず教育者自身がそれについて深く考え、的確に理解している状態にするのが本演習の目的である。授業は、事前に提示した資料を各人が読んで自分の考えをまとめ、それを授業中に発表して互いに意見を交換し、さらに私が新たな問題提起の講義を行い、次ぎに読んでくる資料を指定する、という順番で進んでいくことになる。  (山中優准教授) 「人類に共通する課題または我が国社会全体にかかわる課題」を取り上げるべき総合演習として、この演習では、いまや国境を越えて人類社会全体を脅かしている「地球的問題群」のひとつたる地球温暖化＝気候変動問題について考えていく。地球温暖化に沈み行く国々の現状を生々しく伝えているテキストを題材として、地球温暖化＝気候変動問題の現状と課題を知り、それを解決していくために必要なこととは何かということ、ともに考えていく。	クラス分	
	情報処理 I (基礎)  パソコンやインターネットは、重要な教育ツールとなりつつある。本講義では、Microsoftの諸ソフトを使って授業データの整理や分析、イラストやアニメーションを使った教材開発の方法、プレゼンテーションの方法、インターネットによる資料収集、Webホームページの作成方法について説明し、課題演習を中心としたパソコン実習を行なう。		
	情報処理 II (応用)  本講義では、Iでの学習を踏まえ、さらにMicrosoftの諸ソフトを使って授業データの整理や分析、イラストやアニメーションを使った教材開発の方法、プレゼンテーションの方法、インターネットによる資料収集、Webホームページの作成に関する課題演習を中心としたパソコン実習を行い、最後に、自分の作成したWeb教材をネット公開して、利用者の評価を受けることを計画している。		
	情報処理 III (ネットワーク)  コンピュータを用いた情報処理をおこなう上で必要となる知識および操作技能のうち、ネットワークによる情報処理の活用法について理解を深めることを目的とする。具体的には、ネットワークを構築する上で必要となる機器に関する基礎知識と操作技術について解説し、動作環境に合わせたソフトウェアの設定方法ならびにネットワークサーバーの運用や情報通信技術の活用方法について実習するとともに、安全なネットワーク運営をおこなうためのセキュリティ確保の方法についても解説する。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	総合 基礎	情報処理Ⅳ(プログラミング)	コンピュータを用いた情報処理をおこなう上で必要となる基礎知識および操作技能のうち、アプリケーションソフトの開発方法についての習得を図る。具体的には、最新のBASIC系言語によるプログラミングについての知識および操作方法について解説し、開発環境を利用したコーディングを実習することを通じて、アプリケーションソフトの開発プロセスと、ソフトウェアの動作原理についての理解を深める。
	外国 語	英語基礎Ⅰ	英語を理解する基本となる文法・語彙を中心に学習する。英検やTOEICなどの資格試験も視野に入れ、英語運用能力の基礎となる文法力・語彙力を養成する。文法・語法問題を解き、基本的な文法事項の定着、語彙力増強を目指す。クラスのレベルにより、英検2級程度・英検準2級程度・英検3級程度の英語力の達成を目標とする。
	英語基礎Ⅱ	英語を理解する基本となる文法・語彙を中心に学習する。英検やTOEICなどの資格試験も視野に入れ、英語運用能力の基礎となる文法力・語彙力を養成する。文法・語法問題を解き、基本的な文法事項の定着、語彙力の増強を目指す。クラスのレベルにより、英検2級程度・英検準2級程度・英検3級程度の英語力の達成を目標とする。	
	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーション能力養成のため、「聞く・話す・読む・書く」という英語の4技能を総合的に学習する。30人規模のクラスで、4技能を伸ばすためのエクササイズを行う。今ある手持ちの英語力を活用し、英語を実践的に使う練習をすることにより、基礎的な英語運用能力の向上を目指す。	
	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーション能力養成のため、「聞く・話す・読む・書く」という英語の4技能を総合的に学習する。30人規模のクラスで、4技能を伸ばすためのエクササイズを行う。今ある手持ちの英語力を活用し、英語を実践的に使う練習をすることにより、基礎的な英語運用能力の向上を目指す。	
	英語総合Ⅰ	「英語基礎Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の単位を取得した者、もしくは「英語資格A, B, C」の単位を認定された者を対象とする。高度な英語運用能力を養成するため、「聞く・話す・読む・書く」という英語の4技能を総合的に学習する。4技能を伸ばすための様々なエクササイズを通して、今ある手持ちの英語力をフルに活用し、英語が実践的に使えるようになることを目標とする。	
	英語総合Ⅱ	「英語基礎Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の単位を取得した者、もしくは「英語資格A, B, C」の単位を認定された者を対象とする。高度な英語運用能力を養成するため、「聞く・話す・読む・書く」という英語の4技能を総合的に学習する。4技能を伸ばすための様々なエクササイズを通して、今ある手持ちの英語力をフルに活用し、英語が実践的に使えるようになることを目標とする。	
	英語資格対策Ⅰ	「英語基礎Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の単位を取得した者、もしくは「英語資格A, B, C」の単位を認定された者を対象とする。英語の資格試験である英検とTOEICの試験対策を行う。それぞれの試験でレベルアップするため、語彙を増やし、聴解・語法・読解問題に取り組む。英検では準1級取得、TOEICでは730点達成を目標とする。	
	英語資格対策Ⅱ	「英語基礎Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の単位を取得した者、もしくは「英語資格A, B, C」の単位を認定された者を対象とする。英語の資格試験である英検とTOEICの試験対策を行う。それぞれの試験でレベルアップするため、語彙を増やし、聴解・語法・読解問題に取り組む。英検では準1級取得、TOEICでは730点達成を目標とする。	
	英会話Ⅰ	このクラスの目的は、「英会話力」の養成です。「英会話力」とは、英語である程度の時間、会話を続けることができる能力です。そのため、授業はパートナーと英語で話すペア・ワークを中心に、グループ・ワークも取り入れて進められます。このクラスでは、英語をたくさん話すことが要求されます。「英語は私たちにとって外国語だから間違えても恥ずかしくない」という精神で、英語で話す練習をたくさんし、将来世界の人々に日本の文化や伝統を英語で発信していくための基礎を固めていきます。	
英会話Ⅱ	この授業はさらに高度なスピーキング能力を養成するためにペアもしくはグループで会話をを行うことを主体とする。流暢な英語を話すことを第一の目的とするが、正確な英語を話すという点も重視していきたい。会話を中心とした授業であるため、発音やイントネーション、トーンにもさらに注意を払い、意図したことが正確に伝えられるよう練習を重ねていきたい。授業はすべて英語で行われ、受講者同士の英語によるやりとりをすすめていきたい。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	外国語		
	英語資格A	「英語基礎Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の単位を取得した者、もしくは「英語資格A, B, C」の単位を認定された者を対象とする。外国人講師指導のもと、リスニング力とスピーキング力を向上させるエクササイズを行い、実践的コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。授業はすべて英語で行われる。	
	英語資格B	「英語基礎Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の単位を取得した者、もしくは「英語資格A, B, C」の単位を認定された者を対象とする。外国人講師指導のもと、リスニング力とスピーキング力を向上させるエクササイズを行い、実践的コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。授業はすべて英語で行われる。	
	英語資格C	この授業は、(財)日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定2級に合格・(財)国際ビジネスコミュニケーション協会が実施するTOEICの得点を470点以上に上げるために英語のリスニング力とリーディング力の向上を目標とした、英検2級に合格あるいはTOEICで470点到達を目指す人のためのものである。基礎的なリスニング力と読解力を養成することによりTOEIC470点レベルに到達することを目標にする。	
	ドイツ語Ⅰ	受講生が簡単なドイツ語を用いて、自分のことや身の回りのことを書いたり、話したりでき、また相手の言うことを理解することができるようになることを目的として、新しく習う文法事項を取り入れながら、簡単な挨拶や会話を中心にして講義する。その際にドイツ語と英語のちがいがい、さらには日本語とのちがいがいも理解してもらいたい。内容は、ドイツ語が発音でき、日常の挨拶、自己紹介ができるようにし、文法事項は過去のことが話題にできる程度のことまでを説明する。	
	ドイツ語Ⅱ	Iでの学習を踏まえ、さらに受講生が簡単なドイツ語を用いて、自分のことや身の回りのことを書いたり、話したりでき、また相手の言うことを理解することができるようになることを目的として、新しく習う文法事項を取り入れながら、簡単な挨拶や会話を中心にして講義する。その際にドイツ語と英語のちがいがい、さらには日本語とのちがいがいも理解してもらいたい。内容は、ドイツ語が発音でき、日常の挨拶、自己紹介ができるようにし、文法事項は過去のことが話題にできる程度のことまでを説明する。	
	ドイツ語Ⅲ	受講生が簡単なドイツ語を用いて、自分のことや身の回りのことを書いたり、話したりでき、また相手の言うことを理解することができるようになることを目的として、新しく習う文法事項を取り入れながら、簡単な挨拶や会話を中心にして講義する。その際にドイツ語圏の人々の考え方や物の見方、生活、文化などについても紹介する。内容は、ドイツ語の発音の基礎、日常の挨拶、自己紹介の仕方と簡単な初級文法の習得である。	
	ドイツ語Ⅳ	Ⅲでの学習を踏まえ、さらに受講生が簡単なドイツ語を用いて、自分のことや身の回りのことを書いたり、話したりでき、また相手の言うことを理解することができるようになることを目的として、新しく習う文法事項を取り入れながら、簡単な挨拶や会話を中心にして講義する。その際にドイツ語圏の人々の考え方や物の見方、生活、文化などについても紹介する。内容は、ドイツ語の発音の基礎、日常の挨拶、自己紹介の仕方と簡単な初級文法の習得である。	
	フランス語Ⅰ	フランス語という未知の世界との出会いによって、〈言語〉に対する新たな視点と感性を養うことをめざす。初級フランス語文法のテキストを用いて、講義形式の授業をする。フランス語の文法は体系として完成されている。言語を体系として理解することは、多様な知識を整理するさいに非常に有効であり、日本語や英語を異なった視点から捉えなおすことにもつながる。また、学生が自分で辞書等を用いて調べる時間を設け、得た知識の確認を行う。	
フランス語Ⅱ	Iでの学習を踏まえ、さらに〈言語〉に対する新たな視点と感性を養うことをめざす。初級フランス語文法のテキストを用いて、講義形式の授業をする。フランス語の文法は体系として完成されている。言語を体系として理解することは、多様な知識を整理するさいに非常に有効であり、日本語や英語を異なった視点から捉えなおすことにもつながる。また、学生が自分で辞書等を用いて調べる時間を設け、得た知識の確認を行う。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目  外国 語	フランス語Ⅲ	さまざまなシチュエーションでの会話を試みながら、フランス語を母国語として育つ人々の思考、行動を理解し、フランス語で簡単なコミュニケーションがとれるようにする。演習形式の授業を行い、ビデオ教材を用いて、決まり文句の用法やその際の身振りを見ながら、文化の相違にも留意していく。また、ロール・プレイなどを通じて、実際に声を出す時間を多くとるようにする。	
	フランス語Ⅳ	Ⅲでの学習を踏まえ、さらにさまざまなシチュエーションでの会話を試みながら、フランス語を母国語として育つ人々の思考、行動を理解し、フランス語で簡単なコミュニケーションがとれるようにする。演習形式の授業を行い、ビデオ教材を用いて、決まり文句の用法やその際の身振りを見ながら、文化の相違にも留意していく。また、ロール・プレイなどを通じて、実際に声を出す時間を多くとるようにする。	
	ポルトガル語Ⅰ	本授業は、初めてポルトガル語を習う人たちを対象とする。ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を徹底的に学び、今後ポルトガル語の学習を続けていくうえで必要となる基礎力の養成を目的とする。この授業では、決まり切った表現を丸暗記する形ではなく、基礎をしっかりと学ぶことによって、日常生活で必要な基本的な会話が自ら話せて聞けるようになるための応用力を身に付けることを目指している。	
	ポルトガル語Ⅱ	本授業は、Ⅰでの学習を踏まえ、ポルトガル語の知識を有する人たちを対象とする。既に学んだポルトガル語の基礎知識をさらに発展させ、言語の総合的理解と習得へと展開させていくことを目的とする。この授業では、決まり切った表現を丸暗記する形ではなく、基礎をしっかりと学ぶことによって、日常生活で必要な基本的な会話が自ら話せて聞けるようになるための応用力を身に付けることを目指している。なお、語学の学習は積み重ねの結果であるため、授業は、受講者の復習を前提に行う。	
	ポルトガル語Ⅲ	本授業は、初めてポルトガル語を習う人たちを対象とする。ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を徹底的に学び、今後ポルトガル語の学習を続けていくうえで必要となる基礎力の養成を目的とする。この授業では、決まり切った表現を丸暗記する形ではなく、基礎をしっかりと学ぶことによって、日常生活で必要な基本的な会話が自ら話せて聞けるようになるための応用力を身に付けることを目指している。	
	ポルトガル語Ⅳ	本授業は、Ⅲでの学習を踏まえ、ポルトガル語の知識を有する人たちを対象とする。既に学んだポルトガル語の基礎知識をさらに発展させ、言語の総合的理解と習得へと展開させていくことを目的とする。この授業では、決まり切った表現を丸暗記する形ではなく、基礎をしっかりと学ぶことによって、日常生活で必要な基本的な会話が自ら話せて聞けるようになるための応用力を身に付けることを目指している。なお、語学の学習は積み重ねの結果であるため、授業は、受講者の復習を前提に行う。	
	中国語Ⅰ	中国語入門の授業である。まず、中国語の発音を表すローマ字表記（ピンイン）の読み、書きの習得に始まる。その上で、基本的な文法知識を学び、ペアでの対話練習などを通して中国語の基礎を習得する。 『大学生生活』というテキストを通して、中国の大学生の勉強、考え方、趣味などを紹介し、中国文化を学ぶ。また、中国のテレビ番組などを見てもらい、変化中の中国をリアルに紹介する。	
	中国語Ⅱ	Ⅰでの学習を踏まえ、さらに中国語の発音を表すローマ字表記（ピンイン）の読み、書きを習得し、その上で、基本的な文法知識を学び、ペアでの対話練習などを通して中国語の基礎を習得する。 『大学生生活』というテキストを通して、中国の大学生の勉強、考え方、趣味などを紹介し、中国文化を学ぶ。また、中国のテレビ番組などを見てもらい、変化中の中国をリアルに紹介する。	
	中国語Ⅲ	中国語会話を中心とする入門授業である。北京っ女子留学生陶玲と日本人吉田さん一家とのふれあいの物語を通して、中国の生活、文化を、日本との比較を交えながら紹介し、基礎的な中国語を学ぶ。 『陶玲日記』というテキストの短い日記の部分は、陶玲が綴った簡単な文章で、それは会話文の背景紹介にもなっている。学習者はテキストを手本にして、中国語で日記を書く練習をする。簡単な置き換え練習を多く用意し、ペアで楽しく会話を練習してもらおう。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	外国語	中国語Ⅳ Ⅲでの学習を踏まえ、さらに北京っ子女子留学生陶玲と日本人吉田さん一家とのふれあいの物語を通して、中国の生活、文化を、日本との比較を交えながら紹介し、基礎的な中国語を学ぶ。 『陶玲日記』というテキストの短い日記の部分は、陶玲が綴った簡単な文章で、それは会話文の背景紹介にもなっている。学習者はテキストを手本にして、中国語で日記を書く練習をする。簡単な置き換え練習を多く用意し、ペアで楽しく会話を練習してもらう。	
	外国語Ⅰ	この科目は、皇學館大学と協定締結校である英国ノーサンプトン大学との間の交流覚え書きに基づく、学生交流に参加するための事前事後指導を目的とする。ノーサンプトン大学での短期語学研修・授業への参加、イギリス事情や外国語に関する英国滞在中の対応等の事前研修、および帰国後の事後指導を行うものである。	
	外国語Ⅱ	この科目は、皇學館大学と協定締結校である中国河南大学との間の交流覚え書きに基づく、学生交流に参加するための事前事後指導を目的とする。河南大学での短期語学研修・授業への参加、中国事情や外国語に関する中国滞在中の対応等の事前研修、および帰国後の事後指導を行うものである。	
共通 科目	日本文化と世界	神道 本授業科目の目標は、神道の基本概念を理解するとともに、その成立と展開を日本文化の成立と展開を視野にいれつつ学ぶこと、および、日本や日本人についての理解についても関連づけながら学習するとともに、地域社会における神社の果たしてきた役割を考えることである。 本授業科目の授業計画は、はじめに、神道の基本概念、神道の成立、神道の展開、日本の文化と神道、日本人と神道、地域社会と神社、各地の神社(1)～(7)、おわりにそれぞれを解説する。	
	哲学	古代・中世の西洋哲学とインド哲学の入門書等を通して、日常生活でも使われる哲学的な用語の意味について学び取りつつ、古代ギリシアとインドの哲学の間に共通した考え方を検討し、現代につながるインド・ヨーロッパ語族の古典に見る普遍的な思索の方法とその歴史的展開、論理的に思考する過程の学習を通して、ものごとの原因と結果の関係、個と全体の関係、ないし人生の目的性等について自発的に考える力を身につけることを目指す。	
	言語学	はじめて言語学に接する受講生に、ことばに対する興味を持たせ、ことばについて意識的に考えるようになるきっかけを提供することを目的として、言語学が扱う対象は我々が日常用いていることばであり、言語学のテーマは我々のまわりのいたるところにあることを認識させる。内容は、まずことばの特性について、ことばと文化、記号としてのことば、人間のことばの特性について考察し、ついで言語学の諸分野のうち音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論を取り上げて考察する。	
	日本の歴史	日本歴史上、政治、経済、外交、芸術文化などの各分野において、激動の時代を切り開き発展に貢献した人物をとりあげ、その人物が生きた時代背景と直面した課題、志向、果たした歴史的意義などについて講義する。人物中心の歴史を通して先人の業績と心を学ぶことにより、伝統・文化がいかんして継承されたか、その結果としての日本歴史の特性に注目し、現在に生きる我々が歴史的存在であることへの理解を深める。一人一人が過去の歴史的遺産が集約された存在であり、同時に後世に豊かな文化遺産を伝える責任を担っていることの自覚を促す機縁とする。	
	日本の文学	源氏物語や枕草子などの著名な文学作品を取り上げ、作品内に描かれる風俗や制度について様々な角度から考察を加え、個々の作品が作られた時代背景に関する知識と作品内容の理解を深めることを目的とする。また、現代における風俗や制度と比較することで、我が国固有の思想や文化の特性を明確化し、その起源と変遷の経緯に関する興味を促すとともに、日本文化を正しく理解し、自ら学ぶ態度を養う。	
	日本の思想	日本古来の情緒、道徳、哲学などを、神話・歴史などを素材として学び、自国の国民性の「光と影」の両面を、事実をもととして学び、それらの作業を通じて、国際化社会の中で、今後ますます必要とされる日本人としての自覚を養う。神話、天皇、武士道など、長く忘却されてきた「日本の心」を、自己の内に自覚的に認識することは、新しい「教育基本法」を護り、活かすという意味でも、今後必須の教養となるはずである。	



# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	現代と生活	日本の民俗	日本民俗学の中心的テーマについて講義を行う。 民俗学は、フィールドワークを通じて、人々のくらしの現実を知り、理解し、考えていこうとする学問である。本講義では、年中行事、祭り、冠婚葬祭、衣食住、消費・メディアなど、受講者に身近なトピックを取り上げ、スライド・ビデオ等でのフィールドワーク疑似体験もまじえながら、「日本のくらし」を考える手がかりを提供したい。受講生誰もが当事者である「日本のくらし」について、基本的概念を理解し、意見が述べられるようになることを到達目標とする。
	世界の歴史	世界の歴史からとくに重要と思われるテーマを選び、主要人物を中心として詳しく解説していく。 題材は西洋近代史から取り上げることとするが、それはわれわれが生きる現代とのつながりを認識するためである。それが受講者それぞれが歴史を学ぶきっかけとなり、自興味をもった歴史のテーマを各自で深く調べる一助となるはずである。	
	世界の思想	世界の思想の中でも、とくに中国の思想は、我が国を含め、琉球・朝鮮・ベトナムなど東アジア周辺諸国に大きな影響を現代に到るまで及ぼしてきており、そうした思想的背景を理解することなしに個々の教育を行うことはありえない。本講義では、中国の思想を中心とする世界の思想を歴史的・学問的に概観した上で、その日本に対する影響や果たしてきた役割についても考察する。またこうした思想的理解を深めることにより、教育実践にあたっての世界的視野の涵養を図る。	
	法学（日本国憲法）	本講義は、憲法に関する基礎的知識の習得とともに、憲法を通してリーガル・マインドの涵養をはかることを目的とする。講義は、憲法の内容等の基本的事項の説明をした後、日本国憲法の章立てに沿って解説する。日本国憲法の解説では、基本的な用語や概念を説明し、学説の対立点を検討し、裁判上の問題点を考察する。憲法学の中心は解釈論であるが、そこで大切なのは、単に結論を覚えることではなく、なぜそのような結論になるのかという思考の過程である。ここに重点をおいて講義を行う。	
	政治学入門	北山俊哉・真淵勝・久米郁男著『はじめて出会う政治学 新版』（有斐、2003年）をテキストとして、「政治と経済」、「政治と社会」、「政治のしくみ」、「政治と世界」、この4つのテーマに沿って、政治学の入門的な内容を解説していく。その際、コンビニや携帯電話など、学生が関心をもちやすい身近なテーマを取り上げつつ、政治学に初めて出会う学生が、具体的な政治現象を分析するための理論について分かりやすく理解できるよう、導いていく。	
	経済学入門	スライドと板書を適宜交えながら授業を行うと共に、楽しく学べるように、ロールプレイ形式の「経済学ゲーム」を取り入れる。経済学入門の講義目標は、①計算技術ではなく社会を見る視座として教える側が効率と公平に関する基本的な考え方を理解すること、②幼児の思考練習として教えられるようにすることの二つである。この講義ではトピックを厳選し論理的に緻密な経済学の講義をする。消費者理論を軸とした市場取引の理論、公共経済学、マクロ経済学、財政学、労働経済学を取り上げ、入門的な講義をする。	
	社会学入門	この授業では、社会学の基本的な見方や発想、概念を身につけることを目標としている。この目標を達成するために、題材として、現代の消費社会化をとりあげる。地域社会や家族の解体が叫ばれる中、それと平行して、これまでは商品となりえなかったものが、現在、ビジネスの対象となり、商品化されてきている。その結果、我々は消費しなければ生活できないような状況になってきている。その結果起きる様々な問題を、履修者の生活を振り返りながら、社会的に考えていきたい。	
	統計学入門	スライドと板書を適宜交えながら授業を行うと共に、パソコンによる演習を組み合わせる。その際、身近なデータを用いて実際の統計資料を作成し、数字に対する感覚を養う。統計学入門の講義目標は、①社会を見る視座として教える側が統計数字に対する基本感覚を養うこと、②基本的な数字の感覚を教えられるようにすることの二つである。この講義では、次のテーマに話題を絞って身近な例を取り上げて入門的な講義を行う：データの性質、データの整理、データから得られる指標（平均と標準偏差）、簡単な推定と検定。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	現代と生活	心理学入門 多岐の分野にわたる心理学についてわかりやすく図解された教科書をもとにして、基礎的な知識を体験的に習得することを目標とする。 「心理学の誕生とこれまでの歩み」「記憶のメカニズム」「知覚の不思議」「学習心理学」「バウムテスト」「欲求の葛藤と合理化」「性格」「発達心理学」「人を愛するとは?」「社会と人間関係の心理学」「子どもと家庭」「無意識の発見」「心の病と臨床心理学」「心理療法」などのテーマについて、受講生が自身の心の世界と向き合うこと、さらに、レポートを通じて他者の心の世界に触れることを計画している。	
	現代と福祉	現在わが国では、少子高齢化が進展し、家庭においてさまざまな問題が発生してきている。それらの問題への対応は、地方自治体によって実施される金銭給付や在宅サービスなどの社会福祉の制度やサービス、また自治会活動やボランティア活動といった、地域における助け合いによって対応されている。本講義では、現代の福祉問題について概観するとともに、その問題を解決する社会福祉の制度やサービス、その他の様々な住民活動について学習することを目的とする。	
	現代と健康	「食育」のために必要な知識を身につけるために行う講義内容は次のようである。〔1〕食物繊維の効用〔2〕青い魚のEPA及びDHAの効用〔3〕ビタミンCの多様な作用〔4〕ビタミンDの生成とその多様な作用〔5〕ビタミンEの多様な作用〔6〕乳児から幼児期における栄養〔7〕学童期における栄養〔8〕思春期・青年期における栄養〔9〕成人期における栄養〔10〕メタボリックシンドローム(内臓脂肪型肥満)の原因とその予防法〔11〕脂肪肝、高脂血症、高血圧症、糖尿病を治すための食事療法〔12〕その他の疾患別食事療法〔13〕更年期における栄養〔14〕老年期における栄養などライフステージ別の栄養について学ぶ。	
	現代と教育	現代の教育の基本形は、戦後の開始時期に形成されたと考えられる。そこで、そうした認識の上に立ち、教育勅語廃止、教育基本法の制定、6・3・3制度の導入など戦後の占領期間中の占領政策やその教育改革についての理解を深める。そして、その後の教育施策、教育思潮、教育改革論議などを概観し、その問題点や矛盾を指摘して批判を加えて考察する。そして、そうした問題点を是正していくには、どのような教育改革が必要であり、家庭や学校においてどのような教育が求められるのかを提示する。	
	現代の課題	現代社会では新聞、放送、ネットなどで日々、膨大な情報が垂れ流されている。そんな状況にあるマスコミ報道から本当の情報をどうたくり寄せ、物事の本質をどう読み解くか、実際の事件や事故、国際問題を提示しながら分かりやすく解説する。911テロ前と後のアフガニスタンからなにが見えるか、米国の戦争報道がベトナム戦争、アフガニスタン侵攻、イラン侵攻ではどう違うのか、そこに垣間見える報道の問題点とはなにか、国内新聞報道における良い記事、悪い記事の例を挙げて解説する。その解説を通じて、新聞記事の自分なりの読み方を学ぶ契機にする。また、日々、記事を書いている記者達の様々な問題点を抉りだし、提示させる。今の大手新聞社を経営的側面から、今後どのように新聞業界が変遷するかを考察する。	
	人権論	この講義では、人間らしく生きることを人権の基本と捉え、人権尊重の精神を涵養していくために何が必要か、そのためにどのような試みがなされたかを理解することを目標に掲げていく。そこから、①社会の中で軋轢に苦しみ、差別を受けてきた人々の歴史に学ぶ。②人権尊重を法的に根拠づけてきた考え方や具体的な法律について学ぶ。③一人一人を大切に、他人の立場に立てる教育の実践方法に学ぶ。④地域社会における人権尊重を柱とする施策やまちづくりの手法に学ぶ。この4点を骨組みとする授業計画をたて、人権への理解を深めていく。	
自然と科学	数学 日常の事象と関連性のある様々な数学の問題を解きながら、事物を数理的にとらえ、思考・処理することを体験し、数学の有用性に気付くことを目的とする。数学の分野は多岐にわたるが、本講義では、それぞれの入門的知識について解説し、実際に問題を解く。それぞれの関連性についても気付いてほしい。各種採用試験および職業人となった時に、必要な教養知識としての数学を身に付けることを目標とする。 (1) 集合(2) 数と集合(3) 数の表記非十進記数法(4) いろいろな数(整数論)(5) 数列(6) 文字と式(7) 対応と関数(8) ユークリッド幾何(作図)(9) ユークリッド幾何(図形の証明)(10) 空間図形(11) トポロジー(12) 記述統計(表・グラフ)(13) 記述統計(分布の様子を表す代表値)(14) 確率(1)(15) 確率(2)		

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	自然と科学		
	生物学	この講座は、高校で生物を履修しなかったり、大学受験で生物を選択しなかった学生にも生物学の基礎知識を習得してもらえよう、やさしく、丁寧に説明する。この講義を通して作成したノート(プリント)は将来の公務員や教員採用等の就職試験にも役立つ参考書になるので、これを作成することも主な目的の1つとする。(1) 生物の定義と細胞 (2) 体をつくる構成成分と機能(3) 呼吸の仕組み(4) 光合成の仕組み(5) 細胞が増える仕組み(6) 遺伝の法則(7) DNA(8) タンパク質合成(9) バイオテクノロジー(10) 神経系(11) 動物の行動(12) ホメオスタシス(13) 自律神経系とホルモン(14) 生態系(15) 生命の起源と進化論	
	化学	化学は物質とその変化を原子・分子のレベルで考える学問である。私達の身の回りには様々な物質がある。それどころか私達の体も総て物質であるし、生物の体内では絶え間なく化学変化が起こって生命を維持している。教養科目として「身の回りの化学」を主題に「1. 元素の誕生、2. 原子と分子、3. 環境の化学、4. 燃焼の化学、5. 物質の三態、6. 水と大気の化学、7. 金属と炭素・プラスチックの化学、8. タンパク質と遺伝の化学」を講義することで、身の回りの物質や現象に化学的な見方・考え方ができるようになることを目標とする。授業形態は講義で行う。	
	物理学	私たちの身の回りから宇宙全体にわたって、自然界のすべての現象は物理学の原理によって進行している。自然界の謎を解く、自然を有効に利用する、自然を破壊しない、これらためにはどうしても物理学の原理に接することとなる。この授業では、私たちに身近な諸現象を題材として物理学の原理に接し、基礎知識を習得し、物理学の目を通して理解することを体験し、その有効性を学び、具体的問題へ適用する習慣を身につける。これが、この授業の授業目的であり、到達目標である。高校で物理を学んでいない学生、どうも物理になじめない学生達は多少努力を要するが、ビデオ、演示実験などを通して理解を促す。	
	天文学	宇宙は、時空物質一体での進化という神秘に満ちた、そして何よりも厳然たる事実としてその宇宙の中に地球が、その中に自分が存在する事、この事を認識するか否かが、人類のひいては自分の未来への道を決定するといえる。(1) 導入…宇宙へそして宇宙から地球を見る(2) 地球①空を見上げて(星座の話)(3) 地球② 星は巡る(天体の動きと人々の生活)(4) 地球③ 地球を巡る(宇宙船から)(5) 地球④ 地球の旅(過去・現在・未来)(6) 地球から月へ(宇宙旅行の始まり)(7) 月世界(月が教えてくれる事)(8) 太陽とは(恵みと驚異)(9) 地球の兄弟の星達(惑星の世界)(10) 恒星とは(太陽の仲間たち)(11) 恒星の進化(くりかえす誕生から死まで)(12) 銀河系(恒星の大集団は宇宙を語る)(13) 宇宙の果てとは(果ては始まり…時空融合)(14) 地球はどこから見えるか(奇蹟の星・地球)(15) 緑の地球(生命環境としての地球)	
	環境地理学	自然環境の変化と人間の歴史は密接にかかわっており、自然環境の変化によって人びとは飢饉にさらされ、また生活の場の移動を余儀なくされて、与えられた環境に適応しながら暮らしてきた。講義では、「文明と環境」をテーマに、人間の活動を自然環境の変化という視点から捉え直し、地球環境の変化と古代文明の盛衰や現代文明、21世紀の文明とのかかわりを明らかにする。その際に、ビデオやスライド、OHC、パソコンソフトなどの視聴覚教材を用いて理解を深める。	
自然地理学	自然地理学は、地球表面における自然現象を地域的な観点から究明するとともに、人間生活の自然的基盤あるいは人類活動の環境として捉えることを目的としている。講義では、「映像や画像で学ぶ地球環境」をテーマに、地球と自然環境を構成する地形や気候、植生、土壌、水分などについて理解する。その際に、映画やテレビ番組、ビデオなどの映像やインターネットのホームページ、スライド、OHC、パソコンソフトなどの画像を通して、地球の自然環境全般と環境問題について理解を深める。		
自然科学史	自然科学とは自然に起こる現象について観察・研究し、自然現象の根幹にかかわる一定の法則性を見いだすことによって、人間の生活に役立せることを目的とした学問体系である。この学問の歴史はその時代の政治や経済状況によって生まれたり消失したり、より発展したり停滞したりを繰り返す。この講義では生物学を中心に物理、化学、地学と幅広い分野の歴史について学び、そのときの時代背景や学問誕生の経緯について理解することによって、科学に親しむ態度を養う。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 科目	伝 統 の 心 と 技	武道Ⅰ (柔道・剣道・薙刀)		
		<p>(柔道) 増井節郎教授 柔道は、国際的にも「JUDO」と訳される世界に広がった日本古来の武道(スポーツ)である。柔道の技を覚え、戦い勝敗のみを決する或いは自分の身を守る護身術としてではなく日本人が真の国際人となるために、柔道を通じて礼儀を重んじ、相手を尊重するなどの日本の心を理解させ、自己の姿を省みさせたい。柔道Ⅰでは基礎を教え中級、上級への足がかりとしたい。</p> <p>(剣道) 川口正人兼任講師 以前より剣道を継続し熟達している者、今はやっていないが高等学校時代までの経験者、そして初めて竹刀を持つ者の三クラスに分けた授業形態とし、最終的には初心者も道具をつけ相手と打突し合うことができる計画を立てる。扱、礼、正義、勇気、集中力等、精神面の用語を引用し心の教育。また、敏捷性、功緻性等の身体面の育成。大きくは剣道の理念である「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」といった武道精神を基にして、現在の殺伐とした世相に生きる学生たちに自己の姿を省みさせ、剣道の実技を通じて日本の心を理解させる。</p> <p>(薙刀) 福田啓子兼任講師 薙刀の修練によって、心身をバランス良く発達させ、健全な身体を育成することを目指す。礼儀を重んじ、対人関係の在り方を学び、相手を尊重したり協力する態度を日本の伝統文化から学ぶ。授業計画としては、薙刀の歴史と構造を最初におこなう。次に、伝統的服装の着脱を慣れさせ、対人動作の礼儀作法を教える。その後、基本動作(体さばき、持ち方と構え方、振り方)から組み合わせ技(わざ)としての形や防具を着用した試合法へ進む。</p>	クラス分	
		武道Ⅱ (柔道・剣道・薙刀)	<p>Iでの修得を踏まえ、さらに上達を目指す。</p> <p>(柔道) 増井節郎教授 柔道は、国際的にも「JUDO」と訳される世界に広がった日本古来の武道(スポーツ)である。柔道の技を覚え、戦い勝敗のみを決する或いは自分の身を守る護身術としてではなく日本人が真の国際人となるために、柔道を通じて礼儀を重んじ、相手を尊重するなどの日本の心を理解させ、自己の姿を省みさせたい。柔道Ⅰでは基礎を教え中級、上級への足がかりとしたい。</p> <p>(剣道) 川口正人兼任講師 以前より剣道を継続し熟達している者、今はやっていないが高等学校時代までの経験者、そして初めて竹刀を持つ者の三クラスに分けた授業形態とし、最終的には初心者も道具をつけ相手と打突し合うことができる計画を立てる。扱、礼、正義、勇気、集中力等、精神面の用語を引用し心の教育。また、敏捷性、功緻性等の身体面の育成。大きくは剣道の理念である「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」といった武道精神を基にして、現在の殺伐とした世相に生きる学生たちに自己の姿を省みさせ、剣道の実技を通じて日本の心を理解させる。</p> <p>(薙刀) 福田啓子兼任講師 薙刀の修練によって、心身をバランス良く発達させ、健全な身体を育成することを目指す。礼儀を重んじ、対人関係の在り方を学び、相手を尊重したり協力する態度を日本の伝統文化から学ぶ。授業計画としては、薙刀の歴史と構造を最初におこなう。次に、伝統的服装の着脱を慣れさせ、対人動作の礼儀作法を教える。その後、基本動作(体さばき、持ち方と構え方、振り方)から組み合わせ技(わざ)としての形や防具を着用した試合法へ進む。</p>	クラス分
		武道Ⅲ (柔道)	<p>武道Ⅲでは中級への技を覚え、実際の「試合」を行ない、体力、特に気力を養いたい。武道のもつ日本の伝統的な運動文化的特性を柔道の学習を通して、わかりやすく段階的に体感しながら理解し、学習する。特に対人的技術特性の魅力を中心に学習する。また、柔道の初心者指導法についても理解を深め、その能力を高める。柔道の実践を通し、礼儀を重んじ、相手を尊重するなどの日本の心を理解させた上で、実際に試合をし、健全なる心身を育成するとともに、何事にも挑戦していく気力を養わせる。</p>	
	武道Ⅳ (柔道)	<p>Ⅲでの修得を踏まえ、武道Ⅳではさらに中級への技を覚え、実際の「試合」を行ない、体力、特に気力を養いたい。武道のもつ日本の伝統的な運動文化的特性を柔道の学習を通して、わかりやすく段階的に体感しながら理解し、学習する。特に対人的技術特性の魅力を中心に学習する。また、柔道の初心者指導法についても理解を深め、その能力を高める。柔道の実践を通し、礼儀を重んじ、相手を尊重するなどの日本の心を理解させた上で、実際に試合をし、健全なる心身を育成するとともに、何事にも挑戦していく気力を養わせる。</p>		

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	伝統の 心と技		
	書道Ⅰ	書写・書道教育の指導に必要な基本的な知識や指導方法を学び、それを実践するための書写能力を養うことを目標としている。さらに漢字の成り立ちから篆書・隸書・草書・行書・楷書と変遷してゆく歴史を各書体・書風を実践することにより学習し、漢字文化の日本への伝来や受容の過程も学習して行く。また、文字を手書きすることが我々の生活の中でどのような意味を持ち、漢字が日本文化とどのようにかかわってきているかを、実践を通して深く認識することを目的としている。	クラス分
	書道Ⅱ	Ⅰでの学習を踏まえ、さらに書写・書道教育の指導に必要な基本的な知識や指導方法を学び、それを実践するための書写能力を養うことを目標としている。さらに漢字の成り立ちから篆書・隸書・草書・行書・楷書と変遷してゆく歴史を各書体・書風を実践することにより学習し、漢字文化の日本への伝来や受容の過程も学習して行く。また、文字を手書きすることが我々の生活の中でどのような意味を持ち、漢字が日本文化とどのようにかかわってきているかを、実践を通して深く認識することを目的としている。	クラス分
	伝統の心と技 1	(マナー) 本講座は、日本の伝統的な「相手を思いやる心」に通じる感性豊で品格ある日本人のあり方を、現代を生きる私たちの心のよりどころとして思い出し探っていく。グローバル化、ボーダレス化が益々進む時代において、「マナー・プロトコール」は相互理解を深める上での「コミュニケーション能力」としても欠かせない万国共通の要素である。文化・歴史・宗教・習慣の違う人間同士がより友好的かつスムーズに交流するため、また今後の就職活動や社会生活、ひいては人間の魅力を高める「不可欠な学び」と位置づけ、いろいろな観点から幅広く考察していく。	
	伝統の心と技 2	(茶道) 日本の代表的な伝統文化である「茶道」を学ぶことにより、人として大切な思いやりの心、感謝する心、謙虚な心等を身につけさせる。また、点前の実技を通して、立ち居振る舞いや人への対応の仕方等、日常生活の作法を身につけさせる。さらに、茶道は海外において、日本の代表的な文化として認識されており、茶道を通して日本人としての在り方を知らせるとともに、品格のある学生を育てる。	
	伝統の心と技 3	(能) 2001年、ユネスコの世界無形遺産第1号の宣言を受けた能(楽)は、歌舞伎、文楽と共に我が国を代表する伝統芸能である。650年間に亘り演じ続けられてきた芸能の魅力とは何か？能の基本要素である「謡」と「仕舞」の二つの所作を実技体験し、身をもって能への理解を深めることが狙いである。発声や所作を体感することによって、能の長い歴史とその普遍美を探る。また、能を構成する他の要素、囃子の魅力や能面・能装束などにも触れ、多角的に能を理解していく。	クラス分
	伝統の心と技 4	(伝統建築) この講義の目的は、伝統建築の様々な姿を学ぶことを通じて、日本の伝統文化に込められている心と技の美しさの真意を学ぶことにある。日本の伝統文化の本質は「尊いものを貴ぶ」心を表す技であると考えている。その心を縦軸に、技の姿を横軸に、伝統建築に込められた日本文化の「心と技」の真意を読み解く力を、資料と動画・画像を使って、視覚的にも伝授し、考察することを目標とする。	
	伝統の心と技 5	(雅楽) 雅楽は日本が誇る伝統文化の一つである。その歴史は古く、世界的に最も古いオーケストラの形式を持つ。その完成度、音の持つ美しさは、現在に至っても人々を魅了してやまない。この音楽は宮中をはじめ社寺の祭典・法要など宗教的な場でも、祭礼・儀式音楽として用いられており、幅の広い特質性を持つ。本講義では「龍笛」の演奏法を教授するとともに、雅楽の歩んできた歴史概要と意義、そして祭典の中での演奏法や楽士の役割なども指導する。	
伝統の心と技 6	(伝統工芸) この講義は、伝統文化を支える様々な伝統的工芸を学びつつ、そこに込められた心と技の真意を学ぶことを目的とする。我が国には古来より今日まで、風土に育まれた素材をよく生かし、心のこもった手仕事による精緻な技術と繊細な美意識に支えられた、世界に誇りうる優れた伝統的工芸の技術が蓄積されています。陶磁・染織・漆芸・金工・和紙・木工などの代表的な工芸分野を取り上げて、それぞれの製法や特徴、鑑賞のポイントなどの基礎知識を、資料と動画や画像を使って、視覚的にも楽しく伝授しつつ、伝統工芸に込められた日本文化の「心と技」の真意を読み解く力を養うものとする。		

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 伝統の心と技	伝統の心と技7	(江戸の芸能史) 江戸時代、世の中が安定し、多くの文化芸能が開花したが、その中で人々の心を捕らえ、認められ、受け継がれたものだけが、現在「古典芸能」と呼ばれている。江戸の頃は現在のように教育機関が発達していないが、この文化芸能が教育の一環を担い、また人々の規範になっていたといわれている。特に芝居・落語・講談等が果たした役割は大きいものがあるが、この講義で何が江戸庶民の心を捕らえたのか、笑いはどうして誕生するのかを落語・歌舞伎を中心に紹介し、ともに味わい、探っていく。	
	伝統の心と技8	(伝統文化の技法) 日本の伝統文化には独創的な工夫と技法があり、例えば、中国から取り入れた漢字から万葉仮名を作り出し、さらに世界でも類をみないカタカナ、ひらがなをつくり出し、日本の文化を発展させた。大きなものを改良して形、質ともに小さなものを作るという思想は物づくりにも応用されている。現在、世界一といわれる日本の物づくりの技法は、奈良時代の大仏建立、日本独特の「たたら製法」にもみられるが、このような日本古来からの伝統文化にまつわる技術と方法を具体的なエピソードを交えて紹介していく。	
	伝統の心と技9	(和歌) 我が国には、万葉集以来の和歌の伝統があり、今も多くの人々に和歌は読み継がれ、また詠まれている。本講義では、古来の名歌を鑑賞し、和歌の歴史とその心を理解することを目的の一つとする。さらに、各自が和歌に親しみ、作れるようになることを目的とする。口語ではなく古来の文語、定型を重んじた作歌を目指したい。あわせて文語や歴史的仮名遣いにも慣れてもらいたいと考える。なお、大島教授とともに、岡野弘彦講師にゲスト講師として和歌に関する特別講義を2回行っていただく。	
	伝統の心と技10	(おかげ参り) 現代の伊勢参宮は、ヘリコプターで富士山に登頂しているようなものである。近代交通の発達する以前の参宮は、北は北海道から南は九州の鹿児島まで、多くの参宮者が「せめて一生に一度でも」と唄い、伊勢の神宮を目指して巡礼をしていた。本講座は、当時の人々が伊勢を目指して歩いた県内の参宮街道(主要街道7本)の歴史を調べ、実際に歩くこと(「伊勢まで歩講」と称す)によって、参宮の持つ意味を考える。	
	伝統の心と技11	(詩吟) 漢詩や和歌を通して、人間としての道や自然に対する思いや情景、その時その時代の出来事や当時の人たちの思いなどを、様々な観点から想起させたい。そのために文化芸能の一つである『詩を吟じる』事によって表現する場を作りたい。詩吟に対して興味・関心を持って取り組み、楽しみながら朗詠する態度を身につけさせたい。詩吟を披露する場を設けると共に、詩吟を味わい、その奥深さなどを感得させたい。詩吟を朗詠することは、ひいては健康増進の一助になることを朗詠しながら会得し、目標とさせたい。	
	伝統の心と技12	(和装) きものを着ることは日本の祖先の心を着ることであり、伝わってきた伝統を着るということである。古代から自然との関わりで生まれた日本独自の美しい色、布、花鳥風月を描いた柄や、多くの間など、繊細で美しい和装の伝統と文化を知り、まとうことで民族の誇りとゆとりを取り戻していただきたい。本講座の目的は、和装という尊く美しい先人たちの美意識を現在に引き継ぐことにある。実際に着装も体験し、考察を深めていきたい。	
人生と仕事	人生と仕事	・オリエンテーションと導入講義(1回)：今後の全体の進め方を説明し、導入講義として「溶けゆく日本人」の実態の紹介および「今、日本人に問われていること」についての講義。加えて、課題テーマを与えレポートを課す。・国際人とは？のテーマで講義(1回)：曖昧な定義の再考。日本人のアイデンティティや日本人の智慧を振り返らせる。・グローバルゼーションは正しかったか？(1回)：日本的経営理念を再考させ、現在の企業経営と比較検討させる。レポートも課す(予定)。・学校制度についての講義(1回)：寺子屋から戦後の学校制度。教育勅語や教育基本法の概要(討論会含む予定)。・情報リテラシーについて(1回)・2の十二条の人生とセレンディピティについて(1回)上記の講義に加えて、二回程のチーム・ディベートの予定。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	人生 と 仕事  ビジネス実践論	<p>実社会で活躍する職業人(会社社長2名・元地方議会議長1名・地方公務員3名)からビジネスの方法を実践的に学び、職業選択への明確な意識を形成することを目的とする。この科目ではマナーなどの表面上の作法だけではなく、官と民との異なりや、ビジネスを実際に進めていく上での背景となる哲学の存在にも目を向けながら、そのありようを捉え、職業人たちがそれぞれのビジネスの場でどのような点にやりがいを見出しているかについて「地域づくり」を例として演習形式で展開する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (齋藤 准教授/2回) (1) 授業目的と講師紹介と(8) 総括を担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (山下 数奈講師/1回) (2) 文学部での学びと異業種、について演習形式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (岩佐 政徳講師/1回) (3) ものづくりの魅力、について演習形式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (山出 公一郎講師/1回) (4) 地域デザイナーとしての公職、について演習形式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (井上 雅平講師/1回) (5) 公と民、市職員の実務、について演習形式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) 岡田 美千江講師/1回) (6) 提案型公務員のあり様、について演習形式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (野間 紀子講師/1回) (7) 県職員の実務、について演習形式で授業を行う。</p>	オムニバス方式
	生涯学習概論	<p>現代は「生涯学習の時代」といわれ、改正された「教育基本法」では第3条に『生涯学習の理念の実現』がうたわれている。では、生涯学習の理念とはどのようなものなのだろうか。</p> <p>この授業は、図書館や博物館で働くだけでなく、教育を考えるにあたって必須といえる、生涯学習という考え方の現代社会における意義・意味を知ってもらうことを目的とする。</p> <p>このため、授業では近代社会の歴史を概観し、そこで教育の果たした役割を確認した上、現代の社会・教育が直面する課題を解決するための教育・人生の革新の提案としての生涯教育・生涯学習の考え方とその基にある生涯発達の見方を知り、それがわが国の社会・教育にどのような影響を及ぼしたか、人々の学習の実態および教育行政や図書館・博物館などの動きを通して考察する。</p>	
	インターンシップ	<p>本授業では、職業選択の事前の経験や実際の社会における就業体験を通じて、自らの職業観や就業意識を確立することを目標として、卒業後の自分に適した職業を探索するきっかけとすることを目的とする。</p> <p>実習派遣前の事前教育として、民間企業を中心とした種々の業種・業界の具体的な業務内容の紹介等を含め、その実態と職業に対する考え方を学び、インターンシップとして実際の就業現場において実地体験する。事後教育では、実習体験を受講生がともに共有しながら、自らの実習の成果と反省点を確認する実習報告会を行う。</p>	クラス分
ボランティア I	<p>本授業では、県あるいは市町の教育委員会が募集する教育アシスタントや学校ボランティア等の体験を通して、教員への志望の意思を自己で確認し、職業観や就業意識を確立することを目的とする。あわせて、教職課程の教育実習へとつなげるものとする。</p> <p>ボランティア前の事前教育として、学校現場における現状を紹介し、その実態と職業に対する考え方を学び、ボランティアを行うための心構えを養成する。その後、各学校でボランティアを行う。事後教育では、ボランティア体験を受講生がともに共有しながら、自らの成果と反省点を確認する実習報告会を行う。</p>	クラス分	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	ボランティアⅡ	<p>本授業では、教育アシスタントや学校ボランティア等以外のボランティア、特に皇居における清掃奉仕、いわゆる「皇居勤労奉仕」の体験を通して、本学の建学の精神である「日本の神々を祀る神道を基盤として、皇室や神宮を崇め、祖先を敬い、国を愛し、歴史・伝統を・文化を尊ぶ心を育む。」ことに資することを目的とする。</p> <p>奉仕前に事前教育を行い、皇居勤労奉仕を行うための心構えを養成し、事後教育では、奉仕体験を受講生がともに共有しながら、自らの成果と反省点を確認する奉仕報告会を行う。</p>	
専門 科目	現代日本総論	<p>この講義の目的は、現代日本が直面している諸課題の中から本学部が重視するものを取り上げ、何故にそれが大切なのかを説明することで、新入生に本学部での学びの方向性と意義を理解させ、今後の学習に主体的に取り組んでいけるだけの精神的基礎を築くことにある。現代日本における文化、社会、福祉などの教育を通じて徳性と知性と技能を磨き、それらの融合から引き出される応用力によって現代日本社会の諸問題に主体的・創造的に対応することで、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成するという本学部の教育目的を達成するための入り口となるのが本講義である。</p> <p>具体的には、①. 日本文明の特徴と可能性を考える必要性、②. 現代において「日本」を考える必要性、③. 現代において伝統文化を学ぶ必要性、④. 福祉の現状と意義を知る必要性、⑤. 社会と自己を結びつけて考える必要性、という5つの視点から5人の教員が講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (宮川泰夫 教授／3回)</p> <p>混迷する現代、少子高齢化の進む日本、気候温暖化の地球。現代とはいつから始まり、どこに進むのか。何故日本は、この4次元的空间、時空の中で、地球の人類の憧れの地となりえたのであろうか。この課題を、地球と地域、人類と自然の関係を考え続けてきた最も古い総合科学である地理学の視点から、3つの側面から論じてゆきたい。</p> <p>(1) 英独の近代産業革命、米露の情報産業革命、それに替わって日本が主導し中国が補弼する現代産業革命、(2) 現代産業革命を支えた現代文明の開化、(3) 国土を培う国民の役割と郷土の意義。この講義では、厚生と環境に留意した現代産業革命の先端技術、高度情報を制御する人間の英知と倫理、自然の叡智と摂理を重視した現代文明の開化と日本の時空の係り合いを問いかけてみたい。</p> <p>(新田 均 教授／3回)</p> <p>国民投票法、教育基本法、皇位継承という近年において盛んに議論された三つの問題を取り上げ、その背景として、「日本」という国家とその歴史(特に近代史)をどのように理解するのかについての大きな立場の違いが存在していることを説明する。それによって、現代の問題であっても、その本質を理解するためには歴史を知る必要があり、しかも、先入観にとらわれることなく、柔軟に、多角的に考えなければならぬことに気づかせる。</p> <p>(橋本雅之 教授／3回)</p> <p>現代日本の課題をオムニバス形式で講義する。橋本は、近現代における日本文学の課題と可能性について概説する。具体的には、日本の近代化と密接に関係する作家・作品を取り上げ、時代背景を考えながら作品のテーマや理念を紹介する。この講義での到達目標は、文学作品を通して、日本が直面してきた近現代の課題を理解することである。 講義予定のテーマと作家群 (1) 文明開化の文学=夏目漱石・島崎藤村など (2) 日本の伝統と美意識=折口信夫・三島由紀夫など (3) 国際化の中の日本文学=大江健三郎・村上春樹など</p> <p>(山路克文 教授／3回)</p> <p>現代日本の社会福祉制度体系は、第2次世界大戦後のGHQ(連合軍総司令部)の占領政策によって、その萌芽をみることができる。しかしながら、よく見るとGHQによる自由と民主主義の精神による戦後改革ではあったが、欧米の考え方や日本の伝統的考え方が混在していることがわかる。その典型が、「措置制度」(「福祉の措置」ともいう)という行政概念である。この状況をいわゆる「連続と非連続」の視点から考察を行う。</p>	オムニバス方式



## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基礎 科目	現代日本総論	(筒井琢磨 教授/3回) 「この国はどこに向かうのか」「自分が生きているこの社会はなぜ様々な問題を抱えているのか」など、社会に問題性を感じている人は実は社会に自分を投影していることが多い。つまり、社会の在り方を問うことは自己のアイデンティティを問うていることと強く結びついているのである。自己の問題と社会の問題を切り離して考えても問題は解決しない。むしろ、自己と社会は密接に関連していることを自覚することこそ、問題解決の第一歩である。この講義では自己と社会の関係性から現代日本を問いかけてみたい。	オムニバス方式
	日本文物論	本講義の目的は、専門科目の出発点において、国家及び社会の形成者にとって必要な資質とは何かを学生に考えさせることにある。具体的には、豊かな情操と道徳心、個人の尊重、創造性、自主及び自律の精神、勤労の重視、公共の精神、生命・自然・伝統文化を大切にす精神、国と郷土を愛し、他国を尊重する態度、このような教育基本法に掲げられた徳目を身につけることの必要性を、代表的な日本人の事績を通して理解させる。政治家―聖徳太子、西郷隆盛。経済人―渋沢栄一。文化人―岡倉天心。教育者―吉田松陰、新渡戸稲造、社会改良家―二宮尊徳。  (オムニバス方式/全15回) (山路克文 教授/5回) 私の担当時間においては、渋沢栄一をとりあげる。渋沢は、近代日本資本主義の生みの親とも、産業・経済界の父とも呼ばれ、91歳の生涯を閉じるまでに大蔵省、第一銀行の初代頭取など様々な重責を歴任し、そして多くの業績が残されている。渋沢が晩年において社会事業、国際親善、教育などに尽力されたことに注目し、その業績から多くのことを学んでみたいと考えている。  (新田 均 教授/5回) 私の担当時間においては、聖徳太子、西郷隆盛、岡倉天心について講義する。そのポイントは、それぞれの人物について、その業績と後の国家社会に与えた影響、彼らの業績を生み出す土台となった使命感や努力、人格の力などについて説明することである。  (渡邊 毅 准教授/5回) 私の担当時間においては、二宮尊徳、吉田松陰、新渡戸稲造について講義する。そのポイントは、それぞれの人物について、その業績と後の国家社会に与えた影響、彼らの業績を生み出す土台となった使命感や努力、人格の力などについて説明することである。	オムニバス方式	
	日本国家論	本講義においては、古代から現代まで、日本史の各時代において、われわれの先祖はどのような国家・社会の理想を描き、それをどのように具体化し、なぜ変わっていったのかを概説する。それによって、私達が属し、形成している日本という国の特徴を知り、日本人という国民としてまとまっている理由、意義、意味を理解し、わが国と郷土を愛する態度を養うとともに、公共の精神に基づいて、主体的に国家や地域の形成に参画し、発展に寄与しようとする意欲を高めることを目的とする。		
基 幹 科 目	日 本 の 文 化	日本文化の特色を多角的な視点から講義する。具体的には、文化を形成する構造について、自然環境・社会組織・経済基盤・比較文化学などを視野に入れて講義し、それが形成されてきた経緯と日本的な特色を理解できるようにすることを到達目標とする。 講義予定 (1) 日本を取りまく自然環境, (2) 古代の社会と文化, (3) 中世の社会と文化, (4) 近現代の社会と文化, (5) 世界の中の日本文化		
	日本文学論	日本文学にあらわれた日本の心性について古典文学を中心として講義する。具体的には、現代に至るまで、日本文化の伝統的価値観の形成に大きな役割を果たした「もののあはれ」「無常」「幽玄」「わび・さび」などの文学理念を具現化した作品を取り上げて、その特色を概説する。この講義での到達目標は、日本的な美意識と価値観が形成されていく過程を歴史的に理解することにある。 講義予定のテーマと作品 (1) 『源氏物語』と国学思想、(2) 仏教と日本文学『平家物語』『方丈記』など、(3) 歌学の形成『古今和歌集』『新古今和歌集』など、(4) 中世・近世の芸能と文学「能楽」「浄瑠璃」、(5) 旅と文学「西行」「松尾芭蕉」など		

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	基 幹 科 目	日本歴史論	現代日本の直面する諸課題に対して、歴史的に洞察できる能力を養うことを目的とする。 具体的には、①「国際」、②「環境」、③「地域」という三つのテーマを掲げ、①「国際」では、日本の歴史が常に周辺諸外国との関係性の中で展開してきたこと、②「環境」では、日本の伝統的経済がきわめて環境に優しい構造を有していたこと、③「地域」では、日本の伝統的社會構造が、「家」の集合体である「村」や「町」の中で培われてきたことを、それぞれ古代から近代へと至る日本歴史の流れの中から指摘していく予定である。
		日本民俗論	民俗学とは「日常生活の中から生じる小さな疑問を大切に考えなおして見ること」と捉え、そこから日本人の生活様式や地域性、あるいはそれぞれの時代の世相とその背景をあくまでも現代的な視点から読み解くことを目的とする。そこで本講義では、前半は民俗学が蓄積してきた知識を映像等から時間と空間を区切りながら学び、後半は学問的特質であるフィールドワーク（インタビュー調査）を通じて体験的な理解を深める。調査内容をまとめることで、伝統的な知恵や文化を守るだけでなく、積極的に発信できることを目指す。
	現 代 の 社 会	社会学概論	「人」びとの日常生活における「交」わりの中で構築される「公」である社会システムに関して、法や経済との関係性に留意しながら考察する。また、少子高齢化や地域社会、社会集団及び組織の変動を見ることで現代社会を理解する。さらに、現代家族の機能や形態、ライフスタイルの変容など生活への理解を深めるとともに、人と社会の関係を考える。そして、差別、貧困、虐待等の社会問題を捉えながら、現代社会の課題解決方法について考察する。
		現代社会論	本講義では、現代社会に生起する多様な社会現象の実態を把握し、現代社会が抱える諸課題のトータルなイメージとともに個別具体的事象への理解を深めることを目的とする。具体的に、家族の領域では、少子高齢化と家族及び家族関係の変化、コミュニケーションの変容、男女共同参画、DV・児童・高齢者虐待問題等について、職場の領域では、産業・雇用・消費の変化、非正規雇用・失業・ニート問題、高齢者就業問題、ワーク・ライフ・バランス等について、地域の領域では、都市化による地域的共通の二元化、階層・階級の質的変容と格差、マイノリティと社会運動等について考察を深めていく。
		現代人権論	現代日本において、「人権」は、さまざまな場面で用いられる重要な言葉である。しかし、この言葉に対しては、人間の幸福を押し進めものとして非常に高く評価する人々と、逆に人間と人間とを争わせるものとしてかなり批判的に捉える人々がいる。この講義では、そのような二つの立場が存在する理由を、「人権」が生まれてきた歴史、国家との関係、今日の争点（同和問題、外国人、子供、ジェンダー、障害者、拉致、民族など）等に焦点を当て、多様な側面から、正確かつ柔軟に「人権」を考える方法を提示する。
		社会保障論	この講義は、社会保障制度の基本的な仕組みについて理解することを目標とする。社会保障は歴史的な産物であり、その国の歴史と風土を抜きにしては語れない。この講義全体を通して、少子高齢化が進むわが国にふさわしい社会保障は、どうあるべきかを考える。講義では、まず社会保障の理念の発展を考察し、さらに概念・範囲・規模を検討する。次に、社会保障制度体系を把握した後、所得の保障、医療の保障、社会福祉サービスの3分野について、個別、具体的に検討する。その際に、財源問題および共生概念の重要性を強調する。
		現代憲法論	本講義は、現代におけるさまざまな憲法問題を取り上げて考察し、妥当な結論を与えることを目的とする。講義は、皇位の継承、自衛隊の海外派遣、外国人の参政権といった憲法に関連して現実に起こっている諸問題について、解釈論からだけでなく憲法史学、比較憲法学あるいは憲法政策学の観点から考察を行う。こうした考察を通じて、憲法に対する理解を深めるとともに、その問題解決のための思考力を養う。さらに、わが国にふさわしい憲法とはいかなる憲法かについても論及する。

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	基 幹 科 目	生 活 と 福 祉	<p>社会福祉原論</p> <p>現代日本の社会福祉は、第2次世界大戦後長く続いた「措置制度」と呼ばれる中央集権的な行政サービスから、民間事業者も巻き込んだ「契約」を主眼とする体系に変わり、社会福祉サービスが行政サービスから商品として提供される時代になってきた。しかし、社会福祉は、日本国憲法第25条の条文にも明記してあるとおり、国民の権利と国の義務を明確に定めた行政サービスを基本とする制度体系である。今日、財源問題を背景に「契約」を重視するがあまりに平等という基本的概念が形骸化され「格差問題」が、社会福祉分野でも顕在化している。社会福祉の理念や価値など、根本立ち返って問い直さなければならない状況となっている。社会福祉とは何か、その基礎概念を中心に体系的な講義を行う。</p>	
		福 祉 政 策 論	<p>現代日本の福祉政策を立体的に浮かび上がらせるために、まず、社会福祉政策の歴史的考察を行い、次にわが国の社会保障制度体系から、とくに年金制度等の所得保障制度、健康保険制度等の医療保障制度との比較検討を行う。さらに福祉政策の実践的課題としての行政サービスを地方自治法や地方財政法、行政法等の分野も視野に入れ、今日の福祉政策を考察してみたいと考えている。</p>	
		地 域 福 祉 論	<p>この科目の目的は、現代日本の抱える福祉的課題について、特に我々の生活の基盤となる地域における福祉課題を市民としての意識をもって歴史的社会的に考究することを通して、地域福祉を推進する担い手として必要な知識を習得することである。具体的には、地域福祉の基本的な考え方、地域福祉の主体と対象について学ぶ。また、地域福祉にかかる組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。さらに、地域福祉におけるネットワークの意義と方法及びその実際について学び、地域福祉の推進方法について現状と課題を考察する。</p>	
展 開 科 目	日 本 の 文 化	日 本 建 築 論	<p>日本の伝統的な建築空間の美しさと尊さの本質を探求する。平安京などをはじめとする都市計画から、神殿や仏殿の伽藍配置、その祠内の奉斎や堂内の荘厳、また書院の床の座敷飾り、その生け花の枝配りや、茶室での道具の置き合わせから懐石の膳組に至るまで、日本の空間造形に偏在する「聖なる空間」を創る技術を学ぶ。また、大工棟梁や各職方の仕事ぶりや心意気を知り、技の習得を通じた精神修養、すなわち「ものづくりを通じたひとづくり」の意味を理解する。</p>	
		日 本 倫 理 思 想 史	<p>現代の日本人は、自己の生き方や、他者ないし世界との関わりをめぐる、様々な倫理的課題に直面している。本科目は講義形式をとり、そうした諸課題の克服への手がかりを、日本という風土において連綿と受け継がれてきた、いくつかの伝統的な倫理思想の中に求める。過去の偉大な思想や文学作品に触れることで、そこにあらわれた倫理観が、実は決して過去のものではなく、むしろ現代の日本人が心の奥に受け継ぎつつも忘れかけている、尊い遺産であることを理解し、めいめいの人生を考える新鮮な糧ともすることを目指す。</p>	
		日 本 工 芸 論	<p>日本の伝統的な工芸作品の美しさと尊さの本質を探求する。御神宝としての刀剣、装束としての染織、諸道具としての金工、漆器、陶磁、和紙、木工、表具、表装など、様々な日本の工芸には、世界の同様なものとの類似性を超えて、なお宿る特殊性がある。それらを見極めて、日本の工芸文化の精神性を学ぶ。また、匠や各職方の仕事ぶりや心意気を知り、技の習得を通じた精神修養、すなわち「ものづくりを通じたひとづくり」の意味を理解する。</p>	
		地 域 文 化 論	<p>本講義では、文化人類学の観点から、地域と文化、そこに暮らす人々の生活を考えるための諸理論・方法を整理しながら提示し、スライド等も使いつつ事例を検討していく。「地域」と「文化」に関する基礎的概念を理解し、それに基づいて自己の意見を述べられることを目標とする。なお、以下のトピックについて講義を行う。 ①人間と文化、文化人類学の歴史、②技術と社会変化、③地域紛争、④婚姻・家族の諸類型、⑤社会組織と政治、⑥人生と時間、⑦医療人類学と福祉</p>	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	展開科目	日本の文化	日本礼法論	日本の礼法の意味を学び、国際社会における現代の日本の礼法を目指す。 いかなる時代と地域においても、相手を尊重し、己の立場をわきまえ、秩序正しく生きるためには「礼」が必要となる。日本の伝統的「礼法」の成熟と、諸芸道への展開の過程を学び、また国際プロトコールやテーブルマナー、ビジネスマナー等についても考察する。 そして、国際社会の中での普遍的なマナーを踏まえながら、なお現代の日本人にあるべき「礼」という徳目を深く理解し、正しく実践してゆける人間となることを目指す。
		日本芸能論	大きな視点から日本の芸能を概観し、知識を広げるとともに、芸能がもついくつかの本質にせまってみたい。そこにはしばしば日本文化に通底する興味深い特徴があり、思わぬところで、それが現代に脈々と息づく場合が多い。また、東アジアの芸能との共通性も意外とたくさん存在するのである。 なぜ、社会のなかに芸能が生まれ、ひとびとの活力となってきたのか。人間の真摯な願いと遊び本位の気軽さの両様を的確に視野にいれながら、芸能とは何かを考えてみる。	
		日本神話論	日本神話を文化人類学や深層心理学的な視点から講義し、日本的倫理観の意識構造を探っていく。日本神話を、比較神話学・人類学・深層心理学などの幅広い視点から論じる。この講義での到達目標は、日本神話の根底に存在する日本的価値観・倫理観を構造論的に理解し、さらにそこから現代日本が直面する課題を各々が見出すことができるようになることにある。 講義予定 (1) 神話学の歴史、(2) 比較神話学、(3) 構造人類学と神話学、(4) 深層心理学と神話学、(5) 古事記神話の意識構造、(6) 日本神話の現代的課題	
		神道概説	混迷する現代社会において宗教の役割が見直されつつある。従来、個別性のみが追求されがちだが、民族宗教としての普遍性を「神道的なるもの」として日常生活の中から見出し、現代社会に果たすべく神道の可能性を理解する。四季や生と死のサイクルを繰り返す中で、脈々と培われてきた神道文化を「環境」「生活」「医療」「教育」などにおける現代的課題から見つめなおし、日本人の「いのち」のつながりの中で、すべての人が「その人らしいかけがえのない人生を送る」ために、ともすると見失いがちだった価値の再照射につなげる。	
		武士道論	本講義では、武士道をテーマとして思想と行動の両面から論じる。武士道とは何か、それはいつ頃に成立し、どのような広がりをもっていたか。武士道の中核概念である忠義とはどのような性格のものか。徳川時代の200年以上にわたる持続的平和は、武士道の内容にどのような変化と発展をもたらしたか、などを検討する。そして武士道の理念は、現代日本社会が抱える諸問題(家庭内における親子の葛藤、学校における陰湿なイジメ、企業・官庁における不正の隠蔽・偽装、等々)に対して、どのような実践的な意義をもちうるかについて考える。	
		日本宗教概説	本講義は、活発化する異文化交流の場面において、日本の宗教文化、日本人の信仰のあり方について、的確に説明し情報を発信できる基礎知識の習得を目指す。そのために、①日本における宗教の歴史的展開について、古代から近代までの範囲において幾つかのトピックスを取り上げ各時代性のなかで理解すること、②神仏関係を中心とした日本人の信仰形態の諸様相を思想・儀礼・実践レベルにおいて知ること、③現代日本の宗教現象から日本の社会・文化をどのような状況・内容として見るかの3点を柱とした講義を行なう。	
現代の社会	地域社会論	国内の地域社会は、未曾有の社会変動のまっただ中にある。地域社会の変貌の姿は、ムラの過疎化・高齢化問題に象徴されるが、都市化や少子高齢化は、全国規模で進行している現代日本の社会問題である。そんな問題を抱える国内の地域社会は、社会の再生や活性化のためにあらゆる努力を払っている。そのことを、さまざまな事例を通して知ってもらいたい。授業は基本的に講義形式であるが、プリントの配布と説明によって不足を補う。授業担当者が関わったフィールドのビデオ視聴もある。要は、地元の地域社会に愛着(郷土愛)が持てることを目標とする。		

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  展 開 科 目  現 代 の 社 会	心理学	心理学とは、現実の社会に生きている人間の心を科学的に解明しようとするものである。しかし、今日の社会の変化に伴って、心理学の対象領域は広がり、研究方法の開発も進んできている。本講義は、心理学のさまざまな分野について幅広く紹介することにより、心理学を身近なものとしてとらえ、人間についての理解を深めることを目的としている。多岐の分野にわたる心理学についてわかりやすく理解するために、図表を多数用いながら実験や調査結果を紹介し、基礎的な知識を体系的に習得する。「心理学とは何か」「記憶の仕組みと忘却」「印象形成」「対人認知」「態度」「集団と個人」などのテーマについて学ぶことによって、受講生が自分の心の世界と向き合うだけでなく、講義を通して共に実験などを行うことによって他者の心の世界とも向き合うことを目的とする。	
	医学概論	心身機能の構造、疾患の病態や概念、障害の捉え方の制度的な変遷などを学び、障害や疾患のある人を生活の主体者として支援するのに必要な、幅広い知識を習得することを目標とする。心身構造、健康と疾患、国際生活機能分類、リハビリテーションなどを網羅する。教科書や黒板の板書にとどまらず、学生の主体的な学びの姿勢を引き出すために、小グループによる調べ学習を適宜取り入れ、テーマに即し視覚的な教材(DVDなど)や具体物(聴診器、血圧計)を用い、体や健康について身近に感じる機会とする。	
	政治社会学	この授業の目的は、現代日本の政治社会を理解するために、社会学的手法を用いて実証的に把握された日本の政治過程についての理論を学ぶことである。政治社会学は、政治学と社会学の境界領域に位置する学問であり、欧米では確固たる地位を占めているが、わが国では必ずしもそうではない。しかしながら、現代の政治を解明していくためには、やはり、政治と社会の関係の見直しが不可欠である。そこでこの授業では、現代日本の政治社会の理解に必要な政治社会学の基礎を学ぶことにする。	
	地域情報論	地域情報のベースとなる地図や地名を取り上げ、身近な地域から世界各地の地域研究の基礎を学ぶ。具体的には、紙地図とその種類、地形図の作成法とその見方について理解を深め、地形図や空中写真の判読などの演習を取り入れる。また、世界の都市地名の起源や日本の地名の分類、地名と人名その他について学ぶ。さらに、アナログからデジタルへの時代のなかで、グーグルアースに代表されるような、パソコンを用いた衛星写真の画像処理やGIS(地理情報システム)によるデジタルマップ作成の紹介をする。	
	社会情報学	社会情報学とは、社会に関する情報の内容、その情報に関わる行為者、その情報が収集され処理され発信される過程、その情報が置かれている文脈といった要素から情報が成り立っていると捉え、その分析を行う学問である。その一手法が社会調査である。この講義では映像、地図、会話、統計など、様々なメディアに乗ってやってくる社会情報について、その特性をいかに捉えたらよいかを考えてみたい。また、社会情報の考え方を生かした社会調査はいかにして可能か検討してみたい。	
	精神医学	精神疾患の理解と対応方法、即ち精神疾患が生物学的・心理学的・社会学的要因により発生し、経過することの理解と、それらへの対応を学ぶ。わけても、統合失調症をはじめとした内因性精神疾患、神経症圏をはじめとした心因性精神疾患の理解・対応をめざし、国際分類による診断の概要についても学ぶ。 各精神疾患の特徴、発症メカニズム、対応・治療、及び予防等についてを学び、国際分類による診断についても併せ理解する。 さらに精神保健福祉法、精神疾患・精神障がいの今日的課題、即ち精神障がいの者の社会参加・復帰等について、病識・病感の欠如による非自発的入院についても学ぶ。	
	精神保健学	精神保健福祉士として精神保健福祉業務を行なう上で必要な精神保健の知識として、精神障害に対する基本的な考え方、精神保健福祉法とその概要、ライフサイクルにおける精神保健などのテーマにより学習し、個別課題への取り組み状況や精神保健対策の実際について理解する。 医師や看護師等の医療スタッフ・行政等の関係機関とスムーズな連携を取り、精神障害者及び家族に対し適切な援助を行うことを目指す。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  展 開 科 目  現 代 の 社 会	国土構造論	1994年の国連海洋法条約の発効、2007年の海洋基本法の制定は、領土、領空、領海からなる領域とその地下を越えた排他的経済水域、大陸棚、深海底に防空識別圏と共に主権を及ぼすに至った。これは、西川如見(1648～1724)の「日本水土考」以来の価値を刻んだ土と価値を配る水、人間と自然の織りなす水土の構造への関心を高めた。本講では、現代日本の時空に着目し、水土の構造を、理論を踏まえ、学生に親しみのある事例で解く。	
	地域構造論	皇學館大学は、伊勢学を郷土学習の基本とし、出版部から「倉田山の植物」を出版し、同様の出版物を出したプリンストン大学を見習い、人間と自然、地球と地域の交点で住民が築いた土地の理論、地理学を大切にしてきた。郷土の崩壊に苦しむ現代日本の地域社会の抱える地域問題を地理学の理論に基づき、判り易く究明する。本講では、学生の参加をえて郷土の現代日本における文化の深化と地域の革新の機構を共に考え、郷土の再生の構造をとらえたい。	
	国土計画論	国土は、国家が国民と共に歴史を通して培って価値を刻み、文化を育んできた。1943年の中央計画素案・同要綱案、50年の国土総合開発法、2005年の改正国土総合開発法に基づく国土形成計画は、5回の全国総合開発計画を踏まえ、併進するグローバリゼーションとローカリゼーションの機構を論究し、郷土の自律、環境と厚生、海洋と美観を大切にしてきた。本講では、現代日本の計画の原点に遡り、政治経済、社会文化の構造に留意して考える。	
	地域計画論	奈良時代の地誌、風土記は、713年の官命により、郡郷の由来、産物、地味地形、伝承などを中央政府に、調査の上、解文として国柄を報告したもので、現代日本の地誌学の原点をなす。流動的な内外を吹く風と固定的に価値を刻み、育んだ土の関係を明らかにする現代の風土論では、内外の地域計画の持つ意義が高まった。本講では、現代日本の地域社会における地域の変革と地域の計画の関連を明らかにしたい。	
	社会調査法	社会調査とは、社会情報を的確に収集し分析する社会工学的手法の一つである。社会調査をおこなうためには基本的な知識や技術の習得が必要である。それ以上に必要なことは、調査計画を立てる時点から問題意識をしっかりともち、調査目的を明確にしておくことである。しっかりとした調査計画があれば使うべき調査方法を特定することができ、さらに、調査結果の分析や解釈をする際にもデータに踊らされないですむ。この講義では、社会調査の設計から結果報告までの一連の調査方法について学ぶ。	
	社会情報分析	本講義では、官庁統計や調査報告書・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識、並びにデータ分析をするための知識・技術の習得を目的とする。特に、単純集計、クロス集計、代表値、分散、標準偏差などの記述統計の読み方や、それらを実際に算出する方法を習得する。また、共分散・相関係数などによる2次元データの分析法、並びに正規分布、カイ二乗分布、t分布等を利用した推定及び検定についての理解を深め、一定の与えられた数字を元に自ら計算し推測や差の有無を判断する能力を身につけることを目標とする。	
	教育社会学	本講義では、受講生が社会学的な視点から教育現象を読み解けるようになることを目標とし、まず教育社会学の成立と展開について触れた上で、社会学的な理論と方法の基礎を学ぶ。ついで社会学的な方法論を駆使しながら、各種の教育現象について考察する。現代社会ではさまざまな教育問題が深刻になっており、その諸問題をどのように読み解くかが重要な課題となっている。そこで、考察の際には時事的な教育問題も取り上げていきたい。	
	家族社会学	我々が社会生活を営む上で最も基礎的かつ身近に感じられる家族について、家族集団・制度、夫婦・親子・きょうだい関係、結婚・離婚、家族周期、役割構造、ジェンダー、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、家族機能、家族ネットワークといった側面から基本的概念を理解する。また、全体社会-家族-家族員の相互作用という視点から、特に戦後の日本社会における近代家族の成立と脱近代家族への動きについての理解を深め、家族の多様化・個人化、またこうした動きに伴う、DV、家庭内暴力、児童・高齢者虐待等の家族病理現象について考察する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	展 開 科 目	現 代 の 社 会	
	産業社会学	多様化・複雑化した現代日本の産業構造や企業活動の実態を理解する。国際化した企業関係への理解を深め、一方で福祉社会化の進展を問題意識の根底に置きながら、各年代、各領域で働く人間の諸課題を考察する。特に労働者の仕事とのアクセシビリティ(接続可能性)をキーワードに、女性の社会進出の現状、若者の就労意識の変化、高齢者就労と定年問題、またIT化によるユニバーサルな労働形態等への理解を深めていく。その上で、日本の産業社会における諸課題の解決に向けた洞察力を高める。	
	社会統計学Ⅰ(基礎統計)	社会調査によって得られたデータを数量化して考えることは、社会事象の一般的な関係を明らかにする1つの方法である。本講義では、社会調査データの分析に必要な社会統計学の基礎的知識(確率論の基礎、検定・推定理論とその応用、抽出法の理論など)を解説する。また、科学的思考法の基礎を踏まえた上で、現実のデータを用いながらデータから情報を取り出し、未知の対象についての予測を行うための種々の統計的手法を学ぶ。達成目標は統計的手法を習得することとする。	
	産業革新論	1972年の国連人間環境宣言と住民勝訴の四日市公害裁判から、1992年の国連地球環境宣言、ソ連邦の消滅を受けた中国・韓国の交流樹立を経て、97年の気候変動枠組条約第3回締約国会議に至る四半世紀は、人類の厚生と地球の環境を重視した現代産業革命を開闢した。本講では、この現代日本における技術・技能の伝承と革新に着目し身近な近代産業の自動車や伝統産業の組織等を事例に、技術と文化を一体とした文明を考える。	
	文明開化論	現代産業革命の開闢と自由化で資本の原理の貫徹する世界市場の進展に伴い、人間の英智に加え自然の叡智を重じ、文化と技術の相生による現代文明の開化が内外の脚光を浴びた。2005年の日本国際博覧会、愛・地球博はその象徴をなした。本講では、文明開化の時空に着目し、文明の相生を考え、安定と安心の平和の文明を考える。	
	質的調査論	社会調査は数量化されたデータを統計学的手法で処理する量的調査と、数量化されていないデータを非統計学的手法で処理する質的調査に大別されるが、後者はマニュアル化が難しいとされていた。近年、参与観察、インタビュー、ドキュメント分析、会話分析など、質的調査の手法がある程度標準化しつつあり、教科書も刊行されるようになってきた。この講義では、量的調査との類似点、相違点を検討しながら、質的調査の魅力と可能性を紹介し、いくつかの手法について解説する。	
	社会統計学Ⅱ(多変量解析)	本講義では、社会統計学Ⅰで学んだことを踏まえたうえで、実際のデータを用いながら、統計的データを処理・分析するための方法について体験的に学習してもらう。具体的には、社会調査に必要なデータ処理の基本と基礎的な統計学の方法論や、多変量解析方法の基本的な考え方、主要な計量モデルを解説する。重回帰分析を基本としながら、因子分析や主成分分析、パス解析といった他の計量モデルもとりあげる。達成目標は、より高度な統計的手法を習得することとする。	
	観光社会学	観光は、人々の生きがいや安らぎを生み出し、生活のゆとりと潤いをもたらす。交流人口の増加とともに、地域資源や文化の発掘を通じて産業や雇用を創出し、人口減少と少子高齢化が進む地方都市の再生と活性化に寄与する。現代社会において観光が織りなす個人と社会との相互作用分析に基本視座を置きながら、まちづくりの視点から地域密着型のニューツーリズムを中心に考える。同時に、観光のユニバーサルデザイン化について考察を深めていく。観光を通じた豊かな地域社会創造への感性を育てていく。	
医療社会学	私たちは健康であることをふだん意識しない。病気をしたときに健康であることの重要性を痛感するのである。私たちが健康であることや、病気から回復することを援助してくれるのが医療である。いつこの社会でも医療は必要不可欠な存在である。時代によって社会によって医療はいろいろな課題を抱えている。これらの課題を解決していくことによって、医療はますます私たちの生活にとって重要な役割を果たすだろう。この講義では、現代社会で医療が抱える諸課題を取り上げ、いかに解決していけばよいのかを考えていきたい。		

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開科目 生活と福祉	社会福祉援助技術論Ⅰ (専門職制度)	近年人々が抱える生活問題はますます複雑化多様化してきている。本授業では、そうした生活問題を抱える人々の相談援助を行う社会福祉士の役割と意義について理解することに主眼を置く。 まずは、国家資格「社会福祉士」の成り立ちについて学習し、次に、その業務である相談援助の概念や範囲、理念などについて理解する。さらには、具体的に、権利擁護の意義など相談援助のあり方や、その担い手である社会福祉士の専門性、専門職倫理について理解する。また、他の専門職との連携による包括的総合的な援助のあり方について理解する。	
	社会福祉援助技術論Ⅱ (理論)	この科目の目的は、社会福祉士が実践場面で相談援助を行うための基礎を成す相談援助の理論を理解することである。現代日本における社会福祉の問題は、基本的には貧困・低所得、障害、高齢など、個人や地域の自助努力ではどうにもならない種類のものである。このような問題に社会福祉士として関わる際には、個人と個人を取り巻く社会環境との関係を理解することが必要である。この科目では、現場からの発信、当事者の立場という視点を重視しながら、相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について学び、相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。また、相談援助の過程とそれに係る知識を習得する。	
	介護概論	生活者個々人の生活課題解決において、介護が果たす役割は大きいといえる。したがって、介護を受ける対象、介護の理念、介護援助の目的や方法を理解し、生活課題がどのように支援され、解決あるいは生活の維持・予防に寄与するかを学習する。介護を受ける対象には、高齢者や障がい者(児)、さらにはその家族が存在し、それぞれが地域社会の中で生活することを踏まえて、現代社会の状況に敏感に対応する知識と、個々人の生活を守り、維持するための能力を習得する。	
	児童・家庭福祉論	現代日本が抱える子どもと家族に関する諸問題の解決を模索するための学びを深める。日本における家族形態、家族観の変遷を踏まえ、現代社会の子どもと家族を取り巻く状況を理解する。また、海外の児童福祉についても学び、広い視野から日本の子ども家庭福祉を考察する力をつける。現在、行われている子ども家庭福祉行政や子育て支援事業、関係機関・専門職についても理解する。社会的養護の必要な子どもに対する施策、地域社会で暮らす子どもとその家族に対する支援サービスについても学ぶ	
	精神保健福祉論Ⅰ (援助理念)	わが国には、精神障害を持つ人が300万人以上いるといわれ、そのうちの30数万人が精神科病院等に入院している。しかしながら、国民の精神障害についての理解は少なく、誤った理解は精神障害に対する偏見、差別につながっている。本講義では、統合失調症やうつ病等の精神疾患の概要や精神障害の構造について学習するとともに、精神保健福祉領域における援助理念であるノーマライゼーション、エンパワメント等について、また人権という視点から精神障害者に対する差別や偏見について学習する。	
	精神保健福祉援助総論	ソーシャルワークの援助対象は、国民の社会生活上の困難であり、生活課題を解決するために個別面接や集団援助などの直接援助や、社会資源への連結や資源開発などの間接援助を行うものである。そのなかでも、精神障害者の社会生活上の困難に対してソーシャルワークを実施するのが精神保健福祉士をはじめとした精神科ソーシャルワーカーである。本科目では精神障害者を中心とした社会福祉サービスと援助活動について学習するとともに、援助活動の意義や価値について具体的事例を用いて学習する。	
	社会福祉援助技術論Ⅲ (実践)	この科目の目的は、社会福祉士が実践場面で相談援助を行うために基礎となる相談援助の方法を理解することである。社会福祉士として関わる社会の諸問題に対して、社会福祉援助技術論Ⅱで学んだ理論に基づき、具体的には介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画および障害者自立支援法によるサービス利用計画などの相談援助の過程に係わる方法・技術について理解する。また、相談援助における事例分析の意義や方法について理解し、権利擁護活動などの相談援助の実践について理解する。	
	障害者福祉論	この科目の目的は、わが国の障害者の抱える課題について、社会福祉の視点から考究することを通して、社会福祉専門職の担い手として必要な知識を習得することである。具体的には、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要および地域移行や就労などについて理解する。また、障害者福祉制度の発展過程について理解を深め、さらに相談援助活動において必要となる障害者自立支援法の概要理解および障害者の福祉・介護に係る他の法制度に係わる知識を習得する。	



# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  展 開 科 目  生 活 と 福 祉	公的扶助論	この講義は、生活をしていく上での最後のセーフティネットとしての、公的扶助制度（生活保護制度）の基本的な仕組みと役割の理解を主要目的とする。講義では、生活に困窮している国民に対して国家の責任で、その困窮の程度に応じて、最低生活の保障をするわが国の生活保護制度を中心に考察する。また行政機関としての福祉事務所の業務内容と課題について検討することによって、現場重視の観点から相談援助活動に対する理解を深める。さらに、先進国における公的扶助の制度を紹介するとともに、低所得対策についても吟味する。	
	社会福祉発達史	「日本社会福祉の発達に貢献した人々に学ぶ」をテーマに、講義していきます。近代社会の発展の中で、福祉を必要とする人々を支援し、理解してきた先人たちの思想と実践について学んでいきます。授業では、史料などを用いて歴史的、社会的背景についての理解を深めていきます。また、福祉の先人の労苦をその時代に立ち返って、分析していく方法を学ぶことにより、社会福祉に対する見方、考え方、実践方法を総合的な視野から捉えることができるようにしていきます。	
	高齢者福祉サービス論	高齢者福祉の背景を、少子高齢化、長寿化、世帯構造の変化、産業構造の変化等から押さえる。その上で、高齢者保健福祉サービスの中心である介護保険法制度について、保険者・被保険者、利用手続き、サービス体系、専門資格等を把握していく。さらに、老人福祉法上の施設・事業、シルバー人材センター等の高齢者雇用関連施策、近年社会問題として注目されるようになった高齢者虐待についての定義や防止策についてもふれていく。 必要に応じ、ビデオや書画カメラ等を使用し、高齢者福祉サービスの実態を伝えていく。	
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ (援助活動)	精神科ソーシャルワーカーは、精神科医療を受ける本人やその家族に対する相談支援だけでなく、社会復帰に向けた生活技能訓練や退院計画の作成、社会資源の開発など専門職価値に基づいた援助を行っている。本講義では、精神科ソーシャルワークの概要・枠組みを理解するとともに、精神科ソーシャルワーカーの国家資格である精神保健福祉士の業務内容や倫理綱領について、また、精神障害者の疾病や障害特性に配慮したケースワークやグループワークについて具体的事例を用いて学習する。	
	リハビリテーション論	障害のある人々の生活や生き方を支援するうえで、リハビリテーションは重要且つ基本的な理念である。 リハビリテーションから想定される「機能回復訓練」というイメージを超え、人間の生き方、あり様を含めた実践的活動体系とも言えるリハビリテーションについて、正しい理解と具体的実践内容、その方法などを学習する。併せて、特に障害各分野とリハビリテーションの実践について、事例を交え講義をおこなう。障害福祉分野での支援のみならず、高齢福祉等多様な援助場面での福祉実践や推進を図る際に有用な知識として活用することができる。	
	精神保健福祉論Ⅱ（施策と業務）	わが国における精神障害者に対する施策は社会防衛思想を背景にもち、精神科病院等に隔離収容することを中心に行われてきた。このような精神科医療中心の時代から、精神障害者の社会復帰を支援してきたのが精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）である。本講義では精神保健福祉領域において精神障害者の相談支援や生活支援を実施している精神保健福祉士の業務内容・専門職倫理について学習する。また、精神科医療や精神保健福祉施策の歴史的展開と今日的な課題について学習する。	
	医療福祉論	社会の動きに連動した医療福祉課題を理解し、解決に向けた支援方法および役立つ医療福祉制度やサービスに関する知識の習得を目標とする。 医療をめぐる社会的背景、医療ソーシャルワークの実際、医療福祉制度やサービスの活用、専門職とチーム医療、地域医療、連携と協働などについて、医療現場での実践を踏まえ、事例を交えて展開する。	
	精神保健福祉論Ⅲ (制度とサービス)	わが国における精神障害者に対する施策は、精神科医療中心から精神保健法による社会復帰施策、精神保健福祉法による地域生活支援施策と展開してきた。生活訓練施設や授産施設等の社会復帰施設、ホームヘルプサービス等の在宅福祉サービス、そして相談支援体制が整備されつつある。本講義では、精神保健福祉施策の中核である精神保健福祉法の概要について学習する。また精神障害者を支える精神保健福祉の関連施策や制度、サービス等について学習する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開科目 生活と福祉	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ (ケアマネジメント)	近年、精神科病院への社会的入院患者を減少させることや精神障害者の地域生活を定着させるために、ケアマネジメントの技法を用いた退院支援や地域生活支援、また地域における資源開発や地域住民への啓発活動などのコミュニティに対する支援が注目されている。本講義では、精神保健福祉領域におけるコミュニティワークやケアマネジメントについて理論や援助の展開過程を学習するとともに、具体的事例を通してそれらの実際について学習する。	
	精神科リハビリテーション論	精神科リハビリテーションの概念（歴史、理念、意義と基本原則）について理解する。また、精神科リハビリテーションの対象やそれに関わる専門職等との連携について学び、その中での精神保健福祉士の役割について理解する。後半では、医療機関における精神科リハビリテーションに学び、精神保健、精神障害者福祉施策の内容についても理解を深める。授業形態は講義を中心とするが、学生が自ら調べ発表するグループ学習も一部導入して行う。	
	神道福祉論	「ケアを地域・自然・神道から考える」ことを目的とする。ケアとは個人の抱えている福祉課題を理解することに留まらず、その人らしさを構成する地域や自然、さらには宗教的な価値観といったさまざまな福祉文化を「つなげる」ことだと考える。そこで本講義では、ケアを考える上で、共同社会における人と人との絆を大切に人間観や、自然と人間のつながりと調和を重視する共生的な観念を持つ神道から照射することで、今日的な社会福祉との関わりを積極的に捉えることを目指す。	
発展科目	日本経済論	日本経済の歩みを、徳川期の経済システム、明治維新、第一次世界大戦の影響、世界大恐慌と高橋財政、占領と復興、高度経済成長、バブル経済の形成と崩壊、サブプライムローン問題にポイントを置いて考察する講義科目である。先物取引システム、金本位制、管理通貨制度、傾斜生産方式、加速度効果、乗数効果、地価の理論式といった、日本経済史の理解に必須の専門知識についても論及する。到達目標は、日本人の経済面での優れた知略を学ぶことを通じて、自分なりに長期的観点から日本経済のあり方を論じられるようになることである。	
	日本政治論	この授業の目的は、現代の日本政治が置かれている状況と直面している課題について知るために、日本の政治を説明するための理論を学ぶことである。以前は、日本で政治学の理論と言えば外国の理論であったが、外国の理論をそのまま使うだけでは、外国とは異なった日本の政治について、正確で一貫性のある説明はできないのである。そこでこの授業では、日本政治の事実を整合的に説明するために積み重ねられてきた諸研究から生まれてきた日本政治の理論を学んでいくことにする。	
	経済政策論	わが国の経済政策の中心である、財政政策と金融政策について学ぶ講義科目である。主なテーマは、市場への政府介入、公益事業と競争政策、外部性と公共財、情報と経済政策、成長理論、経済安定化政策、通貨価値と政策、所得再分配、税制、社会保険制度である。その際、国民経済計算、市場の失敗、範囲の経済、自然独占、費用・便益分析、IS-LMモデル等の経済学の基本事項にも論及する。到達目標は、経済政策の体系的理解を通じて、多角的・多面的観点から課題に対する日本に根ざした方策を提示できるようになることである。	
	日本マスコミ論	世論形成過程の第1段階を担うマスコミ。主に新聞、ネットなど活字メディアを中心に現在置かれている新聞社の現状を新聞社の組織体制やネット対応策など具体的な事例を明示しつつ明らかにしていく。と同時にその解決策も模索し最終的に言論人はどうあるべきかを考える。また実際の取材過程で生じる情報の定義や、取材源秘匿の原則、実名報道のあり方などについて、日々の新聞各紙や書籍を題材に論考する。最終的には課題を設け、実際に取材を行い、記事を書いてもらう。	
	日本外交論	日本外交の将来を考えるためには、これまでの歴史を学ぶことから始める必要がある。この講義では、近代以前の日本外交史を概観したあと、幕末以降の近代日本外交史を中心に取り上げていく。こうして日本外交のこれまでのあり方を学んだところで、授業後半では、現代的な問題を取り上げて講義していく。こうして過去と現在を併せて学ぶことによって、将来的な課題をしっかりと認識して、日本外交のあるべき姿を考えられるようになることを目指す。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  発 展 科 目	農業政策論	戦後日本農政の展開を、世界食料情勢、経済発展時期区分、食生活の変化をふまえて主として経済学的に考察する講義科目である。まず、所得弾性値・価格弾性値、奢侈品・必需品・劣等財、外部経済効果といった経済学の基礎知識を、農政に必要な範囲に限定して確認する。その後、今日に至る日本農政の展開を、農政の基本概念である規模、集約度、デカップリング等に論及しつつ説明する。農業関連法規や協同組合原則にもふれる。到達目標は、現代日本農政の特質と課題を理解し、自分なりに論理的提言ができるようになることである。	
	近代神道論	日本人の価値観や行動・生活様式の根底には古代に源流する神道があり、日本人である自分自身を知ろうとすれば、神道に対する知識は欠かせない。ところが、その神道について、今日の日本人一般の認識は充分なものではない。それは、近代における神道の在り方に対する誤解が、学びの妨げになっているからである。そこで、この講義においては、日本人が素直な目で神道を学ぶことをさまたげている近代神道像が誤りであることを説明すると同時に、政治、経済、外交、思想などの側面から、多角的に、その実像を明らかにして、神道に対する偏見を取り除くことを目的とする。	
	公共政策論	本講義では、実際に国家公務員として中央省庁に約10年間勤務した経験を踏まえ、我が国の政治・行政における政策決定過程が実際にはどうなっているのか、政治家と官僚の関係は本当はどうなっているのか、総理官邸内の実情など、具体的事例やエピソードに沿った講義を行う。それにより、現在の政治・行政に関し、リアルな実像や基本的な知識を習得するとともに、過大な情報の中で偏見を持たずに理解する能力や姿勢を養うことを目指す。	
	地方自治論	地方自治の制度と運用に関する知識を習得し、地方自治について理解を深めることを目的とする。講義は、地方自治の沿革、地方自治の意義、地方公共団体の意義と種類、地方公共団体の組織・事務、条例、住民の権利、国と地方公共団体との関係等について「地方自治法」を中心に解説し、また地方分権、市町村合併、道州制等の今日の新たな問題を取り上げ、さらに現実に地方公共団体が抱えている諸問題についても目をむけ、名実ともに「自治」を確立するために何が必要なのかを考える。	
	コミュニティビジネス論	コミュニティビジネスとは、「地域の課題を、地域住民が主体的にビジネスの手法を用いて解決する仕組み」であり、ビジネス性と事業性を有する。現在、地域の活性化には外す事のできないビジネス手法である。本講義では、実際のコミュニティビジネスの事業計画を作成することで、コミュニティビジネスの基礎知識と方法を獲得し、コミュニティビジネスで起業するための心構え、姿勢を獲得。また、自ら課題を発見し解決する企画立案能力の獲得を目指すものである。	
	起業論	この講義はベンチャー・ビジネスの講義であり、具体的な事業計画の作成を通じて起業するための基本的な技能を身につけるのが講義目標である。ベンチャー・ビジネスを支えるベンチャー・キャピタル論の基本的な考え方を講義するとともに、最新のコーポレート・ガバナンスの理論からみた企業システムのあり方、ひいては新しい日本型の経営システムについても考察をする。抽象論だけでなく、経済学的な視点からベンチャー・ビジネスの歴史をまとめ、具体的なケース・スタディを通じて現代の日本人として必要な企業家精神についても講義をする	
	地方財政論	本講義では、実際に国家公務員として中央省庁に約10年間勤務した経験、またその際に全国100地域以上の地方の「現場」を行脚して得た地域の現状に関する知見を踏まえ、今後我が国において、「地方主権」を確立し、地方が自立し、住民満足度を不断に向上していくために、どのような国と地方の関係とするべきか、道州制の是非など、学問的な財政論に偏ることなく、基本的な知識の習得はもちろんのこと、受講者が「現場」に即した真の地方財政の在り方に関する考察を行うことを目指す。	
	政教問題論	本講義は、わが国における政教関係がいかにあるべきかを考察するものである。講義では、明治以降終戦までの政教関係、占領下の政教政策、日本国憲法における政教関係、諸外国における政教関係について論じたのち、現実に生じている政教問題について考察する。具体的には、津地鎮祭訴訟をはじめとする政教関係の訴訟、首相の靖国神社参拝にかかわる問題、「A級戦犯」合祀をめぐる問題など、政治や司法の場においても議論されている問題を取りあげる。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  発 展 科 目	国際政治論	この授業では、国際政治を理解するのに必要な知識を講義していく。まずは文明論の観点を取り上げ、世界における日本のあり方をマクロに考えることから始める。こうして国際政治の全体像を把握したあと、現代的な個別の問題へと徐々に視点を移していく。例えば、安全保障論やインテリジェンス論など、若干の専門的な知識が必要な分野について、順番に、バランスよく講義していく。そして授業後半では、これまで講義した国際政治に関する知識を踏まえて、日本のあるべき姿を主体的に考えていく。	
	サブカルチャー論	映画・アニメ・コミックなどの概説を通して、サブカルチャーから見えてくる現代日本文化の特色について講義する。具体的には、山田洋次監督の映画作品、宮崎駿監督のアニメ、手塚治虫・ちなてつやなどのコミックを取り上げて、それらが登場してきた時代背景も考えながら、日本の近代化がもたらした問題を探っていく。この講義の到達目標は、メディアの視点から見た日本文化の構造を理解することにある。 講義予定 (1) 映像に描かれた日本の家族と共同体(山田洋次の映画世界)、(2) アニメの中の日本(宮崎駿の作品)、(3) 戦後コミックの誕生と手塚治虫	
	文化政策論	これまでの我が国の文化政策を検証し、今後のあるべき姿を展望する。 我が国は神国としての神武の建国より、護国仏教の律令国家として、和魂洋才の立憲君主国家へと、国際情勢の節目毎にその進路の舵を執ってきた。大戦後に経済復興を果たした後、私達はこれから如何なる文化を創ってゆくべきなのか。 我が国のこれまでの文化政策を検証し、また海外諸国の文化政策の実例と比較しつつ、未来のあるべき姿を展望し、それに必要な文化政策を描くことを目指す。	
	雇用政策	就労支援に必要な雇用政策の全体像を把握する。障害者等を取り巻く日本の雇用・就労環境の動向を見ながら、労働施策の概要を理解する。また、ハローワークや職業リハビリテーション機関などを通じた障害者雇用施策と就労支援制度の概要を理解しながら、運営主体である国、都道府県、市町村の役割と実際を見ていく。さらに、就労支援に係る専門職の役割と現状を把握しながら、生活保護と障害者雇用施策との連携構築の必要性への理解を深める。社会福祉士試験突破への基礎的学力を確立することを目標とする。	
	スクールソーシャルワーク論	現代日本の学校教育現場が抱えている課題と実態を踏まえ、SSWを導入する意義と必要性を理解する。アメリカや海外のSSWについても理解を深めるとともに、日本におけるSSWの発展過程と現状を把握する。SSWの実践モデルについて、ソーシャルワークの視点から理解する。さらに、支援方法として、個別支援(例えば不登校や飛行、虐待、発達障害など)の視点と実践例の理解を、さらに、学校や家庭、地域との共同支援の実際についてマクロ的視点から理解を深める。	
	権利擁護と成年後見制度	講義形式の授業を通じて成年後見制度を中心とした権利擁護のあり方について考えてゆく。講義の展開上、基本的人権(特に生存権)や法律行為、行為能力といったやや詳しい法的话题、また家庭裁判所や地方自治体などの活動にもふれることになる。決して平易とはいえない法律用語の理解等を強いることになるかもしれないが、学生一人ひとりが権利擁護の必要性を切実なものとしてとらえ、より踏み込んだ権利擁護のための議論を展開できるようになることを授業の到達目標としたい。	
	福祉行財政と福祉計画	この講義は、福祉行財政の制度とその仕組みを理解することを目標とする。わが国における少子高齢化の急速な進展は、社会福祉へのニーズをますます高めているが、その一方で、その財源問題を深刻なものにしている。つまり、福祉サービス・給付への需要と供給を、財政的にどうバランスさせるかは、重要な政策課題である。この講義では、わが国の社会福祉の財源、費用、資金の流れを考察し、各段階の政府の役割と分担を、財源の観点から検討する。また、福祉計画の重要性を、財政理論を交えて検討する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	発展 科 目	社会福祉経営論	現代日本の社会福祉事業は、第2次世界大戦後GHQの占領政策のもと、社会福祉の国家責任を明確にすることを意図して、公益法人の特別の法人として「社会福祉法人」を新たに設置し、戦前からの慈善事業や社会事業を国家管理下に置いた。そして措置委託費を基本とする施設運営が長く続いた。1998年の社会福祉基礎構造改革を契機として、措置制度体系がほぼ終焉し、代わって「契約」制度が導入されたことによって、社会福祉事業の運営も民間企業並みの「経営管理」という考え方によって変わってきている。本講義では、この経緯と理論及び実践的課題について考究してみたいと考えている。
	司法福祉論	司法福祉は、裁判所を核とする司法と、犯罪者・非行少年の処遇を中心とする法務行政のなかで展開される活動である。司法福祉の対象は、家族福祉、非行、虐待、成年後見などにわたるが、本講義では、司法システムを活用した福祉援助の政策や制度を検討する。まず、司法福祉の基礎概念および裁判所の制度・役割について説明し、ついで個別の問題として、離婚と子の福祉、児童虐待、非行、犯罪被害者の援助等を取り上げ、現状と課題を考察する。	
実 習 科 目	文化継承実習Ⅰ	(淺沼 博 講師) 授業形態を「実技(実践)」と「講義(茶道学)」とに分け、道としての茶、実践としての茶を総合的に学ぶことにより、伝統文化に対する関心や理解を深める 実技は、茶室での作法、お茶・お菓子のいただき方等客の心得、点前における割稽古、盆略点前等の基本を身に付ける。 講義は、茶道学習の心構え、四季七則等、茶の精神人類とお茶との出会いなど茶の歴史、諸道具の名称、日本の季節等実技の裏付けとなる内容とし、茶道への興味を持たせる。  (飛騨大富 講師) 我が日本国の風土は、様々な文化を生み出してきた。中でも「雅楽」は平安の時代には、その体制・理論を作り上げていた。世界的にも稀有の歴史を持つ、音楽文化であるといえよう。本講義では悠久の時を経て、今なお現在に息づく「雅楽」の概要、また基本的な楽器の演奏法等を、入門者を対象に講義する。  (福田啓子 講師) 日本伝統武道である薙刀を取り上げ、その歴史的経緯と身体動作的特徴を概説し、形の実習を行う。本講では、特に武技であるため、対人動作が特徴であることを認識させる。武道では、なぜ「着眼」とよばれる「目付」や正しい姿勢、動作をしながらの発声や相手との距離や引いては心の間合いが重要とされるのかを認識させる。 先ず、礼法と着装を学ぶ。次に、伝統的な動作法とされている摺足や主に上肢の巧緻性を必要とする薙刀の技の解説を行い、薙刀対人動作法の特徴を練りこんだ「全日本なぎなた連盟の形」の紹介と1~4本の実習を行う。  (小笠原 清忠 講師) 二足歩行をする人間の宿命で、頸と腰椎の部分が一番鍛えるべきところ。頸椎と腰椎は一番動きやすく、動かしやすくできています。そしてこの部分の筋肉が常に緊張して身体を支えています。鍛錬する稽古として、立つ、座る、歩く、回る、お辞儀する、物を持つといった日常何気なく行っている所作について稽古する。	
	産業社会実習	産業社会分析や実社会における就業体験を通じて、自らの職業観や自らの卒業後の適職探索能力を確立させることで、就業意識を高めていく。先ず事前教育として、具体的な企業の業務内容分析力やビジネスマナー等を習得し、夏期休業中に実施される実習に備える。事後教育では、実習成果と反省点を確認しながら報告書にまとめ、今後のキャリア形成に反映させていく。さらに、ビジネスプラン作成を通じた起業教育を行い、主体的な職業能力を醸成する。実践力のある職業人の育成を心がけていく。	
	文化継承実習Ⅱ	(淺沼 博 講師) 実習Ⅰで教授した実技と茶道学を更に深めた内容とし、規律正しさ、人としての対応の仕方、美しい立居振舞を身につけさせる。 実技では、お辞儀の仕方真行草、立ち方、歩き方等を反復して稽古、また、炉薄茶点前の稽古により風炉から炉に変わる季節の移り変わりを実感させる 講義では、利休道歌による茶の心、茶の伝来と発展など茶の歴史、茶道具の名称や袱紗や扇子の意義、さらに、日本の行事と季節の関係等茶道への理解を深めさせる。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  実 習 科 目	文化継承実習Ⅱ	<p>(飛驒大富 講師) 我が日本国の風土は、様々な文化を生み出してきた。中でも「雅楽」は平安の時代には、その体制・理論を作り上げていた。世界的にも稀有の歴史を持つ、音楽文化であるといえよう。本講義では悠久の時を経て、今なお現在に息づく「雅楽」の概要、また基本的な楽器の演奏法等を、入門者を対象に講義する。 (「猶」、「文化継承実習Ⅰ」を受講したものが本講義を受講できる事とする。)</p> <p>(福田啓子 講師) 本講では、先ず、「全日本なぎなた連盟の形」の模範をVTRで見せ、対人動作法の特徴とする「着眼」、「発声」、「間合い」に加え、一般的にはリズムと解される「拍子」のあることを見て実習させる。次に、形の5~7本の紹介を行い実習する。周囲の状況を判断しつつ、相手との対応から素早く自分の動きを決断できる能力を養う。相手を思いやる心を育てなければ、形ができないことを認識させる。心身の鍛錬を趣旨とする武道では、修練する過程で気魄を込めることも重要であることを気付かせる。</p> <p>(小笠原 清忠 講師) 基本体とは、あくまで人間本来の構造から自然であり生きたもの、自然体でなければなりません。行動の稽古は、それが身につくためには、日常の稽古が大切であって、日常行動である座る、立つ、歩く、廻る、物を持つ、お辞儀をするなどは、そのまま武道にも生かされる基本動作となります。この基本動作を正しく行うことによって、正しい姿勢が訓練され、逆に正しい姿勢でこれらの動作を行うことにより、健康的であり、美しく、実用的な効果につながります。すべての無駄を省いた効能的、実用的な動きは見ていて自然であり美しいものです。</p>	
	文化継承実習Ⅲ	<p>(浅沼 博 講師) 授業内容は、実習ⅠとⅡで教授した内容をそれぞれ段階的に深める。系統立てて学ぶことにより、茶道が、日本の伝統文化の中で重要な位置を占め、精神文化としての特質を理解させる。 実技では、風炉と炉の薄茶棚点前を中心に、亭主と半東の役目、客の作法等おもてなしの心を身につけさせる。 講義では、点前の意義、一期一会等茶の心、僧侶の茶、貴族の茶、武家の茶など茶の歴史、茶席の花と花入れ、茶菓子の銘から美に対する感性や季節感を養う。</p> <p>(飛驒大富 講師) (「文化継承実習Ⅱ」を受講したものが本講義を受講できる事とする。本年度の開講講義のため、本年度開講無し。) 「雅楽」の世界には神道・仏教等、国内の宗教儀礼との密接な関わり合いを持つ一面がある。そこに於ける奏者としての役割、その意義などを教示する。「文化継承実習Ⅰ・Ⅱ」にて進められたその技能・雅楽のもつ精神性を、更に練磨・練成する為の講義である。</p> <p>(福田啓子 講師) 礼法の発展は、現代武道より古流で特に重視され、伝統文化として発展してきた。神前や正面に礼をし、相手に礼をする中で姿勢や動き方などを常に油断しない対人的武技の特徴が含まれていることを「薙刀古流の形」の動作から認識させる。古流の形は、主に太刀対薙刀の技として修練されてきた。薙刀は、攻める太刀と比較すると防御の武器である。長物を半身で遣い、体の回転で前進するためには、巧緻性や柔軟性を他の武道より要求される。このため、明治期には、女子武道として教育の場で発展してきたことを技の特徴から実習させる。</p> <p>(小笠原 清忠 講師) 動作とは、感覚と筋肉運動が互いに呼応して、ある目的に向かって働くことを云いますが、感覚の中でも、視覚が特に大切となります。視覚の働きが筋肉の働きを動かしていくのです。しかし視覚の働きを実際に自認することは大変難しいことで、これに変わって意識的な呼吸を利用して自認します。呼吸には二重の性格があり、日常の呼吸は無意識に行なわれていますが、必要に応じて意識的にも行うことが出来ます。稽古をするにあたっては、呼吸と動作を合わせることから始めます。呼吸とは吸う息と吐く息だけで、呼吸を止めるということはありません。止まった呼吸は、その瞬間に死気体となってしまいます。</p>	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	実 習 科 目	<p>文化継承実習Ⅳ</p> <p>(浅沼 博 講師) 授業内容は、実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで教授した茶道の精神、歴史、文化等体験、修得することにより自国の伝統文化を尊重する態度を養う。 実技は、炉の濃茶の点前の準備の仕方、茶入れの扱い、袱紗の四方捌き点前順序、道具の位置等、濃茶点前、濃茶のいただき方を身につけさせる。 講義は、天下一の点前、落葉等茶人の逸話、利休と侘び茶、千家の成立等茶の歴史さらに日々是好日、無事是貴人等の禅語から茶道の根本精神を知る。</p> <p>(飛驒大富 講師) 〔「文化継承実習Ⅲ」を受講したものが本講義を受講できる事とする。本年度の開講講義のため、本年度開講無し。〕 「雅楽」の世界には神道・仏教等、国内の宗教儀礼との密接な関わり合いを持つ一面がある。そこに於ける奏者としての役割、その意義などを教示する。「文化継承実習Ⅰ・Ⅱ」にて進められたその技能・雅楽のもつ精神性を、更に練磨・練成する為の講義である。</p> <p>(福田啓子 講師) 「薙刀古流の形」の特徴を現代の「全日本なぎなた連盟の形」と対比させながら紹介し実習させる。太刀の扱いも実習課題とする。太刀と薙刀の技では、より実戦的になり、相手との間合いや呼吸、拍子を読み取り、自分の動作を判断する必要がある。実習の中で、相手の動きや気魄に動じない精神的な強さを修得するよう修練させ、現代生活にも武道の自律性が必要なことを認識させる。</p> <p>(小笠原 清忠 講師) 教養という一般的な学問的、学術的な教養であって、それは知的なものとは異なりますが、深く豊かな教養とは、言語、動作を通じて第三者に伝わっていくものです。これが行動の教養となって現れるのです。知的教養と行動の教養を区別する必要はないのかもしれませんが、豊かな情緒性や知的教養を外に示すには、どうしても言語や動作という行動を通じてということになります。 たとえば、社会的に高地位な人でありながら、食事の仕方があまりに卑しかったりすることも往々に見られます。諸外国では知的な教養と共に、行動の教養も常に伴っていることが要求されます。もちろん日本でも「行儀作法が人を作る」といわれますが、是非、行儀作法を心得て行動できる人になりたいものです。そのための応用の所作を学びます。</p>	
	文化継承実習Ⅴ	<p>(浅沼 博 講師) 授業内容は、実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで教授した内容をもとに我が国の長い歴史と伝統の中から、守り伝えられてきた日本の伝統的精神文化である茶道を通じて、真の伝統文化を継承し発展させる。 実技は、風炉濃茶点前、茶碗荘、茶杓荘、茶入荘、貴人点等を繰り返し学ぶことで洗練された実技を身につけさせる。 講義は、南方録、茶話指月集等の解説、床の真行草、床の役釘、にじり口、天井等茶室についておよび茶庭の名称、関守石等茶庭について学ぶ。</p> <p>(飛驒大富 講師) 〔「文化継承実習Ⅳ」を受講したものが本講義を受講できる事とする。本年度の開講講義のため、本年度開講無し。〕 雅楽のもつ独自の芸術性・歴史概要などを理解をした方々を対象に行う講義である。日本の歴史と共にあり続ける「雅楽」、この日本独自の芸術が、この先に歩む道と共に考えたい。</p> <p>(福田啓子 講師) 古来より、人格を磨き日本人として心得ておくべき徳育を技として編み出したといわれる「薙刀古流の形」を、その歴史的な由来や発展してきた経緯を紹介する。特に、女子武道としての発展を契機づけた明治期から現代までの先覚的な武道家を取り上げ、「婦徳」を高める心身鍛錬の武道として薙刀が伝承されたことを学ぶ。また、なぎなたの動きを古流から現代なぎなたまで総合的に実習し、薙刀の伝統的価値の修得をめざし実習する。</p>	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実習科目	文化継承実習Ⅴ	<p>(小笠原 清忠 講師)</p> <p>礼法というと、何やら堅苦しい形式のみを連想しがちですが、これが礼法に対する一番の誤りです。ただ形を押し付けるだけでは意味がありません。なぜそうするのか、なぜそうなるのか、この二つが大切なのです。ただ体を曲げた形だけのお辞儀には意味がありません。なぜお辞儀をするのか、その意味である気持ちが先に立つことが大切です。礼をすることによって、互いに気持ちが響かなければなりません。この「ひびき」の交流が、お辞儀の意味を生かし、お辞儀の形を生かしてくれます。</p> <p>あらゆる場合を想定して稽古をしていくのが礼法の稽古となります。意識的に繰り返し繰り返し、何回も反復習練することによって、それがやがて自分に同化して、無意識の内にそれができるようになって、初めて礼法は自分のものとなり、基礎が身についた後に相手に併せて応用が必要となる。基礎の稽古とともに、なぜそうするのかといった裏付けの理論を知って身につけるように稽古する。座礼を中心とした、物のあつかい等の応用所作を稽古する。</p>	
	文化継承実習Ⅵ	<p>(浅沼 博 講師)</p> <p>授業形態を「実技(実践)」と「講義(茶道学)」に分け、茶道を総合的に学ぶことにより、伝統文化に対する関心や理解を深め、尊重する態度を育て、国際社会に生きる日本人としての基礎的資質を育む。</p> <p>実技は、炉の小習の点前、及び唐物、台天目、盆点の点前を繰り返し学ぶと共にそれぞれの拝見の仕方を学ぶ。</p> <p>講義は、茶経、喫茶養生記等の茶書の概要、郷土の茶人杉木普斎、明治時代、伊勢の地で茶の湯を広めた裏千家十一代家元玄々斎について学ぶ。</p> <p>(飛驒大富 講師)</p> <p>(「文化継承実習Ⅴ」を受講したものが本講義を受講できる事とする。本年度の開講講義のため、本年度開講無し。)</p> <p>雅楽のもつ独自の芸術性・歴史概要などを理解をした方々を対象に行う講義である。日本の歴史と共にあり続ける「雅楽」、この日本独自の芸術が、この先に歩む道を共に考え頂きたい。</p> <p>(福田啓子 講師)</p> <p>現在の武道は、競技化が進行している。伝統かスポーツかの二者択一ではなく、武道を総合的に把握し、伝統文化としての価値を学ぶ中で、日本の伝統的な文化から生み出された勝敗を決する競技に発展してきたことや姿勢や心身鍛錬を生活の目標とする生涯体育としても重要であることを多角的に学ばせる。地域や学校、職場を含む社会全体で貢献できる人材の育成を武道の修練により達成できるよう心身両面から総合的に実習を行う。</p> <p>(小笠原 清忠 講師)</p> <p>礼法というと、何やら堅苦しい形式のみを連想しがちですが、これが礼法に対する一番の誤りです。ただ形を押し付けるだけでは意味がありません。なぜそうするのか、なぜそうなるのか、この二つが大切なのです。ただ体を曲げた形だけのお辞儀には意味がありません。なぜお辞儀をするのか、その意味である気持ちが先に立つことが大切です。礼をすることによって、互いに気持ちが響かなければなりません。この「ひびき」の交流が、お辞儀の意味を生かし、お辞儀の形を生かしてくれます。</p> <p>あらゆる場合を想定して稽古をしていくのが礼法の稽古となります。意識的に繰り返し繰り返し、何回も反復習練することによって、それがやがて自分に同化して、無意識の内にそれができるようになって、初めて礼法は自分のものとなり、社会生活の中にも生きてくるものなのです。礼法の基本である、立つ、座る、歩く、回る、お辞儀する、物を持つといった日常の行動について、基礎が身についたならば、時、所、相手に似よって応用していく稽古をし、さらに、食事作法、人生の行事について学ぶと共に掛け軸の扱いといった基本が確実にできていなくては習得できない事項を稽古します。</p>	茶道文化検定4級合格を目指す。
	社会調査実習	<p>変動の激しい、多極化・複雑化の進む現代社会では、社会的現実をとらえ、さまざまな社会問題の解決を図っていく上で、社会調査は不可欠の方法となっている。</p> <p>本実習では、社会調査の全過程を体験することにより、社会問題の理解や現状分析、解決方法の探索ができるようになることを目的とする。具体的には、社会調査の企画・設計、調査票の作成、サンプリング、調査の実施、データクリーニング、データの入力、集計、分析、報告書の作成・発表といった一連の作業を体験してもらう。</p>	



## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  実 習 科 目	社会福祉援助技術現場実習	この科目の目的は、社会福祉士が相談援助を行っている実践現場での実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得することである。社会福祉学は理論と実践の相互作用で構成されており、現場実習は理論がどのような形になって実践現場に現れてくるかを体験できる機会となる。また、利用者との関わりを通して、基本的人権の保障、平等、自由などの基本的理念や価値観を改めて問い直すことのできる機会でもある。この科目では、社会福祉士として求められる資質、技能、事故に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得するとともに、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ (事前指導)	この科目の目的は、現場実習の事前段階として必要な知識と技術について、個別指導並びに集団指導を通して、具体的かつ実際に理解することである。事前指導の中心となる事項は、実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する知識を習得することである。その知識やこれまで学んできた内容を踏まえて、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を作成する。さらに、「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法を理解する。なお、実習中は巡回指導を行う。	
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ (事後指導)	この科目の目的は、現場実習を振り返り意識化する作業を通して、体験の客観化や知識・価値との関係性を十分に認識することである。短期集中型実習においては、実習生がその期間内に経験できる内容は限られているため、事後指導においては他の学生の報告を聞き、自分が経験できなかった内容を補い、実践の全体像を把握する。また、実習報告書を作成することを通して、実習成果を整理する。さらに、実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。	
	精神保健福祉援助技術実習	本科目は事前指導、現場実習、事後指導から精神科ソーシャルワークの実践力を習得することを目的としている。事前指導では、実習先である精神科病院等の概要について学習する。また、問題意識を整理し実習中の課題や目標を設定する。現場実習では、実習施設において相談援助をはじめとした援助技術の理解に努める。また、利用者とのコミュニケーションから、障害特性や社会生活上の困難の把握に努める。事後指導では、講義で学習してきた技術や知識と、各自が現場実習において観察してきたことを結びつけ理解することを目的とする。	
	社会臨床実習	家族や地域社会の変容によって現代日本にもたらされている様々な社会問題についてその社会的背景や構造的要因を深く理解し、さらに解決に向けて自ら行動を起こしたり提言したりできる力を身につけることを目的とする。学外の組織や団体と連携してフィールドワークを通じて問題の解決に向けて実践的に取り組める能力を養う。教育や医療などの問題について、行政やNPO団体等と長期的にパートナーを組んで実地教育を進めることを想定している。	
	社会情報実習	家族や地域社会の変容によって現代日本にもたらされている様々な社会問題について探求するとともに、その社会的背景や構造的要因を深く理解し、社会情報技術を駆使してその解明にあたり、情報発信できる力を身につけることを目的とする。 出版メディアや放送メディア等と連携したり、印刷媒体やインターネット等を用いたりしながら、情報発信していく能力を養う。新聞社やテレビ・ラジオ社等と長期的にパートナーを組んで実際に情報発信活動をおこなうことを想定している。	
	スクールソーシャルワーク実習	学校や関係機関における実習を通して、教育の現場や児童生徒の現状を理解する。子どもの教育や生活の保障のための支援のあり方を教育と福祉の視点から習得する。SSWとして教育現場でのコミュニケーションのとり方、教職員との連携の取り方について理解する。子どもや家庭、学校、教育委員会などの援助関係の形成、校内のケース会議、関係機関を含む多職種による連携の実際、教育関係機関の組織、地域や社会資源との関係などについて理解を深める。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	演 習 科 目	<p>現代日本演習 I</p> <p>本演習は、担当教員の指導の下に、本学部の専門科目で扱われている諸分野の知識を土台として、問題を発見し、分析し、解決策を考えるという体験を通じて、学生の主体性、問題意識、問題解決能力を高めることを目的とする。</p> <p>(新田 均 教授) 政治、行政、言論などの分野に興味を持っている学生、あるいは将来これらの分野で活躍したいと考えている学生を対象に、本学部の諸科目の学習を通じて得た知識を総合して、自分が理解を深めたい問題を見つけ出し、正確な理解にいたる方法を指導する。春学期においては、各分野における問題を扱った資料を正確に読みとる方法を学び、秋学期においては、自ら選択した問題に関して、自ら調べ発表する訓練を行う。</p> <p>(橋本雅之 教授) 近現代における国語教育論や国語政策論などを中心として、近代日本が直面した国語問題を演習形式で考察する。 この演習では、明治時代以降、近代的な西欧思想が入ってくる中で、国語がどのように研究され、それが我が国の国語教育や国語政策にどのように取り入れられ、実践されていったのかを調査・分析し、そこから現代の国語問題の課題を発見できるようになることを到達目標とする。</p> <p>(筒井琢磨 教授) 現代日本が直面している様々な問題について、自らの関心にしたがって主体的に調べ、分析し、状況を把握する体験を通じて、社会の構成者としての自覚や責任感を養うとともに、これまで学習してきた文化伝統に関する知識を総合して、新たな問題解決の視点を見出すことを目的とする。2年次ではとくに、文献資料を題材として、プレゼンテーションとディスカッションを通じてお互いの自己陶冶を目指す。</p> <p>(富永 健 教授) 現代日本の諸問題のうち、憲法や法律にかかわる問題について演習をおこなう。この演習では、大学生にとって必要な基本的学力を修得することを目標とする。学生にいくつかテーマを示し、その中から各自が選んだテーマに関する資料を探すことから始め、第一に資料を正確に読む力をつけること、第二に資料を使って自分の意見をまとめる力をつけることを目指したい。また見聞を広めるため、裁判所の見学(裁判の傍聴)、議会の参観・傍聴などを実施する。</p> <p>(山中 優 准教授) この授業では、現代の日本政治が直面している課題は何であり、その課題を解決するためには何が必要であるかについて幅広い知識を持ち、それについて考える姿勢を養うことを目的とする。具体的には、論壇で展開されている論説文などの入門的な文献を調べてそれを読解し、その要点を発表する練習やディスカッションを行っていく。そのために、本の読み方や文献の調べ方、およびディスカッションの進め方等に関する「学びの技法」を身に付ける。さらに、身近な政治課題についても見聞を広めるため、市議会や県議会の傍聴に参加するなど、地方政治の現場に触れる機会も設ける。</p> <p>(岩崎正弥 准教授) 日本文化の真の理解のために、「道」に入門し、「一芸に秀でた人となること」を目指す。 受講生には、2年間に涉って、芸道(茶道・華道・香道・雅楽・邦楽等)や武道(礼法・剣道・柔道・弓道等)の中から、それぞれがひとつの「道」を選び、その「道」に入門し稽古に精進してもらおう。授業では、その経過の記録を報告してもらおう。その具体的な体験を通じて、伝統的な日本文化に触れ、それを体得してゆき、日本文化を学んでもらおう。 また、受講者の報告を相互に聞きながら、日本文化の広がりや輪郭を理解してゆく。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  演 習 科 目	現代日本演習Ⅱ	<p>本演習は、現代日本演習Ⅰに引き続き、担当教員の指導の下に、本学部の専門科目で扱われている諸分野の知識を土台として、問題を発見し、分析し、解決策を考えるという体験を通じて、学生の主体性、問題意識、問題解決能力を高めることを目的とする。</p> <p>(新田 均 教授) 現代日本演習Ⅰで行った学習を基礎として、春学期においては、政治、行政、言論の分野における問題を幾つか取り上げ、それについてグループで調べ、討論する訓練を行う。秋学期においては、自らの進路を視野にいれて、もう一度、理解を深めたい問題を選び直し、基本的な文献を集め、論点を整理して、卒業研究をまとめるための準備をはじめめる。</p> <p>(橋本雅之 教授) 現代日本演習Ⅰにおける国語問題の理解の上に立って、さらにそれを深め、現代における日本語の国際化とは何か、あるいは今後、伝統継承に果たす日本語の役割とは何か、その理論と実践について演習する。</p> <p>この講義では、日本語の国際化や伝統継承における日本語の役割について、自らで調査を計画しそれを実施することを通して、受講生のおのが「これからの日本語と日本文化」についての提言をできるようにすることを到達目標とする。</p> <p>(筒井琢磨 教授) 現代日本が直面している様々な問題について、自らの関心にしたがって主体的に調べ、分析し、状況を把握する体験を通じて、社会の構成者としての自覚や責任感を養うとともに、これまで学習してきた文化伝統に関する知識を総合して、新たな問題解決の視点を見出すことを目的とする。3年次ではとくに、既修の講義や実習内容を題材として、プレゼンテーションとディスカッションを通じてお互いの自己陶冶を目指す。</p> <p>(富永 健 教授) 本演習では、憲法、地方自治法および国家公務員法（地方公務員法）に関する事例を取り上げ、各事例の問題点を考察する。演習の資料としては「判例百選」を用い、各事例における問題点を確認し、解説を参考にして自分の意見をまとめて報告させる。後半は、「判例百選」にかぎらず、各自関心のあるテーマについて、自ら調べて報告させる。報告の際はレジュメを作成し、報告後はレポートにまとめて提出してもらおう。また見聞を広めるため、県庁や市役所などの見学を実施する。</p> <p>(山中 優 准教授) この授業では、「現代日本演習Ⅰ」で養った「現代の日本政治における課題とその解決策について考える姿勢」を生かしつつ、今度はその姿勢を専門的・理論的に考察する能力へと高めていくことを目的とする。具体的には、受講生各自が自分の関心に基づいてテーマを決め、そのテーマに関する先行研究を図書館等で継続的に調べ、その先行研究の要点とそれに対する自分の意見を発表する練習を積み重ねていき、ディスカッションを行っていく。最終的には、そのテーマについて、まとまった分量のレポートを作成し、翌年の課題研究演習（卒業研究）に向けてのステップとする。</p> <p>(岩崎正弥 准教授) 日本文化の真の理解のため、「一芸を嗜（たしな）む人となること」を目指す。 現代日本演習Ⅰの2年目である。1年を経て、その技はどれくらい習得されたか。またその成果は。またその「道」を他の人に説明することができるであろうか。また披露することができるであろうか。そして何よりもその心はそのように成長したか。 授業では、引き続きその経過を相互に報告しながら、やがてその「道」について、語り、実際に行うことができるよう、次世代に向けて継承してゆける人と成る。</p>	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  演 習 科 目	社会福祉援助技術演習Ⅰ (コミュニケーションスキル)	この科目の目的は、現代日本における福祉的課題に対して、当事者主体の視点をもったオピニオンリーダーとなる社会福祉士に求められるコミュニケーションスキルと相談援助に必要な面接技術を習得することである。その際に、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態をとる。特にコミュニケーションスキルを習得するためにはロールプレイングの方法を活用する。また、自らのコミュニケーションの特徴を理解するために視聴覚教材等も活用する。	
	社会福祉援助技術演習Ⅱ (相談援助のプロセス)	この科目の目的は、現代日本における福祉的課題に対して、実践現場のリーダーとなる社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を習得することである。具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を通して相談援助のプロセスを理解するとともに、それに係る技術を実践的に習得する。その際に社会的排除、虐待、家庭内暴力などの具体的な課題別の事例検討の方法を活用する。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	
	社会福祉援助技術演習Ⅲ (相談援助の実際)	この科目の目的は、現代日本における福祉課題に対して、地域福祉の担い手として独創的で斬新な発想力を備えた社会福祉士に必要な総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発にかかる能力を涵養することである。中心となる概念はコミュニティ・ベースド・ソーシャルワークである。その際に、学内での事例検討のみならず、周辺地域の社会資源と連携をはかりながらフィールドワークを導入し、地域住民のニーズ把握やプランニング、ネットワークキング、サービスの評価の実際を学ぶ。	
	精神保健福祉援助演習	精神障害者の地域移行支援や地域生活支援を行っていくためには、精神医学、精神保健学、精神保健福祉論等のなかで学んだ精神障害についての医学的知識、社会資源に関する知識、また精神保健福祉士の実践内容に関する知識や技術に加えて、さらにそれらを実践のなかで駆使していくための応用力が求められる。本科目では講義科目で習得してきた知識や技術を援助実践との結びつけができるよう、実技指導を中心とする模擬訓練やロールプレイを通して、精神科ソーシャルワークの実践力を身につけていくことを目的としている。	
	スクールソーシャルワーク演習	学校におけるソーシャルワークを展開する上で必要な知識と技術を習得する。具体的事例を元に、援助方法や関係機関との連絡調整のあり方を学ぶ。子どもを取り巻く地域の状況やフォーマル・インフォーマルな資源を踏まえたソーシャルワークの理解を深める。地域や学校に対するアセスメントや具体的な問題解決能力を高めるための力をつけるとともに、チームアプローチ、マネジメント、ケース会議といった教育関係機関との協働についても学ぶ。福祉と教育の協働体制の中での相談業務の展開方法や、記録や評価など実証的にソーシャルワークを検証する力をつける。	
	課題研究演習(卒業研究)	本演習は、本学部で学んできた全ての知識・体験を総合して、一つの課題に対する自らの見解をまとめあげることによって、人生の方向性を定め、国家を担い、社会を支える主体者としての自覚と能力と養うことを目的とする。  (筒井琢磨 教授) 現代日本が直面している様々な問題について、自らの関心にしたがって主体的に調べ、分析し、状況を把握する体験を通じて、社会の構成者としての自覚や責任感を養うとともに、これまで学習してきた文化伝統に関する知識を総合して、新たな問題解決の視点を見出すことを目的とする。4年次では現代日本演習Ⅰ・Ⅱでの成果を卒業研究という形にまとめあげる作業をゼミ発表の場を利用しながら進めていく。  (富永 健 教授) 現代日本の諸問題について、卒業研究として論文をまとめるための指導をおこなう。テーマの設定、資料の収集・解読・整理、アウトラインの作成、執筆等について指導する。また論文作成まで、何度か報告をしてもらい、そこで自分とは異なった見方や意見を知り、また説得力を持つためのより深い考察ができるようにしたい。これまで大学で学んだことの集大成として、「レポート」ではなく、自分の意見が明確に、根拠をもって主張されている「論文」の作成をめざす。	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 演習科目	課題研究演習 (卒業研究)	<p>(新田 均 教授) 現代日本の政治、行政、言論などの分野における諸課題の中から、自らが重要であると考えた問題を選び、現状を把握し、問題点を整理し、それに伝統・文化・歴史・風土などを観点を加味して、自らが解決策を考えることによって、日本の国家や地域に貢献するという使命感を養い、人生の方向性を定め、必要な基礎的能力を養うことを目指す。</p> <p>(橋本雅之 教授) 伝統継承、文化創造の課題について、特に文芸・日本語表現に焦点を当てて、調査分析し、それについての提言をまとめ、それをプレゼンテーションする。課題の取り組みについては、個人もしくはグループを編成し、さらに学内外に協力者をもとめて、関係各方面に実際的な提言ができるようになることを到達目標とする。</p> <p>(守本友美 教授) この科目の目的は、4年間の学習の集大成として卒業論文を執筆することである。社会福祉学は実践科学に支えられた学問であり、ミクロとマクロの双方の理論と実践の融和を示唆しているともいえる。卒業論文を執筆するに当たっても、常に実践に関心を向け、実践を言葉にする努力をする必要がある。それは、現代日本における福祉課題を抱える人々の生活保障を目指して、その具体的な施策および支援活動を究明する研究である。この科目では研究を進めるための準備や方法論を理解したうえで、独自の研究テーマを選び、社会福祉調査法を取り入れて論文の完成を目指す。</p> <p>(山路克文 教授) 社会福祉学は、実践を重んじる学問分野である。その意味で卒業研究はフィールドワークを基本に、当事者の視点や立場を尊重し現場に根ざした考察を第一義的な課題としたい。、社会福祉分野は幅広いので、自らが得意とするフィールドを選択し、現場との有機的な交流のなかで、卒業研究を完成させることを目標としたい。</p> <p>(岩崎正弥 准教授) この国の為、文化の為に、地域の為に働こうという、気概のある日本人を育てる。 これまでの学問内容を踏まえ、卒業を控えた総仕上げとして、我が国における「課題」を取り上げ、その研究に取り組む。近年は、学問の探求と就職活動とは別次元の物になりがちであるが、改めて教育の初心に立ち返り、我が国がこれからめざすべき理想像の実現のために真に役立つべく、この国の「課題」を的確に理解し、それを解決してゆくことを志とし、自身の人生の進路を重ねてゆける、真に有為なる人材を創る取り組みと為す。</p> <p>(鵜沼憲晴 准教授) わが国は、例をみない速度で高齢化が進行している。これに対し、高齢者保健福祉政策は緊急の課題として取り組まれ、ゴールドプランの策定、介護保険制度の実施等がなされた。本演習では、高齢者保健福祉を主たる研究対象とし、とりわけ介護問題に焦点を当て、家族介護の実態、高齢者保健福祉法制度の問題点・課題点、介護保険制度の現状と課題、高齢者虐待の実態及び虐待防止法の課題等について明らかにしていく。授業は、学生によるグループ発表及び個人発表を踏まえた討論形式ですすめていく。</p> <p>(笠原正嗣 准教授) 本演習は、現代日本が直面する諸課題について、とりわけ社会資源とのアクセシビリティ（接続可能性）保障の問題に認識視座を定め、研究を深めることを目的とする。高齢者や障害者等の社会参加促進の必要性が指摘される一方で、社会のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化は十分とは言えない。そこで、「まちづくり」や「地域活性化」と関連させながら、地域社会での充実した暮らしを実現するための方策について、各自の関心領域を尊重しながら、多面的に考える。4年間の学習の集大成として、日本社会の発展に向けた具体的・主体的な提言ができる力を養っていく。</p> <p>(関根 薫 准教授) 本演習では、少子高齢社会に生起している家族問題に焦点を当てながら各自の問題意識をより明確化させ、4年間の学習の総括としての課題研究論文を作成することを目的とする。その際、現代日本演習で培った能力を基礎としつつ、先行研究・資料等から必要な情報を見つけ出し読み取る能力、読み込んだ内容をレジュメにまとめて書く能力、それを明瞭に発表できる能力をより高め、課題研究に必要な専門的知識・能力の向上を目指す。演習の進め方としては、前半は個人発表を踏まえた討論形式、後半は論文作成に向けた個別指導を行う。</p>	

# 授 業 科 目 の 概 要

(現代日本学部現代日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	演 習 科 目	<p>課題研究演習 (卒業研究)</p> <p>(建部久美子 准教授) 現代日本の社会問題に係わる支援施策について理解を深め、歴史的な変遷、法制度および地域における社会福祉専門職の実践の現状と課題について自分の意見を述べることができ、社会を支える専門職としての能力を養うことを目的とする。 本ゼミは、特に少子・高齢社会の現代日本における各学生が関心を持つ領域の社会問題を中心にテーマを選択し、学際的な視点から現状把握および問題点および課題を明確にする。各学生の問題意識に基軸を置きながら、主体的なテーマ設定への指導およびテーマに基づいて資料収集等の方法、資料分析方法、卒業論文作成上の諸課題について自らの力で思考、論述できる基礎的な能力を養うことを目指す。</p> <p>(山中 優 准教授) この授業では、「現代日本演習Ⅰ・Ⅱ」での成果を踏まえつつ、現代の日本政治の課題とその解決策について、自分で選んだテーマに沿って理論的に考察し、専門的に論じることを目的とする。受講生各自が自分の関心に基づいて決めた課題研究テーマについて調べて考察を深め、その考察をまとめたものについての中間発表を繰り返していく。その中間発表において、担当教員や他の受講生との質疑応答によるディスカッションを行い、それを踏まえて各自の構想を改善していき、担当教員による指導を受けながら、最終的に課題研究(卒業研究)へと結実させていく。</p> <p>(板井正斉 講師) 本演習では、日常生活の中に見え隠れする宗教を基盤とした日本文化と、現代的課題との結びつきを理解し、自らの問題意識による仮説を立てながら、先行研究の整理やフィールドワークを通して、卒業研究にまとめることを目的とする。できるだけ、身近な疑問から伝統的価値観と社会問題との接点を追求するために、前半は宗教社会学や民俗学の視点と手法(インタビュー調査、参与観察等)を説明し、後半は演習形式による発表・ディスカッションを重ねながら研究指導を行う。</p> <p>(榎本悠孝 講師) この科目では、近年の社会的課題である精神障害者に対する社会的支援や偏見、差別の問題等について課題研究を行い、卒業研究をまとめ上げることを目的としている。研究入門として、調査方法や分析手法など基本的な研究方法について学習する。次に講義や演習における興味や関心、社会福祉援助技術現場実習や精神保健福祉援助実習において体験したこと、疑問に感じていることから研究目的を設定する。それらの研究目的を達成するために、文献収集や社会調査等を行い分析し、仮説の検証、考察を行う。</p> <p>(野尻京子 講師) 本演習は、社会福祉特に介護保険及び在宅介護の諸問題に言及し、それらの問題を議論・助言して知識を深めると同時に、課題に対する方向性を研究という手法を使って明確にすることで、社会福祉に関わる自覚と能力を養うことを目的とする。各自の課題を明確にし、その課題が引き起こされている現状を分析・整理して、独自の解決策および方向性を含んだ論文を作成することを目指す。</p> <p>(藤井恭子 講師) 各自のテーマを深化させ、さらに量的・質的調査結果の分析・考察方法や論文作成方法を学び、四年間の集大成にふさわしい卒業研究を完成することを目指す。前半から後半中頃までは全員による演習形式でおこなうが、それ以降は個別指導をおこなう。</p>	

# 三重県内における位置関係の図面

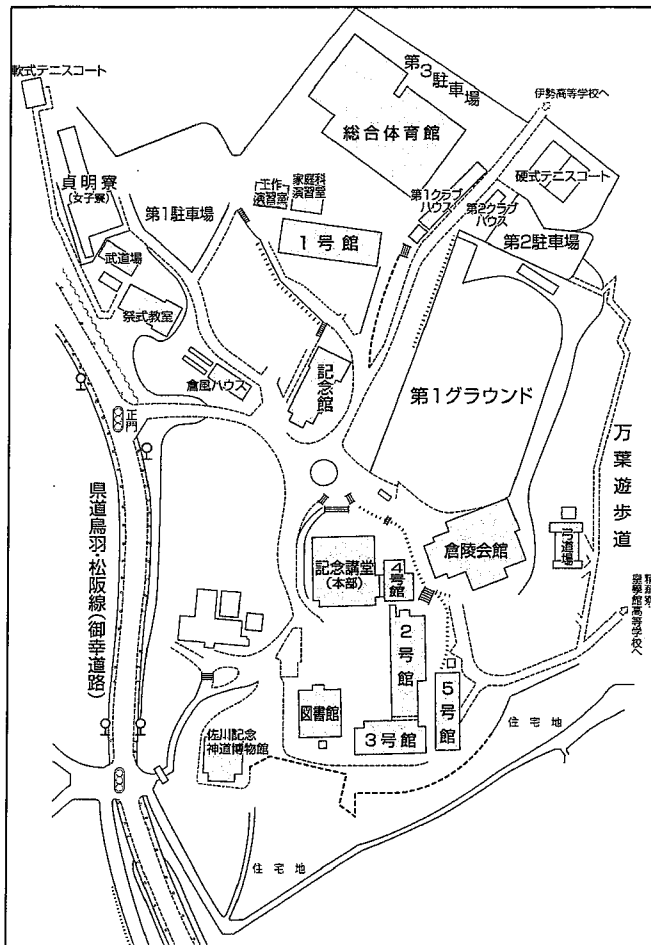


皇學館大学 現代日本社会学部(仮称)・文学部・教育学部 位置図

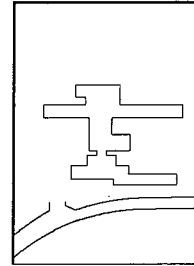




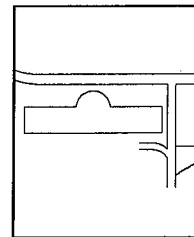
皇學館大学 現代日本社会学部(仮称)・文学部・教育学部 校舎等配置図  
(平成21年度当初現在)



別地(精華寮(北)(南))



別地(皇學館会館)



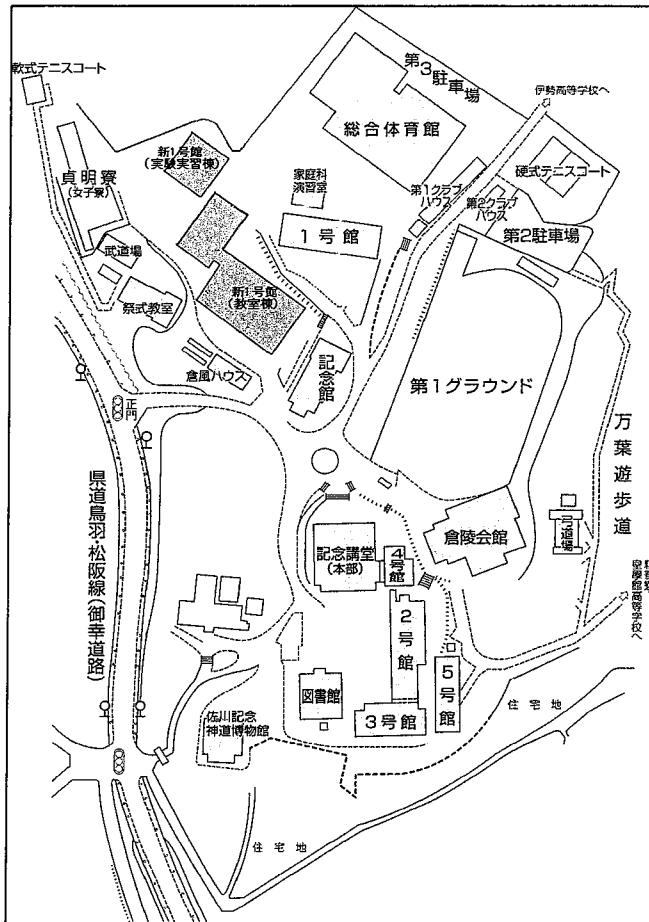
所有地(80,516㎡)  
借用地(6,103㎡)

NO.	種類	保有・借用別	構造	階層	面積(㎡)
1	記念講堂	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	3,300
2	1号館	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	2,719
3	2号館	保有	鉄筋コンクリート造	4階建	2,932
4	3号館	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	2,355
5	4号館	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	1,144
6	5号館	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	2,244
7	総合体育館	保有	鉄筋コンクリート造	2階建	5,407
8	佐川記念神道博物館	保有	鉄筋コンクリート造	2階建	1,819
9	祭式教室	保有	木造	1階建	674
10	家庭科演習室	保有	鉄骨造	1階建	254
11	工作演習室	保有	鉄骨造	1階建	235
12	図書館	保有	鉄筋コンクリート造	5階建	4,244
13	倉陵会館	保有	鉄筋コンクリート造	2階建	1,847
14	倉風ハウス	保有	鉄骨造	3階建	387
15	記念館	保有	木造	1階建	455
16	弓道場	保有	鉄骨・木造	1階建	198
17	武道場	保有	木造	1階建	210
18	第1クラブハウス	保有	鉄骨造	2階建	973
19	第2クラブハウス	保有	鉄骨造	2階建	288
20	男子寮(精華寮(北))	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	3,322
21	男子寮(精華寮(南))	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	2,111
22	女子寮(貞明寮)	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	2,944
23	皇學館会館	借用	鉄筋コンクリート造	5階建	3,156
合 計					43,218

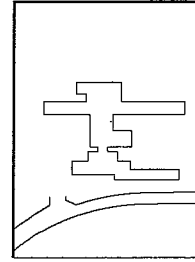
※倉庫類(13棟378㎡)を除く

# 皇學館大学 現代日本社会学部(仮称)・文学部・教育学部 校舎等配置図

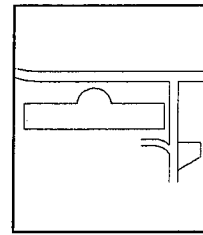
(平成25年度(完成年度)予定)



別地(精華寮(北)(南))



別地(皇學館会館)



所有地(80,516㎡)  
借用地(6,103㎡)

NO.	種類	保有・借用別	構造	階層	面積(㎡)
1	記念講堂	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	3,300
2	新1号館(教室棟)	保有	鉄筋コンクリート造	5階建	5,000
3	新1号館(実験実習棟)	保有	鉄筋コンクリート造	5階建	3,300
4	1号館	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	2,719
5	2号館	保有	鉄筋コンクリート造	4階建	2,932
6	3号館	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	2,355
7	4号館	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	1,144
8	5号館	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	2,244
9	総合体育館	保有	鉄筋コンクリート造	2階建	5,407
10	佐川記念神道博物館	保有	鉄筋コンクリート造	2階建	1,819
11	祭式教室	保有	木造	1階建	674
12	家庭科演習室	保有	鉄骨造	1階建	254
13	図書館	保有	鉄筋コンクリート造	5階建	4,244
14	倉陵会館	保有	鉄筋コンクリート造	2階建	1,847
15	倉風ハウス	保有	鉄骨造	3階建	387
16	記念館	保有	木造	1階建	455
17	弓道場	保有	鉄骨・木造	1階建	198
18	武道場	保有	木造	1階建	210
19	第1クラブハウス	保有	鉄骨造	2階建	973
20	第2クラブハウス	保有	鉄骨造	2階建	288
21	男子寮(精華寮(北))	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	3,322
22	男子寮(精華寮(南))	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	2,111
23	女子寮(貞明寮)	保有	鉄筋コンクリート造	3階建	2,944
24	皇學館会館	借用	鉄筋コンクリート造	5階建	3,156
合計					51,283

※倉庫類(13棟378㎡)を除く

# ○皇學館大学学則（案）

## 第1章 総則

（目的）

第1条 皇學館大学（以下「本学」という。）は、わが国民族の歴史と伝統とに基づく文化を究明し、洋の東西に通ずる道義の確立を図り、祖国愛の精神を教育培養するとともに、社会有為の人材を育成することを使命とする。

（自己点検及び評価）

第2条 本学は、教育研究の水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 前項の点検項目及び実施体制については、学校法人皇學館自己点検・評価規程、学校法人皇學館全学自己点検・評価委員会規程、学校法人皇學館教育研究自己点検・評価委員会規程及び学校法人皇學館管理運営自己点検・評価委員会規程に定める。

（学部及び学科等）

第3条 本学に、文学部、教育学部及び現代日本社会学部を置く。

2 文学部に、神道学科・国文学科・国史学科・コミュニケーション学科の4学科を置く。

3 教育学部に教育学科を置く。

4 現代日本社会学部に現代日本社会学科を置く。

（教育目的）

第3条の2 各学部各学科の目的は、次のとおりとする。

学 部	学 科	教育研究上の目的
文 学 部	神 道 学 科	日本人が守り伝えた民族固有の信仰であり日本文化の根源である神道を、祭祀学・古典研究・神道史学・神道神学・宗教学などの分野を通して教育・研究するとともに、将来、神職をはじめ各界において指導的な役割を果たす人材を育成する。
	国 文 学 科	日本文化の中核を成す国語と国文学を教育・研究することにより、豊かな感受性、柔軟な思考力、的確な表現力を身につけ、日本文化の担い手としての自覚を有しつつ、現代社会の諸課題にも積極的に対処し得る自立した人材を育成する。
	国 史 学 科	日本の歴史と伝統に根ざした祖国愛の精神を基軸とし、史料主義・原典主義にたつて、バランスのとれた中正なる歴史認識を確立することによって、日本人として多様な現代社会を冷静に読み解き、将来を展望する見識ある人材を育成する。
	コミュニケーション学科	現代の日本社会で必要とされるコミュニケーション能力と、英語力を実践的に身につけ、あわせてその背景となる知識や理論また伝統文化の教育・研究によって、現代社会の多彩なコミュニケーションの場を担いうる、すぐれた人材を育成する。
教 育 学 部	教育学科	日本の伝統と文化に根ざした豊かな人間性を備え、教育諸科学に係る専門的知識や技能を活用して、現代の教育課題の解決に向けて実践的に即応する能力を有する人材を育成する。

現代日本社会学部	現代日本社会学科	現代日本における文化、社会、福祉などの教育を通じて徳性と知性と技能を磨き、それらの融合から引き出される応用力によって現代日本社会の諸問題に主体的・創造的に対応することで、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成することを教育目的とする。また、この教育目的達成のために、現代日本社会を多面的・総合的に考察することを研究目的とする。
----------	----------	--

(収容定員等)

第4条 本学の学生定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
文 学 部	神 道 学 科	70人	280人
	国 文 学 科	80人	320人
	国 史 学 科	80人	320人
	コミュニケーション学科	80人	320人
教 育 学 部	教 育 学 科	210人	840人
現 代 日 本 社 会 学 部	現 代 日 本 社 会 学 科	100人	400人

(修業年限)

第5条 本学の修業年限は、4年とする。

(在学期間)

第6条 在学期間は、8年以内とする。

2 編入学及び転入学により入学した学生の在学年数は、前項の定めにかかわらず、所定の修業年限の2倍を超えることができない。

(委託生、研究生及び科目等履修生)

第7条 本学に、委託生、研究生及び科目等履修生の制度を置く。

(大学院)

第8条 本学に、大学院を置く。

2 大学院については、皇學館大学大学院学則に定める。

(専攻科)

第9条 本学に、専攻科を置く。

2 専攻科については、皇學館大学専攻科規程に定める。

## 第2章 学年、学期、授業日数及び休業日

(学 年)

第10条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学 期)

第11条 学年は、春学期・秋学期に分ける。

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年3月31日まで

(1年間の授業期間)

第12条 1年間の授業期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(休業日)

第13条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

神嘗祭 10月17日

創立記念日 4月30日

春季休業 3月27日から4月5日まで

夏季休業 8月1日から9月30日まで

冬季休業 12月26日から1月7日まで

2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を臨時に変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

### 第3章 授業科目及び単位数

(授業科目)

第14条 文学部の授業科目は、共通科目、専門科目、教職に関する科目、神職に関する科目、図書館司書に関する科目、学校図書館司書教諭に関する科目及び博物館学芸員に関する科目に分ける。

2 教育学部の授業科目は、共通科目、専門科目、教職に関する科目及び学校図書館司書教諭に関する科目に分ける。

3 現代日本社会学部の授業科目は、共通科目、専門科目及び教職に関する科目に分ける。

4 授業科目及びその単位数は、別表のとおりとする。

(単位数計算)

第15条 各授業科目の単位数は、次の基準によって定める。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 外国語科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

(4) 実験、実習及び実技については、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目の単位数については、別に定める。

(教育職員免許状)

第16条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目の所定の単位を修得しなければならない。

2 前項の免許状の種類については、別に定める。

(神職課程)

第17条 文学部神道学科、国文学科及び国史学科の学生であって、神職の資格を得ようとする者は、神職に関する科目の所定の単位を修得しなければならない。

(司書等の課程)

第18条 図書館司書の資格を得ようとする者は、図書館司書に関する科目の所定の単位を修得しなければならない。

2 学校図書館司書教諭の資格を得ようとする者は、学校図書館司書教諭に関する科目の所定の単位を修得しなければならない。

(博物館学芸員課程)

第19条 博物館学芸員の資格を得ようとする者は、博物館学芸員に関する科目の所定の単位を修得しなければならない。

(保育士資格)

第20条 教育学部の学生であって、保育士の資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得し

なければならない。

(社会福祉士の受験資格)

**第20条の2** 現代日本社会学部の学生であって、社会福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(精神保健福祉士の受験資格)

**第20条の3** 現代日本社会学部の学生であって、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(社会調査士資格)

**第20条の4** 現代日本社会学部の学生であって、社会調査士の資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(スポーツ指導者資格)

**第20条の5** 教育学部の学生であって、スポーツ指導者の資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

#### 第4章 履修方法及び課程の修了

(卒業に必要な単位数)

**第21条** 文学部においては、共通科目40単位以上及び所属学科の専門科目62単位以上、合計124単位以上修得しなければならない。なお、この場合の共通科目及び各学科の専門科目の授業科目並びにその単位数は、別表のとおりとする。おって、他学科及び他学部の専門科目の履修により修得した単位は、20単位を超えない範囲で所属学科の専門科目の単位に充てることができる。

2 教育学部においては、共通科目30単位以上及び専門科目の80単位以上、合計124単位以上修得しなければならない。なお、この場合の共通科目及び専門科目並びにその単位数は、別表のとおりとする。おって、他学部の専門科目の履修により修得した単位は、14単位を超えない範囲で所属学科の専門科目の単位に充てることができる。

3 現代日本社会学部においては、共通科目30単位以上及び専門科目の62単位以上、合計124単位以上修得しなければならない。なお、この場合の共通科目及び専門科目の授業科目並びにその単位数は、別表のとおりとする。おって、他学部の専門科目の履修により修得した単位は、30単位を超えない範囲で所属学科の専門科目の単位に充てることができる。

4 履修方法については、別に定める。

5 学術交流協定に基づき受け入れる外国人留学生における卒業に必要な単位数等については、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

**第22条** 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について、修得した単位を、60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定に基づき、他の大学又は短期大学で授業科目の履修を希望する者は、所属学部教授会の議を経なければならない。

3 前2項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

**第23条** 教育上有益と認めるときは、学生が短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、所属学部の定めるところにより単位を与えることができる。

2 大学以外の教育施設等で前項の規定に基づき、授業科目の履修を希望する者は、所属学部教授会の議を経なければならない。

3 第1項の規定により与えることができる単位数は、前条第1項により本学において修得したとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

**第24条** 教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修により修得した単位を含む。)を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、当該学部の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前2項により修得したとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

**第25条** 本学以外で修得した授業科目及び単位の取り扱いに関する必要な事項は、別に定める。

(他の学部の授業科目の履修)

**第26条** 学生は、他の学部の授業科目を履修することができる。この場合においては、所属学部長を経て当該学部の許可を得なければならない。

(履修届)

**第27条** 授業科目の履修については、学期始めに届け出て、承認を受けなければならない。

(出席時間数)

**第28条** 各授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席した者は、その授業科目を履修したものと認めない。

## 第5章 試験、卒業及び学位

(試験)

**第29条** 春学期末又は秋学期末において履修した授業科目について、試験、論文及び研究報告等をもって、評価を行う。

2 前項の定期試験のほか、臨時に試験を行うことがある。

3 正当な理由により受験できなかった者には、所属学部教授会の議を経て追試験を行うことがある。

(評価)

**第30条** 前条第1項の評価は、優、良、可及び不可の4等とする。

2 履修した授業科目について、優、良又は可の評価を得た者には、所定の単位を与える。

(卒業及び学位の授与)

**第31条** 本学に4年以上在学し、学部の定める卒業の資格を得た者に対し、学部長は、教授会の議を経て学部所定の課程を修めたことを認定する。ただし、他の大学に在学した年数を通算する。

2 学長は、前項の認定を得た者に、所属学部教授会の議を経て卒業を認め、学士の学位を授与する。

3 学位については、皇學館大学学位規程に定める。

## 第6章 入学、編入学、転入学、休学、復学、退学及び除籍

(入学時期)

**第32条** 入学時期は、毎学年の始めとする。ただし、外国人留学生、帰国生徒その他学部教授会が認めた者を秋学期から入学させることができる。

(入学資格)

**第33条** 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)

- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により、文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (7) その他本学において、相当年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（入学の出願）

**第34条** 入学を志願する者は、入学願書に別表に定める入学検定料及び別に指定する書類を添えて、所定の期日までに提出しなければならない。

（入学検定）

**第35条** 入学検定は、学力、人物及び健康について行う。

- 2 前項の入学検定による合格者の決定は、当該学部教授会の議を経て学長が行う。
- 3 学長は、前項の合格者が第36条第1項の手続きをとらないときは、合格を取り消す。

（入学手続）

**第36条** 前条第2項の合格者は、正副保証人連署の所定の誓約書に、別表に定める入学金、授業料及び教育充実費（授業料及び教育充実費を以下「学費」という。）を添えて、指定期日までに提出しなければならない。

- 2 学長は、前項の手続きを完了した者に、当該学部教授会の議を経て入学を許可する。

（保証人及び副保証人）

**第37条** 提出すべき書類の正保証人は、父母（父母なき者はこれに代わる者）、副保証人は本人と関係の深い身元確実な者とする。

- 2 保証人は、その学生の在学中、本人に係る一切の事項につき連帯の責任を負うものとする。

（再入学）

**第38条** 本学を退学した者が再入学の希望を申し出たときは、定員に余裕のある場合に限り、試験を行い退学当時の同学科同年次に再入学を許可することがある。

- 2 学費又は休学在籍料未納により除籍された者が、再入学の希望を申し出たときは、定員に余裕のある場合に限り、試験を行い除籍当時の同学科同年次に再入学を許可することがある。
- 3 再入学に関する必要な事項は、別に定める。

（編入学）

**第39条** 編入学を希望する者には、第4条に規定する第3年次編入学定員及び各学部教授会が各学科毎に定員に余裕があると認める範囲において、試験を行い編入学を許可する。

- 2 本学に2年次で編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 大学の学部を卒業した者
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 大学又は短期大学に1年以上在学して、30単位以上修得した者
- (4) 外国において学校教育における13年以上の課程を修了した者

- 3 本学に3年次で編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 大学の学部を卒業した者
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 大学に2年以上在学して、62単位以上修得した者
- (4) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第92条の3の規定により、大学の第3年次に編入学できる者



(5) 外国において学校教育における14年以上の課程を修了した者

4 編入学者の既修得単位については、当該教授会において審査のうえ、本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

5 編入学に関する必要な事項は、別に定める。

(転入学)

第40条 転入学を希望する者があるときは、定員に余裕のある場合に限り、試験を行い入学を許可することがある。

2 転入学に関する必要な事項は、別に定める。

(休学)

第41条 病気その他の事由により3月以上授業に出席できない者は、正副保証人連署のうえ、休学願を所属学部長に提出し、許可を受けなければならない。

(1) 休学期間は、1年を超えることができない。ただし、特別の事由があるときは、改めて許可を得て、更に1年以内に限り休学することができる。

(2) 休学期間は、通算して2年以内とする。

(3) 休学期間中の学費は、徴収しない。ただし、学期の途中において休学又は復学する者は、その学期の学費全額を納入するものとする。

(4) 休学期間中の学費の徴収を免除された学期については、別表に定める休学在籍料を納付しなければならない。

(5) 休学期間は、第5条及び第6条に規定する修業年限及び在学期間に算入しない。

(復学)

第42条 休学の事由が解消し、復学を希望する者は、正副保証人連署のうえ、復学願を所属学部長に提出し、許可を受けなければならない。

(転学)

第43条 他の大学に転学しようとする者は、事由を詳記して、正副保証人連署のうえ、転学願を所属学部長に提出し、所属学部教授会の議を経て学長の許可を受けなければならない。

(転学部及び転科)

第44条 転学部及び転科は申し出により、選考のうえ、許可することがある。

2 転学部及び転科に関する必要な事項は、別に定める。

(退学)

第45条 病気その他の事由により退学しようとする者は、正副保証人連署のうえ、退学願を所属学部長に提出し、学長の許可を受けなければならない。

2 次の各号の一に該当する者には、退学を命ずることができる。

(1) 学力劣等にして、成業の見込がないと認められる者

(2) 正当の理由がなくて、出席常でない者

(除籍)

第46条 次の各号の一に該当する者は、所属学部教授会の議を経て学長が除籍する。

(1) 第6条に定める在学期間を超えた者

(2) 第41条に定める休学期間を超えてなお就学できない者

(3) 休学期間が終わっても、復学又は休学更新の手続きをしない者

(4) 学費又は休学在籍料の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

## 第7章 入学検定料、入学金及び学費

(入学検定料)

第47条 本学に、入学を志願する者は、別表に定める入学検定料を所定の期日までに納めなければならない

ない。ただし、被災、併願受験等の理由により、入学検定料を免除又は減額することができる。

(入学金及び学費)

第48条 入学、編入学及び転入学を許可された者は、別表に定める入学金及び学費を所定の期日までに納付しなければならない。

2 学生は、別表に定める学費の年額を、次の2期に分けてそれぞれの期日までに納付しなければならない。

春学期分(4月1日から9月30日まで)の納付期日は、4月30日まで

秋学期分(10月1日から3月31日まで)の納付期日は、10月31日まで

(免除又は徴収猶予)

第49条 やむを得ない事由により、学費の支弁が困難と認められる学生に対しては、詮議のうえ、授業料を免除又は徴収を猶予することがある。

(入学検定料、入学金及び学費の返還)

第50条 既納の入学検定料、入学金及び学費は、返還しない。

2 前項の規定にかかわらず、入学手続き完了者が入学年度の前年度末日までに入学辞退の申し出があった場合は、学費を返還することがある。

## 第8章 賞 罰

(学費の免除)

第51条 学業成績が特に優秀と認められる者には、所属学部教授会の議を経て学費を免除することがある。

(表 彰)

第52条 人物、学業が優秀な者又は他の学生の模範となる行為をした者には、所属学部教授会の議を経て学長が表彰する。

(懲 戒)

第53条 学生が規則に違反し、又は学生の本分にもとる行為をした場合には、所属学部教授会の議を経て学長が懲戒を行う。

2 懲戒は、譴責、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良にして、改悛の見込がないと認められる者

(2) 学則に反し、学内の秩序をみだして、学生の本分にもとると認められる者

4 第2項の規定による停学の期間は、第5条及び第6条に規定する修学年限及び在学期間に算入する。

5 懲戒に関する事項については別に定める。

## 第9章 職員組織

(職 員)

第54条 本学に、教育職員、事務職員、技術職員及び現業職員を置く。

2 教育職員は、教授、准教授、講師、助教及び助手とする。

3 教授、准教授、講師及び助教は、学生を教授し、その研究を指導し、及び研究に従事する。

4 助手は、本学の教育研究の円滑な実施に必要な補助的業務に従事する。

5 事務職員は、事務を処理する。

6 技術職員は、技能業務を処理する。

7 現業職員は、炊事又は学内施設の整備を行う。

第55条 本学に、学長、学部長、学生部長、附属図書館長、情報処理センター長、教育開発センター長、神道研究所長、史料編纂所長、神道博物館長及び事務局長を置く。

- 2 学長は、校務を掌り所属職員を統轄する。
- 3 学部長は、学長を補佐し、学部に関する事項を掌る。
- 4 学生部長は、学長の指揮を受け、学生部に関する事項を掌る。
- 5 附属図書館長は、学長の指揮を受け、附属図書館に関する事項を掌る。
- 6 情報処理センター長は、学長の指揮を受け、情報処理センターに関する事項を掌る。
- 7 教育開発センター長は、学長の指揮を受け、教育開発センターに関する事項を掌る。
- 8 神道研究所長は、学長の指揮を受け、神道研究所に関する事項を掌る。
- 9 史料編纂所長は、学長の指揮を受け、史料編纂所に関する事項を掌る。
- 10 神道博物館長は、学長の指揮を受け、神道博物館に関する事項を掌る。
- 11 事務局長は、学長の指揮を受け、事務局に関する事項を掌る。

## 第10章 大学評議会

(評議会)

第56条 本学に、大学評議会を置く。

- 2 大学評議会は、学長、各学部長、大学院委員会委員長、各学部の教授各2名、学生部長、附属図書館長、情報処理センター長、教育開発センター長、各附置研究所長及び神道博物館長をもって組織する。
- 3 大学評議会は、大学の教育に関する重要事項の評議にあたる。
- 4 大学評議会については、皇學館大学評議会規程に定める。

## 第11章 教授会

(教授会)

第57条 各学部に、教授会を置く。

- 2 教授会は、当該学部に属する専任の教授、准教授、講師及び助教をもって組織する。
- 3 教授会は、当該学部の運営に関する重要事項の審議にあたる。
- 4 教授会については、各学部教授会規程に定める。

## 第12章 委託生、研究生、科目等履修生及び外国人留学生

(委託生)

第58条 公共団体その他の機関から、本学の学部又は附置研究所の特定の研究分野について研究指導の委託の願い出があるときは、選考のうえ、委託生として研究することを許可することがある。

- 2 委託生に関する必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第59条 本学の学部又は附置研究所において、特定の専門事項について研究を希望する者があるときは、選考のうえ、研究生として研究することを許可することがある。

- 2 研究生に関する必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第60条 本学の特定科目について履修を希望する者があるときは、学生の授業に支障のない限り、選考のうえ、科目等履修生として履修することを許可することがある。ただし、本学卒業生にあつては、選考のための検定を要しない。

- 2 科目等履修生は、履修した科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には、所定の単位を与える。
- 3 科目等履修生に関する必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第61条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があると

- きは、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することがある。
- 外国人留学生に関する必要な事項は、別に定める。

### 第13章 附属図書館

(附属図書館)

第62条 本学に、附属図書館を置く。

- 附属図書館に関する必要な事項は、別に定める。

### 第14章 情報処理センター

(情報処理センター)

第63条 本学に、情報処理センターを置く。

- 情報処理センターに関する必要な事項は、別に定める。

### 第15章 教育開発センター

(教育開発センター)

第63条の2 本学に、教育開発センターを置く。

- 教育開発センターに関する必要な事項は、別に定める。

### 第16章 附置研究所

(附置研究所)

第64条 本学に、神道研究所を附置する。

- 神道研究所に関する必要な事項は、別に定める。

第65条 本学に、史料編纂所を附置する。

- 史料編纂所に関する必要な事項は、別に定める。

第65条の2 社会福祉学部に、地域福祉文化研究所を附置する。

- 地域福祉文化研究所に関する必要な事項は、別に定める。

### 第17章 神道博物館

(神道博物館)

第66条 本学に、神道博物館を置く。

- 神道博物館に関する必要な事項は、別に定める。

### 第18章 学生寮

(学生寮)

第67条 本学に、学生寮を置く。

- 学生寮に関する必要な事項は、別に定める。

### 第19章 厚生保健

(施設)

第68条 本学に、厚生保健に関する施設を置き、これを学生の利用に供する。

- 学生は、本学の施設を利用しようとするときは、所定の手続きを経なければならない。

(健康管理)

第69条 学生は、毎年本学所定の身体検査を受けなければならない。

- 学部長は、所属学生の保健を管理し、必要に応じて治療を命じ、又は登学を停止することがある。

## 第20章 公開講座

### (公開講座)

第70条 本学の教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設する。

2 公開講座に関する必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

1 この学則は、平成10年4月1日から施行する。ただし、第45条第2項の規定は、平成9年10月1日から適用する。

2 本則第4条の規定にかかわらず、平成11年度までの文学部の入学定員は、神道学科50人、国文学科100人、国史学科100人、教育学科110人及び収容定員は、神道学科200人、国文学科400人、国史学科400人、教育学科440人とし、平成12年度から平成14年度までの収容定員は、次表のとおりとする。

年 度	神道学科	国文学科	国史学科	教育学科
平成12年度	190人	380人	380人	430人
平成13年度	180人	360人	360人	420人
平成14年度	170人	340人	340人	410人

3 皇学館大学学則（昭和37年4月1日）は、廃止する。ただし、平成10年3月31日以前の入学者については、なお廃止前の学則を適用する。

4 平成10年3月31日現在本学の聴講生である者が、引き続き特定科目について聴講を希望する場合は、なお廃止前の学則第45条に規定する聴講生として聴講することを許可する。

#### 附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

#### 附 則

1 この学則は、平成11年5月29日から施行する。ただし、第11条、第14条第1項、第17条、第21条第1項、第29条、第32条、第48条第2項及び第49条の規定並びに第14条第3項及び第21条第1項の定めによる別表の規定は、平成12年4月1日から適用する。

2 前項の規定にかかわらず、第14条第1項、第17条及び第21条第1項の規定並びに第14条第3項及び第21条第1項の定めによる別表の規定については、平成11年度以前入学者には、なお従前の規定を適用するものとし、編入学生及び転入学生にあつては、同年次に適用する規定によるものとする。

#### 附 則

1 この学則は、平成12年4月1日から施行する。

2 本則第4条及び附則（平成10年4月1日施行）第2項の規定にかかわらず、平成12年度から平成14年度までの収容定員は、次表のとおりとする。

年 度	神道学科	国文学科	国史学科	教育学科
平成12年度	220人	370人	380人	410人
平成13年度	240人	340人	360人	380人
平成14年度	260人	310人	340人	350人

#### 附 則

この学則は、平成12年5月27日から施行する。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年10月22日から施行する。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年10月27日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

2 本則第3条の規定にかかわらず、平成19年4月以前の入学生については、従前のおりとする。

附 則

この学則は、平成20年6月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年5月28日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。

2 本則第3条及び第4条の規定にかかわらず、平成21年度以前の入学生については、従前のおりとする。

別表1-(1) (第14条第4項・第21条第1項及び第3項関係)

## 文学部・教育学部 共通科目

		授 業 科 目	単 位	備 考
皇学	必修	皇 学	2	
		伊 勢 学	2	
総合基礎	必修	初 学 び ( 入 門 演 習 )	1	文学部・教育学部適用
		キ ャ ン パ ス ・ セ ミ ナ ー	2	現代日本社会学部適用
		文 章 入 門	2	
総合基礎	選	文 章 応 用	2	現代日本社会学部適用
		古 文 I	1	
		古 文 II	1	
		漢 文 I	1	
		漢 文 II	1	
	択	総 合 演 習	2	
		情 報 処 理 I ( 基 礎 )	1	コミュニケーション学科 2単位必修
		情 報 処 理 II ( 応 用 )	1	
		情 報 処 理 III ( ネットワーク )	1	
		情 報 処 理 IV ( プログラミング )	1	
外国語	選	英 語 基 礎 I	1	
		英 語 基 礎 II	1	
		英 語 コミュニケーション I	1	
		英 語 コミュニケーション II	1	
		英 語 総 合 I	1	
		英 語 総 合 II	1	
		英 語 資 格 対 策 I	1	
		英 語 資 格 対 策 II	1	
		英 語 資 格 A	2	
		英 語 資 格 B	2	
	択	英 語 資 格 C	2	
		英 会 話 I	1	
		英 会 話 II	1	
		ド イ ツ 語 I	1	
		ド イ ツ 語 II	1	
		ド イ ツ 語 III	1	
		ド イ ツ 語 IV	1	
		フ ラ ン ス 語 I	1	
		フ ラ ン ス 語 II	1	

外 国 語	選	フ	ラ	ン	ス	語	Ⅲ	1	
		フ	ラ	ン	ス	語	Ⅳ	1	
		ポ	ル	ト	ガ	ル	語	Ⅰ	1
		ポ	ル	ト	ガ	ル	語	Ⅱ	1
		ポ	ル	ト	ガ	ル	語	Ⅲ	1
	択	ポ	ル	ト	ガ	ル	語	Ⅳ	1
		中		国		語	Ⅰ	1	
		中		国		語	Ⅱ	1	
		中		国		語	Ⅲ	1	
		中		国		語	Ⅳ	1	
日 本 文 化 と 世 界	選	神					道	2	
		哲					学	2	
		言			語		学	2	
		日	本		の	歴	史	2	
		日	本		の	文	学	2	
	択	日	本		の	思	想	2	
		日	本		の	民	俗	2	
		日	本		の	歴	史	2	
		世	界		の	思	想	2	
		世	界		の			2	
現 代 と 生 活	選	法	学	(日	本	国	憲	法)	2
		政	治	学	入	門			2
		経	済	学	入	門			2
		社	会	学	入	門			2
		統	計	学	入	門			2
	択	心	理	学	入	門			2
		現	代	と	入	門			2
		現	代	と	福	祉			2
		現	代	と	健	康			2
		人	代	と	教	育			2
現	代	の	課	論			1		
自 然 と 科 学	択	数		物		学	学	2	
		生				学	学	2	
		化		理		学	学	2	
		物		文		学	学	2	
		天				学	学	2	



		環 境 地 理 学	2	
		自 然 地 理 学	2	
		自 然 地 科 学 史	2	
伝 統 の 心 と 技	選	武 道 I	1	
		武 道 II	1	
		武 道 III	1	
		武 道 IV	1	
		武 道 I	1	
	択	武 道 II	1	
		伝 統 の 心 と 技 1	2	
		伝 統 の 心 と 技 2	2	
		伝 統 の 心 と 技 3	2	
		伝 統 の 心 と 技 4	2	
		伝 統 の 心 と 技 5	2	
		伝 統 の 心 と 技 6	2	
		伝 統 の 心 と 技 7	2	
		伝 統 の 心 と 技 8	2	
		伝 統 の 心 と 技 9	2	
伝 統 の 心 と 技 10	2			
伝 統 の 心 と 技 11	2			
伝 統 の 心 と 技 12	2			
人 生 と 仕 事	選 択	人 生 と 仕 事	1	
		ビ ジ ネ ス 実 践 論	1	
		生 涯 学 習 概 論	2	
		イ ン タ ー ン シ ッ プ	1	
		ボ ラ ン テ ィ ア I	1	
ボ ラ ン テ ィ ア II	1			

1. 外国語は「英語基礎 I・II」「英語コミュニケーション I・II」「英語資格 A・B・C」「英語総合 I・II」「英語資格対策 I・II」「英会話 I・II」より 4 単位必修。
2. 日本文化と世界、現代と生活及び自然と科学それぞれについて 4 単位必修。

別表1-(2) (第14条第4項・第21条第1項関係)

神道学科専門科目

授 業 科 目		単 位	備 考
必 修	神 道 概 論	4	
	神 道 史	4	
	祭 祀 概 論	4	
	神 道 神 学	4	
	皇 室 概 説	2	
	宗 教 学 概 論	4	
選	神 道 文 献	2	
	日 本 学	2	
	神 社 概 説	2	
	神 道 思 想 史	2	
	近 代 神 道 史	2	
	神 宮 史 I	2	
	神 宮 史 II	2	
	宗 教 学 講 義 I	2	
	宗 教 学 講 義 II	2	
	古 典 講 読 I	4	
	古 典 講 読 II	4	
	古 典 講 読 III	4	
選	神 道 学 演 習 I	4	
	神 道 学 演 習 II	4	
	宗 教 学 演 習 I	4	
	宗 教 学 演 習 II	4	
	日 本 学 演 習 I	4	
	日 本 学 演 習 II	4	
	有 職 故 実	2	
	祭 式 及 び 同 行 事 作 法 I	2	
	祭 式 及 び 同 行 事 作 法 II	4	
	祭 式 及 び 同 行 事 作 法 III	2	
	祝 詞 作 文	4	
	神 道 教 化 概 論	4	
択	神 社 関 係 法 規	4	
	日 本 思 想 史	2	
	日 本 文 化 史 I	2	
	日 本 文 化 史 II	2	

選 択	日 本 宗 教 史	2	
	世 界 宗 教 史	4	
	仏 教 概 説	2	
必修	卒 業 論 文	4	
卒業に必要な専門科目62単位以上には、必修22単位、卒業論文4単位、選択より36単位以上（講義10単位以上、講読8単位以上、演習8単位）を含む。			

別表1-(3) (第14条第4項・第21条第1項関係)

国文学科専門科目

授 業 科 目		単 位	備 考
必 修	国 文 学 概 論 I	2	
	国 文 学 概 論 II	2	
	国 語 学 概 論 I	2	
	国 語 学 概 論 II	2	
	漢 文 学 概 論 I	2	
	漢 文 学 概 論 II	2	
	国 文 学 史 概 説 I	2	
	国 文 学 史 概 説 II	2	
選 択	国 語 ・ 国 文 学 講 義 I A	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 I B	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 I C	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 I D	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 I E	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 I F	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 I G	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 II A	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 II B	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 II C	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 II D	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 II E	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 II F	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 義 II G	2	
	書 誌 学 概 論	2	
	書 誌 学 講 義	2	
	国 語 ・ 国 文 学 講 読 I A	2	

選

国語・国文学	講読	I B	2
国語・国文学	講読	I C	2
国語・国文学	講読	I D	2
国語・国文学	講読	I E	2
国語・国文学	講読	I F	2
国語・国文学	講読	I G	2
国語・国文学	講読	II A	2
国語・国文学	講読	II B	2
国語・国文学	講読	II C	2
国語・国文学	講読	II D	2
国語・国文学	講読	II E	2
国語・国文学	講読	II F	2
国語・国文学	講読	II G	2
漢文学	講読	I	2
漢文学	講読	II	2
書誌学文献	講読	I	2
書誌学文献	講読	II	2
専門演習		I A	4
専門演習		I B	4
専門演習		I C	4
専門演習		I D	4
専門演習		I E	4
専門演習		I F	4
専門演習		I G	4
専門演習		I H	4
専門演習		I I	4
専門演習 I J	(書道史)		4
専門演習		II a	4
専門演習		II b	4
専門演習		II c	4
専門演習		II d	4
専門演習		II e	4
専門演習		II f	4
専門演習		II g	4
専門演習		II h	4
専門演習		II i	4
専門演習		II j	4

扱

選	言語表現学概論 I	2
	言語表現学概論 II	2
	原典入門	4
	国文法概説	4
	社会言語学	2
	図書館概論	2
	図書館資料論	2
	資料組織概説 I	2
	資料組織概説 II	2
	子どもの本と児童サービス	2
	読書と豊かな人間性	2
	書物と図書館の文化史	2
	芸能論	4
	日本文化史 I	2
	日本文化史 II	2
	世界宗教史	4
	日本宗教史	2
	書論・鑑賞	2
	書 I (漢字書法)	2
	書 II (金石書法)	2
書 III (仮名書法)	2	
書 IV (作品制作)	2	
必修	卒業論文	4

卒業に必要な専門科目62単位以上には、必修16単位、卒業論文4単位、選択より42単位以上（講義8単位以上、講読12単位以上、演習より8単位）を含む。

別表 1-(4) (第14条第4項・第21条第1項関係)

国史学科専門科目

授 業 科 目		単 位	備 考
必 修	国 史 概 説 A	2	
	国 史 概 説 B	2	
	国 史 概 説 C	2	
	国 史 概 説 D	2	
	史 学 概 論	2	
	国 史 学 演 習	4	
	国 史 学 特 殊 演 習	4	
選 択	国 史 学 特 講 A I	2	
	国 史 学 特 講 A II	2	
	国 史 学 特 講 B I	2	
	国 史 学 特 講 B II	2	
	国 史 学 特 講 C I	2	
	国 史 学 特 講 C II	2	
	国 史 学 特 講 D I	2	
	国 史 学 特 講 D II	2	
	史 料 講 読 A	4	
	史 料 講 読 B	4	
	史 料 講 読 C	4	
	史 料 講 読 D	4	
	東 洋 史 概 説	4	
	西 洋 史 概 説	4	
	日 本 史 学	4	
	古 文 書 学	4	
	古 学	4	
	美 術 史	4	
	教 育 史	2	
	東 洋 思 想 史	2	
	西 洋 思 想 史	2	
日 本 思 想 史	2		
日 本 文 化 史 I	2		
日 本 文 化 史 II	2		
歴 史 地 理 学	4		
人 文 地 理 学	4		
地 誌 学	2		

選 択	法	律	学	概	論	2				
	法	制	史	特	講	2				
	政	治	学	概	論	2				
	政	治	学	特	講	2				
	社	会	学	概	論	2				
	社	会	学	特	講	2				
	経	济	学	概	論	2				
	社	会	経	济	史	2				
	哲	学		概	論	2				
	心	理	学	概	論	2				
	宗	教	学	概	論	4				
	日	本	宗	教	史	2				
	世	界	宗	教	史	4				
	神	宮		史	I	2				
	神	宮		史	II	2				
	有	職		故	実	2				
	国	文	史	概	説	I	2			
	国	文	史	概	説	II	2			
書	誌	学	概	論	2					
書	誌	学	講	義	2					
書	物	と	図	書	館	の	文	化	史	2
博	物	館	学	I	2					
博	物	館	学	II	2					
必修	卒	業	論	文	4					

卒業に必要な専門科目62単位以上には、卒業論文4単位、特講については8単位以上、講読については8単位以上、演習については8単位以上、概説については4単位以上を含む。

別表1-(5) (第14条第4項・第21条第1項関係)

## コミュニケーション学科専門科目

授 業 科 目		単 位	備 考
必 修	コミュニケーション概論Ⅰ	2	
	コミュニケーション概論Ⅱ	2	
	日本語コミュニケーション概論	4	
	英語学概論Ⅰ	2	
	表現演習Ⅰ	2	
	表現演習Ⅱ	2	
	表現演習Ⅲ	2	
	コミュニケーション専門演習Ⅰ	4	
コミュニケーション専門演習Ⅱ	4		
選 択	人間関係論	2	
	英語コミュニケーション	4	
	異文化間コミュニケーションⅠ	2	
	異文化間コミュニケーションⅡ	2	
	メディア論Ⅰ	2	
	メディア論Ⅱ	2	
	国際日本学Ⅰ	2	
	国際日本学Ⅱ	2	
	社会心理論	2	
	英語学概論Ⅱ	2	
	英文法Ⅰ	2	
	英文法Ⅱ	2	
	文化人類学	2	
	日本語文献講読	2	
	英語音声学Ⅰ	2	
	英語音声学Ⅱ	2	
	英米文学概論	4	
	実用英語Ⅰ	2	
	実用英語Ⅱ	2	
	海外事情Ⅰ	2	
海外事情Ⅱ	2		
社会調査法Ⅰ	2		
社会調査法Ⅱ	2		
地域情報論	2		
人文地理学	4		



選                択	地 誌 学	2
	芸 能 論	4
	神道とコミュニケーション	2
	独 語 コミュニケーション	4
	仏 語 コミュニケーション	4
	中国語コミュニケーション	4
	英 米 文 学 講 読 I	4
	英 米 文 学 講 読 II	4
	英 会 話 中 級	2
	英 会 話 上 級	2
	現 代 家 族 論	2
	海外・帰国子女とコミュニケーション	2
	文 化 交 流 論	4
	社 会 言 語 学	2
	日 本 文 化 史 I	2
	日 本 文 化 史 II	2
	情 報 社 会 論	2
	スポーツとコミュニケーション	2
	ス ポ ー ツ 文 化 論	2
	時 事 英 語	2
必修	卒 業 研 究	4

卒業に必要な専門科目62単位以上には、必修24単位、卒業研究4単位を含む。

別表2-(1) (第14条第4項・第21条第2項関係)

## 教育学部 教育学科専門科目

授業科目		単位	備考
基礎 (必修)	教育学概論	2	
	教育哲学	2	
	教育史	2	
	教育社会学	2	
	生涯学習論	2	
	教育心理学	2	
基 幹	教職論	2	
	教育方法学(初等)	2	
	教育方法学(中等)	2	
	教育課程論(初等)	2	
	教育課程論(中等)	2	
	幼児理解	1	
	児童心理学	2	
	学校心理学	2	
	保育内容総論	2	
	保育原理	4	
	国語科教育法	2	
	社会科教育法	2	
	算数科教育法	2	
	理科教育法	2	
	生活科教育法	2	
	音楽科教育法	2	
	図画工作科教育法	2	
	家庭科教育法	2	
	体育科教育法	2	
	保育指導の方法	2	
	言葉(指導法)	2	
	身体表現(指導法)	2	
	造形表現(指導法)	2	
	健康(指導法)	2	
	人間関係(指導法)	2	
	環境(指導法)	2	
保健体育科教育法 I	4		
保健体育科教育法 II	4		

基 幹	児	童	国	語	2
	児	童	社	会	2
	児	童	算	数	2
	児	童	理	科	2
	児	童	生	活	2
	児	童	音	楽	2
	児	童	造	形	2
	児	童	家	庭	2
	児	童	体	育	2
	体	育	原	理	2
	体	育	育	史	2
	体	育	実技	(陸上)	2
	体	育	実技	(体操)	2
	体	育	実技	(球技)	2
	体	育	実技	(水泳)	1
	体	育	心 理	学	2
	運 動	学	(運 動 方 法 学)		2
	社 会	福 祉	福 祉		2
児 童	福 祉	福 祉		2	
社 会	福 祉	援 助	技 術	2	
展 開	教 育	法 規		2	
	教 育	行 政	学	2	
	学 校	経 営	学	2	
	教 育	相 談	(初 等)	2	
	教 育	相 談	(中 等)	2	
	環 境	教 育		2	
	国 際	理 解	教 育	2	
	小 学	校 英 語	教 育	2	
	国 語	科 教 育	研 究	2	
	社 会	科 教 育	研 究	2	
	数 学	科 教 育	研 究	2	
	理 科	教 育	研 究	4	
	生 活	科 教 育	研 究	2	
	音 楽	科 教 育	研 究	2	
	美 術	科 教 育	研 究	2	
	家 庭	科 教 育	研 究	2	
体 育	科 教 育	研 究	2		

展

保育内容の研究（身体表現）	2
保育内容の研究（造形表現）	2
道德教育の研究（初等）	2
道德教育の研究（中等）	2
特別活動の研究（初等）	2
特別活動の研究（中等）	2
生徒・進路指導論	2
衛生学	2
公衆衛生学	2
体育経営管理学	2
体育社会学	2
生理学	2
バイオメカニクス	2
学校保健	2
体育実技（ダンス・舞踊）	2
体育実技（ゲーム）	2
体育実技（スキー・スノーボード）	1
養護原理	2
小児保健	4
乳児保育	2
小児栄養	2
精神保健	2
家族援助論	2
障害児保育	2
養護内容	2
特別支援教育総論	2
知的障害児の心理・生理・病理	2
肢体不自由児の心理・生理・病理	2
病弱児の心理・生理・病理	2
特別支援教育課程論	2
障害児療育論	2
病弱児教育方法	2
障害児心理学	2
知的障害教育Ⅰ	2
知的障害教育Ⅱ	2
特別支援教育授業論	2
障害児指導法Ⅰ	2

開

	障 害 児 指 導 法 II	1	
	障 害 児 指 導 法 III	1	
関 連	神 話 の 教 育 心 理 学	2	
	神 話 教 育	2	
	家 庭 と 教 育	2	
	教 育 に 活 か す 書 道	2	
	日 本 伝 統 文 化 教 育 論	2	
	和 算 を 使 っ た 数 学 教 育	2	
	日 本 の 科 学 ・ 技 術 の 歩 み と 教 育	2	
	伝 統 音 楽 と 教 育	2	
	伝 統 美 術 と 教 育	2	
	日 本 の 食 育 文 化	2	
	武 道 と 教 育	2	
実 習	教 育 実 習 ( 小 学 校 )	4	
	教 育 実 習 ( 幼 稚 園 )	4	
	教 育 実 習 I	4	
	教 育 実 習 II	2	
	介 護 等 体 験 実 習	1	
	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導	1	
	保 育 所 実 習 I	2	
	保 育 所 実 習 II	2	
	児 童 福 祉 施 設 等 実 習	2	
	保 育 実 習 事 前 事 後 指 導	1	
	小 児 保 健 実 習	1	
	特 別 支 援 教 育 実 習	2	
	特 別 支 援 教 育 実 習 事 前 事 後 指 導	1	
演 習	教 育 研 究 基 礎 演 習	4	
	教 育 研 究 演 習 I	4	
	教 育 研 究 演 習 II	4	
	教 育 実 践 演 習 ( 初 等 )	2	
	卒 業 研 究	4	
卒業に必要な専門科目80単位以上には、基礎科目、教育研究基礎演習、教育研究演習 I、教育基礎演習 II、卒業研究を含む。			



展 開 目 科 目	選 択	現 代 の 社 会	国 土 計 画 論	2	
			地 域 構 造 論	2	
			地 域 計 画 論	2	
			産 業 革 新 論	2	
			文 明 開 化 論	2	
			社 会 調 査 法	2	
			社 会 情 報 分 析	2	
			質 的 調 査 論	2	
			社 会 統 計 学 I ( 基 礎 統 計 )	2	
			社 会 統 計 学 II ( 多 変 量 解 析 )	2	
		教 育 社 会 学	2		
		家 族 社 会 学	2		
		産 業 社 会 学	2		
		観 光 社 会 学	2		
		医 療 社 会 学	2		
		生 活 と 福 祉	社 会 福 祉 援 助 技 術 論 I ( 専 門 職 制 度 )	4	
			社 会 福 祉 援 助 技 術 論 II ( 理 論 )	4	
			社 会 福 祉 援 助 技 術 論 III ( 実 践 )	4	
			介 護 概 論	2	
			障 害 者 福 祉 論	2	
	公 的 扶 助 論		2		
	神 道 福 祉 論		2		
	社 会 福 祉 発 達 史		2		
	児 童 ・ 家 庭 福 祉 論		2		
	高 齢 者 福 祉 サ ー ビ ス 論		2		
	医 療 福 祉 論	2			
	精 神 保 健 福 祉 論 I ( 援 助 理 念 )	2			
	精 神 保 健 福 祉 論 II ( 施 策 と 業 務 )	2			
	精 神 保 健 福 祉 論 III ( 制 度 と サ ー ビ ス )	2			
	精 神 保 健 福 祉 援 助 技 術 総 論	4			
	精 神 保 健 福 祉 援 助 技 術 各 論 I ( 援 助 活 動 )	2			
	精 神 保 健 福 祉 援 助 技 術 各 論 II ( ケ ア マ ネ ジ メ ン ト )	2			
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 論	2			
	精 神 科 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 論	2			
発 展 科 目	選 択	日 本 経 済 論	2		
		日 本 政 治 論	2		
		日 経 済 政 策 論	2		

発 展 科 目	選 択	日 本 マ ス コ ミ 論	2	
		日 本 外 交 論	2	
		農 業 政 策 論	2	
		近 代 神 道 論	2	
		公 共 政 策 論	2	
		地 方 自 治 論	2	
		コ ミ ュ ニ テ ィ ビ ジ ネ ス 論	2	
		起 業 論	2	
		地 方 財 政 論	2	
		政 教 問 題 論	2	
		国 際 政 治 論	2	
		サ ブ カ ル チ ャ ー 論	2	
		文 化 政 策 論	2	
		雇 用 政 策	1	
		ス ク ー ル ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論	2	
		権 利 擁 護 と 成 年 後 見 制 度	2	
		福 祉 行 財 政 と 福 祉 計 画	2	
社 会 福 祉 経 営 論	2			
司 法 福 祉 論	1			
実習科目		文 化 継 承 実 習 I	2	
		文 化 継 承 実 習 II	2	
		文 化 継 承 実 習 III	2	
		文 化 継 承 実 習 IV	2	
		文 化 継 承 実 習 V	2	
		文 化 継 承 実 習 VI	2	
		産 業 社 会 実 習	2	
		社 会 調 査 実 習	2	
		社 会 福 祉 援 助 技 術 現 場 実 習	4	
		社 会 福 祉 援 助 技 術 現 場 実 習 指 導 I (事 前 指 導)	2	
		社 会 福 祉 援 助 技 術 現 場 実 習 指 導 II (事 後 指 導)	1	
		精 神 保 健 福 祉 援 助 実 習	6	
		社 会 臨 床 実 習	2	
	社 会 情 報 実 習	2		
	ス ク ー ル ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 実 習	2		
演習科目	必 修	現 代 日 本 演 習 I	4	
		現 代 日 本 演 習 II	4	



演習科目	選択	社会福祉援助技術演習Ⅰ(コミュニケーションスキル)	2	
		社会福祉援助技術演習Ⅱ(相談援助のプロセス)	2	
		社会福祉援助技術演習Ⅲ(相談援助の実際)	1	
		精神保健援助演習	2	
		スクールソーシャルワーク演習	2	
	必修	課題研究演習(卒業研究)	4	

別表4-(1) (第14条第4項関係)

教職に関する科目

文学部・教育学部・現代日本社会学部

授業科目		単位	備考
必修	教職論	2	
	教育学概論	2	
	教育心理学	2	
	教育行政学	2	
	学校経営学	2	
	教育課程論(中等)	2	
	国語科教育法Ⅰ	4	
	国語科教育法Ⅱ	4	
	書道科教育法	4	
	社会科教育法Ⅰ	4	
必修	社会科教育法Ⅱ	4	
	地歴科教育法	4	
	公民科教育法	4	
	宗教科教育法Ⅰ	4	
	宗教科教育法Ⅱ	4	
	英語科教育法Ⅰ	4	
	英語科教育法Ⅱ	4	
	保健体育科教育法Ⅰ	4	
	保健体育科教育法Ⅱ	4	
	福祉科教育法	4	
道徳教育の研究(中等)	2		
特別活動の研究(中等)	2		
教育方法学(中等)	2		
生徒・進路指導論	2		
教育相談(中等)	2		

必修	教 育 実 習 I	4	
	教 育 実 習 II	2	
	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導	1	
	教 職 実 践 演 習 ( 中 等 )	2	

別表 4-(2) (第14条第4項関係)

教科又は教職に関する科目  
教育学部

授 業 科 目		単 位	備 考
必修	介 護 等 体 験 実 習	1	

別表 4-(3) (第14条第4項関係)

神職に関する科目  
文学部 (神道学科・国文学科・国史学科適用)

授 業 科 目		単 位	備 考
必修	神 道 概 論	4	
	祭 祀 概 論	4	
	神 道 史	4	
	神 道 神 学	4	
	古 典 講 読 I ( 古 事 記 )	4	
	古 典 講 読 II ( 日 本 書 紀 )	4	
	古 典 講 読 III ( 延 喜 式 祝 詞 )	4	
	有 職 故 実	2	
	祭 式 及 び 同 行 事 作 法 I	2	
	祭 式 及 び 同 行 事 作 法 II	4	
修	祭 式 及 び 同 行 事 作 法 III	2	
	祝 詞 作 文	4	
	神 道 教 化 概 論	4	
	神 社 関 係 法 規	4	
	宗 教 学 概 論	4	
	世 界 宗 教 史	4	
	神 社 書 道	2	
神 務 実 習	4		

選 択 必 修	神	道	文	献	2	} 6 単位以上修得		
	皇	室	概	説	2			
	神	社	概	説	2			
	神	社	思	想	史		2	
	近	代	神	道	史		2	
	神	宮	史	I	2			
	神	宮	史	II	2			
	宗	教	学	講	義		I	2
	宗	教	学	講	義		II	2
	日	本	宗	教	史		2	
	仏	教	概	説	2			
	雅		楽	I	1	} 2 単位以上修得		
	雅		楽	II	1			
	情	報	処	理	I		2	
情	報	処	理	II (ネットワーク)	1			
	情	報	処	理	III (プログラミング)	1		

必修科目62単位、選択必修科目8単位以上修得。

別表 4-(4) (第14条第4項関係)

## 図書館司書に関する科目

授 業 科 目		単 位	備 考
必 修 科 目	生 涯 学 習 概 論	2	
	図 書 館 概 論	2	
	図 書 館 経 営 論	1	
	図 書 館 サービス 論	2	
	情 報 サービス 概 説	2	
	レファレンスサービス 演 習	2	
	情 報 検 索 演 習	2	
	図 書 館 資 料 論	2	
	専 門 資 料 論	1	
	資 料 組 織 概 説 I	2	
	資 料 組 織 概 説 II	2	
	資 料 組 織 演 習 I	2	
	資 料 組 織 演 習 II	2	
	子どもの本と児童サービス	2	
選 択 科 目	書物と図書館の文化史	2	
	書 誌 学 概 論	2	
	コミュニケーション 論	4	
	情 報 機 器 論	2	
	図 書 館 特 論	2	
必修科目26単位、選択科目2科目4単位以上修得。			

別表 4-(5) (第14条第4項関係)

## 学校図書館司書教諭に関する科目

授 業 科 目		単 位	備 考
必 修	学校経営と学校図書館	2	
	図書館概論メディアの構成	2	
	読書と豊かな人間性	2	
	学校指導と学校図書館	2	
	情報メディアの活用	2	

別表4-(6) (第14条第4項関係)

博物館学芸員に関する科目

授 業 科 目		単 位	備 考
必 修 科 目	博 物 館 学 I	2	
	博 物 館 学 II	2	
	博 物 館 経 営 ・ 情 報 論	2	
	教 育 学 概 論	2	
	生 涯 学 習 論	2	
	教 育 方 法 学 ( 中 等 )	2	
	博 物 館 実 習	3	
選 択 必 修	美 術 史	4	
	考 古 学	4	
	神 道 文 献	2	
	芸 能 論	4	
	生 物 学	2	
	自 然 科 学 史	2	
	日 本 の 民 俗	2	
	古 文 書 学	4	
	日 本 文 化 史 I	2	
	日 本 文 化 史 II	2	

必修科目15単位、選択科目8単位以上修得。  
 選択科目の「美術史」「考古学」はいずれか1科目必修。

別表5 (第41条関係)

休 学 在 籍 料	60,000円
-----------	---------

別表 6 (第34条・第47条関係)

項 目	納 入 額
入 学 検 定 料	30,000円
センター試験利用 入 学 検 定 料	15,000円
備 考	一般前期入試において、同じ学科 又は別学科を1枚の志願票で併願出 願する場合は、併願分については、 1出願につき併願検定料10,000円を 適用する。

別表 7 (第36条・第48条関係)

項 目	納 入 額						
	文 学 部		教 育 学 部		現代日本社会学部		
入 学 金	全 学 科	300,000円	教育学科	300,000円	現代日本社会学科	300,000円	
学 費	授 業 料	全 学 科	675,000円	教育学科	675,000円	現代日本社会学科	675,000円
	教育充実費	コミュニケー ション学科	330,000円	教育学科	330,000円	現代日本社会学科	350,000円
		神道学科・ 国文学科・ 国史学科	310,000円				
備 考	1 学費は、入学年度の別表の額を適用する。 ただし、編入学生及び転入学生にあつては、同年次生の金額と同額とする。 2 再入学の場合の入学金は、免除する。 3 皇學館高等学校卒業生は、入学金は半額とする。						

## 変更事項を記載した書類（案）

本学は、社会福祉学部社会福祉学科を改組し、現代日本社会学部現代日本社会学科を設置並びに定員振替により教育学部教育学科の入学定員・収容定員増をすることに伴い、学則を次のとおり変更する。

### 1. 第3条について

第3条第1項中「社会福祉学部及び」を削り、「教育学部」の次に「及び現代日本社会学部」を加える。

第3条第3項及び第4項を削る。

第3条第5項を第3条第3項とする。

第3条第4項として、次のように加える。

- 4 現代日本社会学部に現代日本社会学科を置く。

（事由）社会福祉学部社会福祉学科を改組し、現代日本社会学部現代日本社会学科を設置するため。

### 2. 第3条の2について

第3条の2 表中、学部欄の「社会福祉学部」、学科欄の「社会福祉学科」、教育研究上の目的欄の「主体的な学びを通して知性を豊かにし、高い倫理観と豊かな感性を養い、社会福祉の基礎と実践力を身につけた専門的素養のある人材を育成する。」を削る。

第3条の2 表中、学部欄に「現代日本学部」、学科欄に「現代日本学科」を加え 教育研究上の目的欄に次のように加える。

「現代日本における文化、社会、福祉などの教育を通じて徳性と知性と技能を磨き、それらの融合から引き出される応用力によって現代日本社会の諸問題に主体的・創造的に対応することで、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成することを教育目的とする。また、この教育目的達成のために、現代日本社会を多面的・総合的に考察することを研究目的とする。」

（事由）社会福祉学部社会福祉学科を改組し、現代日本社会学部現代日本社会学科を設置し、教育研究上の目的を明確にするため。

### 3. 第4条について

第4条 表中、学部欄の「社会福祉学部」、学科欄の「社会福祉学科、社会福祉学専攻、こども福祉学専攻」、入学定員欄の「90人(3年次編入4人)、50人」、収容定員欄の「368人、200人」を削り、教育学部・教育学科の入学定員欄の「198人」を「210人」に、収容定員欄の「792人」を「840人」に改める。教育学部の下学部欄に「現代日本社会学部」、学科欄に「現代日本社会学科」、入学定員欄に「100人」、収容定員欄に「400人」を加える。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科を改組し、現代日本社会学部現代日本社会学科を設置することにより入学定員及び収容定員を変更し、併せて定員振替により教育学部・教育学科の入学定員及び収容定員も増加するため。

4. 第 14 条について

第 14 条第 2 項を削る。

第 14 条第 3 項を第 14 条第 2 項とする。

第 14 条第 3 項として次のように加える。

3 現代日本社会学部の授業科目は、共通科目、専門科目及び教職に関する科目に分ける。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科を改組し、現代日本社会学部現代日本社会学科を設置することにより教育課程編成上の科目区分並びに授業科目を設定するため。

5. 第 20 条について

第 20 条の 3 を第 20 条とし、第 20 条中、「社会福祉学部又は」を削る。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科の改組に伴い、保育士資格の取得は教育学部の学生のみ取得となるため。

6. 第 20 条の 2 について

第 20 条を第 20 条の 2 とし、第 20 条の 2 中、「社会福祉学部」を「現代日本社会学部」に改める。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科の改組に伴い、現代日本社会学部現代日本社会学科を設置することにより社会福祉士の受験資格を現代日本社会学部の学生に取得させるため。

7. 第 20 条の 3 について

第 20 条の 2 を第 20 条の 3 とし、第 20 条の 3 中、「社会福祉学部」を「現代日本社会学部」に改める。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科の改組に伴い、現代日本社会学部現代日本社会学科を設置することにより精神保健福祉士の受験資格を現代日本社会学部の学生に取得させるため。

8. 第 20 条の 4 について

第 20 条の 4 中、「社会福祉学部」を「現代日本社会学部」に改める。



(事由) 社会福祉学部社会福祉学科の改組に伴い、現代日本社会学部現代日本社会学部科を設置することにより社会調査士資格を現代日本社会学部の学生に取得させるため。

9. 第 20 条の 5 について

第 20 条の 5 を削る。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科の改組に伴い、他学部他学科では障害者スポーツ指導員資格の取得をさせないため。

10. 第 21 条について

第 21 条第 2 項を削る。

第 21 条第 3 項を第 21 条第 2 項とする。

第 21 条第 3 項とし、次のように加える。

3 現代日本社会学部においては、共通科目 30 単位以上及び専門科目の 62 単位以上、合計 124 単位以上修得しなければならない。なお、この場合の共通科目及び専門科目並びにその単位数は、別表のとおりとする。おつて、他学部の専門科目の履修により修得した単位は、30 単位を超えない範囲で所属学科の専門科目の単位に充てることができる。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科を改組し、現代日本社会学部現代日本社会学科を設置することに伴い、卒業に必要な単位数を設定するため。

11. 第 67 条第 1 項について

第 67 条第 1 項、「文学部及び教育学部に、」を「本学に」に改める。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科を改組し、現代日本社会学部現代日本社会学科を伊勢キャンパスに設置することに伴い変更する。

別表 1 - (1) (第 14 条第 4 項・第 21 条第 1 項及び第 3 項関係) を (第 14 条第 4 項・第 21 条第 1 項、第 2 項及び第 3 項関係) に、「文学部・教育学部 共通科目」を「文学部・教育学部・現代日本学部 共通科目」とし、別表のとおり改める。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科を改組し、現代日本社会学部現代日本社会学科を設置するにあたり、文学部・教育学部共通科目を現代日本社会学部にも適用し、併せて共通科目のカリキュラムを変更するため。

別表 2 - (1) (第 14 条第 4 項) 社会福祉学部 社会福祉学科 基礎・教養科目を削る。

別表 2 - (2) - (1) (第 14 条第 4 項関係) 社会福祉学部 社会福祉学科 専門科目

を削る。

別表 2 - (2) - (2) (第 14 条第 4 項関係) 社会福祉学部 社会福祉学科 社会福祉学専攻 専門科目を削る。

別表 2 - (2) - (3) (第 14 条第 3 項関係) 社会福祉学部 社会福祉学科 こども福祉学専攻 専門科目を削る。

別表 3 - (1) (第 14 条第 4 項・第 21 条第 3 項関係) 教育学部 教育学科専門科目を別表 2 - (1) (第 14 条第 4 項・第 21 条第 2 項関係) 教育学部 教育学科専門科目とし、展開科目及び実習科目に特別支援教育に関する科目を追加する。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科を改組し、特別支援学校教員養成を教育学部に移行するため。

表 2 - (1) (第 14 条第 4 項・第 21 条第 2 項関係) 教育学部 教育学科専門科目の前に別表 3 - (1) (第 14 条第 4 項・第 21 条第 3 項関係) 現代日本社会学部 現代日本社会学科専門科目とし、別表のとおり加える。

(事由) 現代日本社会学部現代日本社会学科を設置することにより専門科目を設定するため。

別表 4 - (1) (第 14 条第 4 項関係) 教職に関する科目 文学部・教育学部を別表 4 - (1) (第 14 条第 4 項関係) 教職に関する科目 文学部・教育学部・現代日本社会学部に別表のとおり改め、社会福祉学部 (社会福祉学科 社会福祉学専攻 適用) 別表を削る。

別表 4 - (2) (第 14 条第 4 項関係) 教科又は教職に関する科目 社会福祉学部 (社会福祉学科 社会福祉学専攻 適用) を削る。

(事由) 社会福祉学部社会福祉学科を改組し、現代日本社会学部現代日本社会学科を設置することにより教職に関する科目を設定するため。

附則として、次のとおり加える。

「1 この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。」

「2 本則第 3 条及び第 4 条の規定にかかわらず、平成 21 年 4 月以前の入学生については、従前のとおりとする。」

## 皇學館大学学則新旧対照表（案）

(新)	(旧)																																							
(第1条及び第2条同文のため省略)	(第1条及び第2条同文のため省略)																																							
(学部及び学科等)	(学部及び学科等)																																							
<p>第3条 本学に、文学部、教育学部及び現代日本社会学部を置く。</p> <p>2 文学部に、神道学科・国文学科・国史学科・コミュニケーション学科の4学科を置く。</p> <p style="text-align: center;">(削る)</p> <p style="text-align: center;">(削る)</p> <p>3 教育学部に教育学科を置く。</p> <p>4 現代日本社会学部に現代日本社会学科を置く。</p> <p style="text-align: center;">(教育目的)</p> <p>第3条の2 各学部各学科の目的は、次のとおりとする。</p>	<p>第3条 本学に、文学部、<u>社会福祉学部及び教育学部</u>を置く。</p> <p>2 文学部に、神道学科・国文学科・国史学科・コミュニケーション学科の4学科を置く。</p> <p>3 <u>社会福祉学部</u>に、<u>社会福祉学科</u>を置く。</p> <p>4 <u>社会福祉学科</u>に、<u>社会福祉学専攻・こども福祉学専攻の2専攻</u>を置く。</p> <p>5 教育学部に教育学科を置く。</p> <p style="text-align: center;">(新設)</p> <p style="text-align: center;">(教育目的)</p> <p>第3条の2 各学部各学科の目的は、次のとおりとする。</p>																																							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">学 部</th> <th style="width: 20%;">学 科</th> <th style="width: 70%;">教育研究上の目的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">文学部</td> <td>神道学科</td> <td>(同文のため省略)</td> </tr> <tr> <td>国文学科</td> <td>(同文のため省略)</td> </tr> <tr> <td>国史学科</td> <td>(同文のため省略)</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション学科</td> <td>(同文のため省略)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(削る)</td> <td style="text-align: center;">(削る)</td> <td style="text-align: center;">(削る)</td> </tr> <tr> <td>教育学部</td> <td>教育学科</td> <td>(同文のため省略)</td> </tr> <tr> <td>現代日本社会学部</td> <td>現代日本社会学科</td> <td>現代日本における文化、社会、福祉などの教育を通じて徳性と知性と技能を磨き、それらの融合から引き出される応用力によって現代日本社会の諸問題に主体的・創造的に対応することで、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成する</td> </tr> </tbody> </table>	学 部	学 科	教育研究上の目的	文学部	神道学科	(同文のため省略)	国文学科	(同文のため省略)	国史学科	(同文のため省略)	コミュニケーション学科	(同文のため省略)	(削る)	(削る)	(削る)	教育学部	教育学科	(同文のため省略)	現代日本社会学部	現代日本社会学科	現代日本における文化、社会、福祉などの教育を通じて徳性と知性と技能を磨き、それらの融合から引き出される応用力によって現代日本社会の諸問題に主体的・創造的に対応することで、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成する	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">学 部</th> <th style="width: 20%;">学 科</th> <th style="width: 70%;">教育研究上の目的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">文学部</td> <td>神道学科</td> <td>(同文のため省略)</td> </tr> <tr> <td>国文学科</td> <td>(同文のため省略)</td> </tr> <tr> <td>国史学科</td> <td>(同文のため省略)</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション学科</td> <td>(同文のため省略)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">社会福祉学部</td> <td style="text-align: center;">社会福祉学科</td> <td>主体的な学びを通して知性を豊かにし、高い倫理観と豊かな感性を養い、社会福祉の基礎と実践力を身につけた専門的素養のある人材を育成する。</td> </tr> <tr> <td>教育学部</td> <td>教育学科</td> <td>(同文のため省略)</td> </tr> </tbody> </table>	学 部	学 科	教育研究上の目的	文学部	神道学科	(同文のため省略)	国文学科	(同文のため省略)	国史学科	(同文のため省略)	コミュニケーション学科	(同文のため省略)	社会福祉学部	社会福祉学科	主体的な学びを通して知性を豊かにし、高い倫理観と豊かな感性を養い、社会福祉の基礎と実践力を身につけた専門的素養のある人材を育成する。	教育学部	教育学科	(同文のため省略)
学 部	学 科	教育研究上の目的																																						
文学部	神道学科	(同文のため省略)																																						
	国文学科	(同文のため省略)																																						
	国史学科	(同文のため省略)																																						
	コミュニケーション学科	(同文のため省略)																																						
(削る)	(削る)	(削る)																																						
教育学部	教育学科	(同文のため省略)																																						
現代日本社会学部	現代日本社会学科	現代日本における文化、社会、福祉などの教育を通じて徳性と知性と技能を磨き、それらの融合から引き出される応用力によって現代日本社会の諸問題に主体的・創造的に対応することで、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成する																																						
学 部	学 科	教育研究上の目的																																						
文学部	神道学科	(同文のため省略)																																						
	国文学科	(同文のため省略)																																						
	国史学科	(同文のため省略)																																						
	コミュニケーション学科	(同文のため省略)																																						
社会福祉学部	社会福祉学科	主体的な学びを通して知性を豊かにし、高い倫理観と豊かな感性を養い、社会福祉の基礎と実践力を身につけた専門的素養のある人材を育成する。																																						
教育学部	教育学科	(同文のため省略)																																						

		<u>ことを教育目的とする。</u> <u>また、この教育目的達成のために、現代日本社会を多面的・総合的に考察することを研究目的とする。</u>
--	--	---

(収容定員等)

第4条 本学の学生定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
文 学 部	神 道 学 科	70 人	280 人
	国 文 学 科	80 人	320 人
	国 史 学 科	80 人	320 人
	コミュニケーション学科	80 人	320 人
(削 る)			
教 育 学 部	教 育 学 科	210 人	840 人
現代日本社会学部	現代日本社会学科	100 人	400 人

(第5条から第13条まで同文のため省略)

### 第3章 授業科目及び単位数

(授業科目)

第14条 (同文のため省略)

(削 る)

2 (同文のため省略)

3 現代日本社会学部の授業科目は、共通科目、専門科目及び教職に関する科目に分ける。

4 (同文のため省略)

(第15条から第19条まで同文のため省略)

(保育士資格)

第20条 教育学部の学生であつて、保育士の資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(収容定員等)

第4条 本学の学生定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
文 学 部	神 道 学 科	70 人	280 人
	国 文 学 科	80 人	320 人
	国 史 学 科	80 人	320 人
	コミュニケーション学科	80 人	320 人
社会福祉学部	社会福祉学科 社会福祉学専攻	90 人 (3年次編 入4人)	368 人
	こども福祉学専攻	50 人	200 人
教 育 学 部	教 育 学 科	198 人	792 人

(第5条から第13条まで同文のため省略)

### 第3章 授業科目及び単位数

(授業科目)

第14条 (同文のため省略)

2 社会福祉学部の授業科目は、基礎・教養科目、専門科目、教職に関する科目、教科又は教職に関する科目及び特別支援教育に関する科目に分ける。

3 (同文のため省略)

(新 設)

4 (同文のため省略)

(第15条から第19条まで同文のため省略)

(保育士資格)

第20条の3 社会福祉学部又は教育学部の学生であつて、保育士の資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(社会福祉士の受験資格)

第 20 条の 2 現代日本社会学部の学生であって、社会福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(精神保健福祉士の受験資格)

第 20 条の 3 現代日本社会学部の学生であって、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(社会調査士資格)

第 20 条の 4 現代日本社会学部の学生であって、社会調査士の資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(削る)

(スポーツ指導者資格)

第 20 条の 5 (同文のため省略)

#### 第 4 章 履修方法及び課程の修了

(卒業に必要な単位数)

第 21 条 (同文のため省略)

(削る)

2 (同文のため省略)

3 現代日本社会学部においては、共通科目 30 単位以上及び専門科目の 62 単位以上、合計 124 単位以上修得しなければならない。なお、この場合の共通科目及び専門科目の授業科目並びにその単位数は、別表のとおりとする。おって、他学部の専門科目の履修により修得した単位は、30 単位を超えない範囲で所属学科の専門科目の単位に充てることができる。

(第 21 条第 4 項から第 66 条まで同文のため省略)

(学生寮)

第 67 条 本学に学生寮を置く。

2 学生寮に関する必要な事項は、別に定める。

(社会福祉士の受験資格)

第 20 条 社会福祉学部の学生であって、社会福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(精神保健福祉士の受験資格)

第 20 条の 2 社会福祉学部の学生であって、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(社会調査士資格)

第 20 条の 4 社会福祉学部の学生であって、社会調査士の資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(障害者スポーツ指導員資格)

第 20 条の 5 社会福祉学部の学生であって、障害者スポーツ指導員の資格を得ようとする者は、所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(スポーツ指導者資格)

第 20 条の 6 (同文のため省略)

#### 第 4 章 履修方法及び課程の修了

(卒業に必要な単位数)

第 21 条 (同文のため省略)

2 社会福祉学部においては、基礎・教養科目の必修科目 11 単位及び選択科目 19 単位以上を含み 30 単位以上並びに専門科目の必修科目 25 単位及び選択科目 59 単位以上を含み 84 単位以上、合計 124 単位以上修得しなければならない。なお、この場合の教養科目及び各専攻の専門科目の授業科目並びにその単位数は、別表のとおりとする。おって、他専攻及び他学部の専門科目の履修により修得した単位は、10 単位を超えない範囲で所属専攻の専門科目の単位に充てることができる。

3 (同文のため省略)

(新設)

(第 21 条第 4 項から第 66 条まで同文のため省略)

(学生寮)

第 67 条 文学部及び教育学部に、学生寮を置く。

2 学生寮に関する必要な事項は、別に定める。

(第 68 条から第 70 条まで同文のため省略)

附 則

- 1 この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 本則第 3 条及び第 4 条の規定にかかわらず、平成 21 年度以前の入学生については、従前のおりとする。

(第 68 条から第 70 条まで同文のため省略)

別表1-(1) (第14条第4項・第21条第1項、第2項及び第3項関係)

文学部・教育学部・現代日本社会学部 共通科目

		授業科目	単位	備考
皇学	必修	皇学	2	
		伊勢学	2	
総合基礎	必修	初学び(入門演習)	1	文学部・教育学部適用
		キャンパス・セミナー	2	現代日本社会学部適用
		文章入門	2	
	選択	文章応用	2	現代日本社会学部適用
		古文Ⅰ	1	
		古文Ⅱ	1	
		漢文Ⅰ	1	
		漢文Ⅱ	1	
		総合演習	2	
		情報処理Ⅰ(基礎)	1	コミュニケーション学科 2単位必修
		情報処理Ⅱ(応用)	1	
		情報処理Ⅲ(ネットワーク)	1	
		情報処理Ⅳ(プログラミング)	1	
外国語	選択	英語基礎Ⅰ	1	
		英語基礎Ⅱ	1	
		英語コミュニケーションⅠ	1	
		英語コミュニケーションⅡ	1	
		英語総合Ⅰ	1	
		英語総合Ⅱ	1	
		英語資格対策Ⅰ	1	
		英語資格対策Ⅱ	1	
		英語資格A	2	
		英語資格B	2	
		英語資格C	2	
		英会話Ⅰ	1	
		英会話Ⅱ	1	
		ドイツ語Ⅰ	1	
		ドイツ語Ⅱ	1	
		ドイツ語Ⅲ	1	
		ドイツ語Ⅳ	1	
		フランス語Ⅰ	1	
		フランス語Ⅱ	1	
		フランス語Ⅲ	1	
		フランス語Ⅳ	1	
		ポルトガル語Ⅰ	1	
		ポルトガル語Ⅱ	1	
		ポルトガル語Ⅲ	1	
		ポルトガル語Ⅳ	1	
		中国語Ⅰ	1	
中国語Ⅱ	1			
中国語Ⅲ	1			
中国語Ⅳ	1			
外国語Ⅰ	2			
外国語Ⅱ	2			
日本文化と世界	選択	神道	2	
		哲学	2	
		言語学	2	
		日本の歴史	2	
		日本の文学	2	
		日本の思想	2	
		日本の民俗	2	
		世界の歴史	2	
世界の思想	2			
現代と生活	選択	法学(日本国憲法)	2	
		政治学入門	2	
		経済学入門	2	
		社会学入門	2	
		統計学入門	2	
		心理学入門	2	

別表1-(1) (第14条第4項・第21条第1項及び第3項関係)

文学部・教育学部 共通科目

		授業科目	単位	備考
皇学	必修	皇学	2	
		伊勢学	2	
総合基礎	必修	初学び(入門演習)	1	
		文章入門	2	
		古文	2	
	選択	漢文	2	
		総合演習	2	
		情報処理Ⅰ	2	コミュニケーション学科 2単位必修
		情報処理Ⅱ(ネットワーク)	1	
		情報処理Ⅲ(プログラミング)	1	
		英語Ⅰ	2	
		英語Ⅱ	2	
		英語Ⅲ	2	
		英語Ⅳ	2	
		英語資格A	2	
英語資格B	2			
英語資格C	2			
英会話Ⅰ	2			
英会話Ⅱ	2			
ドイツ語Ⅰ	2			
ドイツ語Ⅱ	2			
フランス語Ⅰ	2			
フランス語Ⅱ	2			
ポルトガル語Ⅰ	2			
ポルトガル語Ⅱ	2			
中国語Ⅰ	2			
中国語Ⅱ	2			
外国語Ⅰ	2			
外国語Ⅱ	2			
日本文化と世界	選択	神道	2	
		哲学	2	
		言語学	2	
		日本の歴史	2	
		日本の文学	2	
		日本の思想	2	
		日本の民俗	2	
		世界の歴史	2	
世界の思想	2			
現代と生活	選択	法学(日本国憲法)	2	
		政治学入門	2	
		経済学入門	2	
		社会学入門	2	
		統計学入門	2	
		心理学入門	2	

現代と生活	選択	現代と福祉	2
		現代と健康	2
		現代と教育	2
		人権論	2
		現代の課題	1
自然と科学	選択	数学	2
		生物学	2
		化学	2
		物理学	2
		天文学	2
		環境地理学	2
		自然地理学	2
		自然科学史	2
伝統の心と技	選択	武道Ⅰ	1
		武道Ⅱ	1
		武道Ⅲ	1
		武道Ⅳ	1
		書道Ⅰ	1
		書道Ⅱ	1
		伝統の心と技1	2
		伝統の心と技2	2
		伝統の心と技3	2
		伝統の心と技4	2
		伝統の心と技5	2
		伝統の心と技6	2
		伝統の心と技7	2
		伝統の心と技8	2
伝統の心と技9	2		
伝統の心と技10	2		
伝統の心と技11	2		
伝統の心と技12	2		
人生と仕事	選択	人生と仕事	1
		ビジネス実践論	1
		生涯学習概論	2
		インターンシップ	1
		ボランティアⅠ ボランティアⅡ	1 1
1. 外国語は「英語基礎Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「英語資格A・B・C」「英語総合Ⅰ・Ⅱ」「英語資格対策Ⅰ・Ⅱ」「英会話Ⅰ・Ⅱ」より4単位必修。			
2. 日本文化と世界、現代と生活及び自然と科学それぞれについて4単位必修。			

(別表1-(2)から(5)まで同文のため省略)

現代と生活	選択	現代と福祉	2
		現代と健康	2
		現代と教育	2
		人権論	2
		現代の課題	1
自然と科学	選択	数学	2
		生物学	2
		化学	2
		物理学	2
		天文学	2
		環境地理学	2
		自然地理学	2
		自然科学史	2
伝統の心と技	選択	武道Ⅰ	2
		武道Ⅱ	2
		書道	2
		伝統の心と技1	2
		伝統の心と技2	2
		伝統の心と技3	2
		伝統の心と技4	2
		伝統の心と技5	2
		伝統の心と技6	2
		伝統の心と技7	2
		伝統の心と技8	2
		伝統の心と技9	2
		伝統の心と技10	2
		伝統の心と技11	2
伝統の心と技12	2		
人生と仕事	選択	人生と仕事	1
		ビジネス実践論	1
		生涯学習概論	2
		インターンシップ	1
		ボランティアⅠ ボランティアⅡ	1 1
1. 皇学の、皇学・伊勢学は必修。			
2. 総合基礎の初学(入門演習)・文章入門は必修。			
3. 外国語は「英語Ⅰ～Ⅳ」及び「英語資格A～C」より、4単位必修。			
4. (文学部)「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」「ポルトガル語Ⅱ」「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」「外国語Ⅰ」「外国語Ⅱ」より2単位必修。			

(別表1-(2)から(5)まで同文のため省略)



別表2-(1) (第14条第4項関係)

## 社会福祉学部 社会福祉学科 基礎・教養科目

科目群	主 題	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎科目	英語	現代英語Ⅰ	2	
		現代英語Ⅱ	2	
	日本語	日本語基礎Ⅰ	1	
		日本語基礎Ⅱ	1	
	導入教育	キャンパス・セミナー	1	
		日本文化と神道	2	
		基礎演習Ⅰ	1	
		基礎演習Ⅱ	1	
科目群	目 標 主 題	授 業 科 目	単 位	備 考
教 養 科 目	人間の根源的理解	現代社会論	2	
		日本国憲法	2	
		人間関係理解	2	
		地域文化論	2	
		哲学	2	
		倫理学概論	2	
		宗教学概論	2	
		国際理解	2	
	人間と環境	健康・スポーツⅠ	1	
		健康・スポーツⅡ	1	
		健康・スポーツⅢ	1	
		健康・スポーツⅣ	1	
		数学基礎	1	
		教養の数学	1	
		自然科学と人間Ⅰ	2	
		自然科学と人間Ⅱ	2	
		地球環境論	4	
		科学史	2	
コミュニケーション能力の育成	言語と表現	リフレッシュ・イングリッシュⅠ	1	
		リフレッシュ・イングリッシュⅡ	1	
		現代英語Ⅲ	1	
		現代英語Ⅳ	1	
		表現論(言語・文章)Ⅰ	2	
		表現論(言語・文章)Ⅱ	2	
		ライセンス・イングリッシュⅠ	2	
		ライセンス・イングリッシュⅡ	2	
		ライセンス・イングリッシュⅢ	2	
		異文化コミュニケーションⅠ	2	
異文化コミュニケーションⅡ	2			
情報処理	情報処理Ⅰ	2		
	情報処理Ⅱ	2		
	情報処理Ⅲ	1		
	情報科学	2		
	ライセンス・コンピュータⅠ	2		
	ライセンス・コンピュータⅡ	2		
総合教養	地域文化探訪Ⅰ	1		
	地域文化探訪Ⅱ	1		
	サイバー教養(文明・文化)	1		
単位互換等単位認定		・他学部の共通科目及び他大学で修得した単位について包括認定。 ・資格取得等による認定科目と合わせて30単位を上限として認定。		
・基礎科目・教養科目併せて30単位以上修得。 ・教養科目については、4主題から各4単位以上修得。				

(削る)

別表2-(2)-(1) (第14条第4項関係)

## 社会福祉学部 社会福祉学科 専門科目

科目群	主 題	授 業 科 目	単 位	備 考
共通基礎科目群	必修	人権理解	2	
		神道と福祉	2	
	選択	社会福祉入門	2	
福祉現場事情		2		
地域文化と福祉		2		
共通基礎科目群	必修	社会福祉原論	4	
		社会福祉援助技術論Ⅰ	4	
		社会福祉援助技術論Ⅱ	4	
		社会福祉援助技術論Ⅲ	4	
		専門演習Ⅰ	1	
		専門演習Ⅱ	1	
		専門演習Ⅲ	1	
		専門演習Ⅳ	1	

(削る)

		専門演習Ⅴ	1	
		卒業研究	4	
共通基幹科目群	選択	特別演習Ⅰ	1	
		特別演習Ⅱ	1	
共通実践基礎科目群	選択	医学概論	2	
		心理学	2	
		社会学概論	4	
		社会調査法	2	
		地域福祉論	2	
		福祉行財政と福祉計画	2	
		社会福祉経営論	2	
		社会保障論	4	
		高齢者福祉サービス論	2	
		介護概論	2	
		障害者福祉論	2	
		児童・家庭福祉論	2	
		公的扶助論	2	
		医療福祉論	2	
		雇用政策	1	
		権利擁護と成年後見制度	2	
		司法福祉論	1	
		社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	
		社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	
		社会福祉援助技術演習Ⅲ	1	
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	2			
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	1			
社会福祉援助技術現場実習	4			
共通選択科目	選択	・他専攻及び他学部 of 専門科目の履修により修得した単位を10単位を上限として認定。		

別表2-(2)-(2) (第14条第4項関係)

社会福祉学部 社会福祉学科 社会福祉学専攻 専門科目

		授業科目	単位	備考
実践関連科目群	選択	ボランティア論	2	
		福祉体験	2	
		コミュニケーション技術Ⅰ	1	
		コミュニケーション技術Ⅱ	1	
		社会福祉発達史	2	
		国際社会福祉論Ⅰ	2	
		国際社会福祉論Ⅱ	2	
		社会福祉法制論	2	
		医療ソーシャルワーク論	2	
		家族福祉論	2	
		臨床心理学	2	
		社会福祉学特論Ⅰ	2	
社会福祉学特論Ⅱ	2			
展開科目群	選択	生命と倫理	2	
		政治学概論	4	
		社会心理学	2	
		経済学概論	4	
		法学概論	1	
		社会病理学	2	
		政治社会学	2	
		地理学概説	2	
		日本史概説	2	
		ジェンダー論	2	
地誌学概説	2			
世界史概説	2			
カウンセリング概論	2			
精神医学ソーシャルワーク科目群	選択	精神医学	4	
		精神保健学	4	
		精神科リハビリテーション論	2	
		リハビリテーション論	2	
		精神保健福祉論Ⅰ	2	
選択	精神保健福祉論Ⅱ	2		
	精神保健福祉論Ⅲ	2		
	精神保健福祉論Ⅳ	2		

(削る)

フ ワ ク リ シ ヤ ル	選 取	精神保健福祉援助技術総論	1
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	2
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	2
		精神保健福祉援助演習	2
		精神保健福祉援助実習	6
社 会 情 報 学 科 目 群	選 取	社会情報学	2
		社会情報分析	2
		社会統計学Ⅰ	2
		社会統計学Ⅱ	2
		社会調査実習	2
		地域社会論	2
		社会情報学演習	1
		NPO論	2
		産業社会学	2
		インターンシップ実習Ⅰ	2
		インターンシップ実習Ⅱ	2
インターンシップ実習指導	2		
特 別 支 援 教 育 科 目 群	選 取	特別支援教育総論	2
		知的障害児の心理・生理・病理	2
		肢体不自由児の心理・生理・病理	2
		病弱児の心理・生理・病理	2
		特別支援教育課程論	2
		障害児療育論	2
		病弱児教育方法	2
		障害児心理学	2
		知的障害教育Ⅰ	2
		知的障害教育Ⅱ	2
		特別支援教育授業論	2
		障害児指導法Ⅰ	2
		障害児指導法Ⅱ	1
		障害児指導法Ⅲ	1
特別支援教育実習	2		
特別支援教育実習事前・事後指導	1		

卒業に必要な専門科目については、社会福祉学科専門科目と合せて84単位以上修得すること。

別表2-(2)-(3) (第14条第4項関係)

社会福祉学部 社会福祉学科 こども福祉学専攻 専門科目

授 業 科 目		単 位	備 考
基 幹 科 目 群	選 取	保育理論	4
		養護理論Ⅰ	2
		養護理論Ⅱ	2
		教職論	2
		発達心理学Ⅰ	2
		発達心理学Ⅱ	2
		学習心理学	2
		小児保健Ⅰ	4
		小児保健Ⅱ	1
		小児保健Ⅲ	2
		小児栄養	2
		保育内容総論	1
		保育内容・健康	1
		保育内容・環境	1
		保育内容・ことば	1
		保育内容・人間関係	1
		保育表現研究	1
		保育内容・身体表現	2
		保育内容・造形表現	2
		保育内容・音楽表現	2
		保育指導法	2
		乳児保育Ⅰ	2
		乳児保育Ⅱ	2
		障害児保育	1
		養護内容	1
		児童文化論	2
		国語Ⅰ	2
		国語Ⅱ	2
		算数Ⅰ	2
		算数Ⅱ	1
		生活Ⅰ	2
		生活Ⅱ	1
		音楽Ⅰ	2
音楽Ⅱ	1		
図画・工作Ⅰ	1		
図画・工作Ⅱ	1		
体育Ⅰ	1		

(削る)

体育Ⅱ	1
保育実習事前・事後指導	1
保育所実習Ⅰ	2
保育所実習Ⅱ	2
児童福祉施設実習	2
保育総合演習	2
学校と教育の歴史	2
教育の制度と経営	2
教育社会学	2
教育課程論(初等)	2
教育の方法と技術	2
幼児の理解	2
教育相談(初等)	2
教職総合演習	2
幼稚園教育実習事前・事後指導	1
幼稚園教育実習	4
介護等体験	1

卒業に必要な専門科目については、社会福祉学科専門科目と合せて84単位以上修得すること。

別表2-1 (1) (第14条第4項関係・第21条第2項)  
教育学部 教育学科 専門科目

授業科目		単位	備考
基礎(必修)	教育学概論	2	
	教育哲学	2	
	教育史	2	
	教育社会学	2	
	障害学習論	2	
	教育心理学	2	
	教職論	2	
	教育方法学(初等)	2	
	教育方法学(中等)	2	
	教育課程論(初等)	2	
	教育課程論(中等)	2	
	幼児理解	1	
	児童心理学	2	
	学校心理学	2	
	保育内容総論	2	
	保育原理	4	
	国語科教育法	2	
	社会科教育法	2	
	算数科教育法	2	
	理科教育法	2	
	生活科教育法	2	
	音楽科教育法	2	
	図画工作科教育法	2	
	家庭科教育法	2	
	体育科教育法	2	
	保育指導の方法	2	
	言葉(指導法)	2	
	身体表現(指導法)	2	
	造形表現(指導法)	2	
	健康(指導法)	2	
基幹	人間関係(指導法)	2	
	環境(指導法)	2	
	保健体育科教育法Ⅰ	4	
	保健体育科教育法Ⅱ	4	
	児童国語	2	
	児童社会	2	
	児童算数	2	
	児童理科	2	
	児童生活	2	
	児童音楽	2	
	児童造形	2	
	児童家庭	2	
	児童体育	2	
	体育原理	2	
	体育史	2	
	体育実技(陸上)	2	
	体育実技(体操)	2	
	体育実技(球技)	2	
	体育実技(水泳)	1	
	体育心理学	2	
	運動学(運動方法学)	2	
	社会福祉	2	
	児童福祉	2	
	社会福祉援助技術	2	
	教育法規	2	
	教育行政学	2	
	学校経営学	2	
	教育相談(初等)	2	
	教育相談(中等)	2	
	環境教育	2	
	国際理解教育	2	
	小学校英語教育	2	
	国語科教育研究	2	
	社会科教育研究	2	
	数学科教育研究	2	
	理科教育研究	4	
	生活科教育研究	2	
	音楽科教育研究	2	

別表3-1 (1) (第14条第4項関係・第21条第3項)  
教育学部 教育学科 専門科目

授業科目		単位	備考
基礎(必修)	教育学概論	2	
	教育哲学	2	
	教育史	2	
	教育社会学	2	
	障害学習論	2	
	教育心理学	2	
	教職論	2	
	教育方法学(初等)	2	
	教育方法学(中等)	2	
	教育課程論(初等)	2	
	教育課程論(中等)	2	
	幼児理解	1	
	児童心理学	2	
	学校心理学	2	
	保育内容総論	2	
	保育原理	4	
	国語科教育法	2	
	社会科教育法	2	
	算数科教育法	2	
	理科教育法	2	
	生活科教育法	2	
	音楽科教育法	2	
	図画工作科教育法	2	
	家庭科教育法	2	
	体育科教育法	2	
	保育指導の方法	2	
	言葉(指導法)	2	
	身体表現(指導法)	2	
	造形表現(指導法)	2	
	健康(指導法)	2	
基幹	人間関係(指導法)	2	
	環境(指導法)	2	
	保健体育科教育法Ⅰ	4	
	保健体育科教育法Ⅱ	4	
	児童国語	2	
	児童社会	2	
	児童算数	2	
	児童理科	2	
	児童生活	2	
	児童音楽	2	
	児童造形	2	
	児童家庭	2	
	児童体育	2	
	体育原理	2	
	体育史	2	
	体育実技(陸上)	2	
	体育実技(体操)	2	
	体育実技(球技)	2	
	体育実技(水泳)	1	
	体育心理学	2	
	運動学(運動方法学)	2	
	社会福祉	2	
	児童福祉	2	
	社会福祉援助技術	2	
	教育法規	2	
	教育行政学	2	
	学校経営学	2	
	教育相談(初等)	2	
	教育相談(中等)	2	
	環境教育	2	
	国際理解教育	2	
	小学校英語教育	2	
	国語科教育研究	2	
	社会科教育研究	2	
	数学科教育研究	2	
	理科教育研究	4	
	生活科教育研究	2	
	音楽科教育研究	2	

展開	美術科教育研究	2
	家庭科教育研究	2
	体育科教育研究	2
	保育内容の研究 (身体表現)	2
	保育内容の研究 (造形表現)	2
	道德教育の研究 (初等)	2
	道德教育の研究 (中等)	2
	特別活動の研究 (初等)	2
	特別活動の研究 (中等)	2
	生徒・進路指導論	2
	衛生学	2
	公衆衛生学	2
	体育経営管理学	2
	体育社会学	2
	生理学	2
	バイオメカニクス	2
	学校保健	2
	体育実技 (ダンス・舞踊)	2
	体育実技 (ゲーム)	2
	体育実技 (スキー・スノーボード)	1
	養護原理	2
	小児保健	4
	乳児保育	2
	小児栄養	2
	精神保健	2
	家族援助論	2
	障害児保育	2
	養護内容	2
	特別支援教育総論	2
	知的障害児の心理・生理・病理	2
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2
	病弱児の心理・生理・病理	2
	特別支援教育課程論	2
	障害児療育論	2
	病弱児教育方法	2
	障害児心理学	2
	知的障害教育Ⅰ	2
	知的障害教育Ⅱ	2
	特別支援教育授業論	2
	障害児指導法Ⅰ	2
	障害児指導法Ⅱ	1
	障害児指導法Ⅲ	1
	関連	神話の教育心理学
神話教育		2
家庭と教育		2
教育に活かす書道		2
日本伝統文化教育論		2
和算を使った数学教育		2
日本の科学・技術の歩みと教育		2
伝統音楽と教育		2
伝統美術と教育		2
日本の食育文化		2
武道と教育		2
教育実習 (小学校)		4
教育実習 (幼稚園)		4
教育実習Ⅰ	4	
教育実習Ⅱ	2	
介護等体験実習	1	
教育実習事前事後指導	1	
保育所実習Ⅰ	2	
保育所実習Ⅱ	2	
児童福祉施設等実習	2	
保育実習事前事後指導	1	
小児保健実習	1	
特別支援教育実習	2	
特別支援教育実習事前事後指導	1	
演習	教育研究基礎演習	4
	教育研究演習Ⅰ	4
	教育研究演習Ⅱ	4
	教育実践演習 (初等)	2
	卒業研究	4
卒業に必要な専門科目80単位以上には、基礎科目、教育研究基礎演習、教育研究演習Ⅰ、教育研究演習Ⅱ、卒業研究を含む。		

展開	美術科教育研究	2
	家庭科教育研究	2
	体育科教育研究	2
	保育内容の研究 (身体表現)	2
	保育内容の研究 (造形表現)	2
	道德教育の研究 (初等)	2
	道德教育の研究 (中等)	2
	特別活動の研究 (初等)	2
	特別活動の研究 (中等)	2
	生徒・進路指導論	2
	衛生学	2
	公衆衛生学	2
	体育経営管理学	2
体育社会学	2	
生理学	2	
バイオメカニクス	2	
学校保健	2	
体育実技 (ダンス・舞踊)	2	
体育実技 (ゲーム)	2	
体育実技 (スキー・スノーボード)	1	
養護原理	2	
小児保健	4	
乳児保育	2	
小児栄養	2	
精神保健	2	
家族援助論	2	
障害児保育	2	
養護内容	2	
関連	神話の教育心理学	2
	神話教育	2
	家庭と教育	2
	教育に活かす書道	2
	日本伝統文化教育論	2
	和算を使った数学教育	2
	日本の科学・技術の歩みと教育	2
	伝統音楽と教育	2
	伝統美術と教育	2
	日本の食育文化	2
武道と教育	2	
実習	教育実習 (小学校)	4
	教育実習 (幼稚園)	4
	教育実習Ⅰ	4
	教育実習Ⅱ	2
	介護等体験実習	1
	教育実習事前事後指導	1
	保育所実習Ⅰ	2
保育所実習Ⅱ	2	
児童福祉施設等実習	2	
保育実習事前事後指導	1	
小児保健実習	1	
演習	教育研究基礎演習	4
	教育研究演習Ⅰ	4
	教育研究演習Ⅱ	4
	教育実践演習	2
卒業研究	4	
卒業に必要な専門科目80単位以上には、基礎科目、教育研究基礎演習、教育研究演習Ⅰ、教育研究演習Ⅱ、卒業研究を含む。		

別表3-(1) (第14条第4項・第21条第3項関係)  
現代日本社会学部 現代日本社会学科専門科目

		授 業 科 目	単 位	備 考
基礎科目	必修	現代日本総論	2	
		日本人物論	2	
		日本国家論	2	
基礎科目	選択	日本文化論	2	
		日本文学論	2	
		日本歴史論	2	
		日本民俗論	2	
		社会学概論	2	
		現代社会論	2	
		現代人権論	2	
		社会保障論	1	
現代憲法論	2			

		生活と福祉	社会福祉原論	4
			福祉政策論	2
			地域福祉論	4
		日本の文化	日本建築論	2
日本倫理思想史	2			
日本工芸論	2			
地域文化論	2			
日本礼法論	2			
日本芸能論	2			
日本神話論	2			
神道概説	2			
武士道論	2			
日本宗教概説	2			
現代の社会	地域社会論		2	
	心理学		2	
	医学概論		2	
	政治社会学	2		
	地域情報論	2		
	社会情報学	2		
	精神医学	4		
	精神保健学	4		
	国土構造論	2		
	国土計画論	2		
	地域構造論	2		
	地域計画論	2		
	産業革新論	2		
	文明開化論	2		
	社会調査法	2		
	社会情報分析	2		
	質的調査論	2		
	社会統計学Ⅰ(基礎統計)	2		
	社会統計学Ⅱ(多変量解析)	2		
	教育社会学	2		
	家族社会学	2		
	産業社会学	2		
	観光社会学	2		
	医療社会学	2		
	生活と福祉	社会福祉援助技術論Ⅰ(専門職制度)	4	
		社会福祉援助技術論Ⅱ(理論)	4	
		社会福祉援助技術論Ⅲ(実践)	4	
		介護概論	2	
障害者福祉論		2		
公的扶助論		2		
神道福祉論		2		
社会福祉発達史		2		
児童・家庭福祉論		2		
高齢者福祉サービス論		2		
医療福祉論		2		
精神保健福祉論Ⅰ(援助理念)		2		
精神保健福祉論Ⅱ(施策と業務)		2		
精神保健福祉論Ⅲ(制度とサービス)		2		
精神保健福祉援助技術総論		4		
精神保健福祉援助技術各論Ⅰ(援助活動)		2		
精神保健福祉援助技術各論Ⅱ(ケアマネジメント)		2		
リハビリテーション論	2			
精神科リハビリテーション論	2			
発展科目	選択	日本経済論	2	
		日本政治論	2	
		経済政策論	2	
		日本マスコミ論	2	
		日本外交論	2	
		農業政策論	2	
		近代神道論	2	
		公共政策論	2	
		地方自治論	2	
		コミュニティビジネス論	2	
		起業論	2	
		地方財政論	2	
		政教問題論	2	
		国際政治論	2	
		サブカルチャー論	2	
		文化政策論	2	
		雇用政策	1	
		スクールソーシャルワーク論	2	
		権利擁護と成年後見制度	2	
		福祉行財政と福祉計画	2	
		社会福祉経営論	2	

(新設)

実習科目	選択	司法福祉論	1
		文化継承実習Ⅰ	2
		文化継承実習Ⅱ	2
		文化継承実習Ⅲ	2
		文化継承実習Ⅳ	2
		文化継承実習Ⅴ	2
		文化継承実習Ⅵ	2
		産業社会実習	2
		社会調査実習	2
		社会福祉援助技術現場実習	4
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ(事前指導)	2
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ(事後指導)	1
		精神保健福祉援助実習	6
		社会臨床実習	2
		社会情報実習	2
スクールソーシャルワーク実習	2		
演習科目	必修	現代日本演習Ⅰ	4
		現代日本演習Ⅱ	4
	選択	社会福祉援助技術演習Ⅰ(コミュニケーションスキル)	2
		社会福祉援助技術演習Ⅱ(相談援助のプロセス)	2
		社会福祉援助技術演習Ⅲ(相談援助の実際)	1
		精神保健援助演習	2
		スクールソーシャルワーク演習	2
必修	課題研究演習(卒業研究)	4	

別表4-1(1) (第14条第4項関係)  
教職に関する科目  
文学部・教育学部・現代日本社会学部

授業科目		単位	備考
必修	教職論	2	
	教育学概論	2	
	教育心理学	2	
	教育行政学	2	
	学校経営学	2	
	教育課程論(中等)	2	
	国語科教育法Ⅰ	4	
	国語科教育法Ⅱ	4	
	書道科教育法	4	
	社会科教育法Ⅰ	4	
	社会科教育法Ⅱ	4	
	地歴科教育法	4	
	公民科教育法	4	
	宗教科教育法Ⅰ	4	
	宗教科教育法Ⅱ	4	
	英語科教育法Ⅰ	4	
	英語科教育法Ⅱ	4	
	保健体育科教育法Ⅰ	4	
	保健体育科教育法Ⅱ	4	
	福祉科教育法	4	
	道德教育の研究(中等)	2	
	特別活動の研究(中等)	2	
	教育方法学(中等)	2	
	生徒・進路指導論	2	
	教育相談(中等)	2	
	(削る)		
	教育実習Ⅰ	4	
	教育実習Ⅱ	2	
教育実習事前事後指導	1		
教職実践演習(中等)	2		

(削る)

別表4-1(1) (第14条第4項関係)  
教職に関する科目  
文学部・教育学部

授業科目		単位	備考
必修	教職論	2	
	教育学概論	2	
	教育心理学	2	
	教育行政学	2	
	学校経営学	2	
	教育課程論(中等)	2	
	国語科教育法Ⅰ	4	
	国語科教育法Ⅱ	4	
	書道科教育法	4	
	社会科教育法Ⅰ	4	
	社会科教育法Ⅱ	4	
	地歴科教育法	4	
	公民科教育法	4	
	宗教科教育法Ⅰ	4	
	宗教科教育法Ⅱ	4	
	英語科教育法Ⅰ	4	
	英語科教育法Ⅱ	4	
	保健体育科教育法Ⅰ	4	
	保健体育科教育法Ⅱ	4	
	(新設)		
道德教育の研究(中等)	2		
特別活動の研究(中等)	2		
教育方法学(中等)	2		
生徒・進路指導論	2		
教育相談(中等)	2		
総合演習	2		
教育実習Ⅰ 事前事後指導	5		
教育実習Ⅱ 事前事後指導	3		
(新設)			

社会福祉学部(社会福祉学科 社会福祉学専攻 適用)

授業科目		単位	備考
必修	教職論	2	
	学校と教育の歴史	2	
	学習心理学	2	
	発達心理学Ⅰ	2	
	教育の制度と経営	2	
	教育社会学	2	
	教育課程論(中等)	2	
	特別活動の指導法	2	
	教育の方法と技術	2	
	生徒・進路指導論	2	
	教育相談(中等)	2	
	教職総合演習	2	
	教育実習事前・事後指導	1	
社会科教育法Ⅰ	4		

別表4-(2) (第14条第4項関係)  
 教科又は教職に関する科目  
 教育学部

(同文のため省略)

(削る)

(別表4-(3) から別表7まで同文のため省略)

選択	社会科教育法Ⅱ	4
	公民科教育法	4
	福祉科教育法	4
	道徳教育の指導法	2
	教育実習Ⅰ	4
	教育実習Ⅱ	2

別表4-(2) (第14条第4項関係)  
 教科又は教職に関する科目  
 教育学部

(同文のため省略)

社会福祉学部 (社会福祉学科 社会福祉学専攻 適用)

授 業 科 目		単 位	備 考
必修	介護等体験	1	中一種免必修

(別表4-(3) から別表7まで同文のため省略)



別表7 (第36条・第48条関係)

項目	納入額						
	文学部		教育学部		現代日本社会学部		
入学金	全学科	300,000円	教育学科	300,000円	現代日本社会学科	300,000円	
学 費	授業料	全学科	675,000円	教育学科	675,000円	現代日本社会学科	675,000円
	教育充実費	コミュニケーション学科	330,000円	教育学科	330,000円	現代日本社会学科	350,000円
		神道学科・ 国文学科・ 国史学科	310,000円				
備考	1 学費は、入学年度の別表の額を適用する。 ただし、編入学生及び転入学生に あっては、同年次生の金額と同額とする。 2 再入学の場合の入学金は、免除する。 3 皇學館高等学校卒業生は、入学金は半額とする。						

別表7 (第36条・第48条関係)

項目	納入額						
	文学部		社会福祉学部		教育学部		
入学金	全学科	300,000円	社会福祉学科	300,000円	教育学科	300,000円	
学 費	授業料	全学科	675,000円	社会福祉学科	675,000円	教育学科	675,000円
	教育充実費	コミュニケーション学科	330,000円	社会福祉学科	350,000円	教育学科	330,000円
		神道学科・ 国文学科・ 国史学科	310,000円				
備考	1 学費は、入学年度の別表の額を適用する。 ただし、編入学生及び転入学生に あっては、同年次生の金額と同額とする。 2 再入学の場合の入学金は、免除する。 3 皇學館高等学校卒業生は、入学金は半額とする。						

## 皇學館大学現代日本社会学部設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由

### 1. 設置の趣旨および必要性

本学は平成17年12月に策定した「第一次中期計画」において、「建学の精神」の現代化・共有化を行い、その中で、以下の三点を今後の大学の目標として掲げた。

- ① わが国の歴史・伝統を継承・究明・応用して社会の要請に応える学園の創造
- ② 神道精神に基づく人間性豊かな立派な日本人の育成
- ③ 自立心に富み、社会の各領域においてリーダーとして貢献できる人材の養成

本学部は、今後の大学の目標を実現するために、「わが国民族の歴史と伝統とに基づく文化を究明し、洋の東西に通ずる道義の確立を図り、祖国愛の精神を教育培養するとともに、社会有為の人材を育成することを使命とする。」(学則第1条)の目的に照らして、現代日本社会において重要と考えられる「日本の文化」「現代の社会」「生活と福祉」という三分野についての教育を核として、現代日本社会の諸問題に主体的、創造的に対応し、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成することを教育研究上の目的とする。

具体的には、「日本の文化」の分野では、日本文化の特徴とその現代的意義を理解させるとともに、礼儀や徳の重要性を認識させる。「現代の社会」の分野では、現代日本社会の諸問題を正確に理解し、分析するための学問的素養を身につけさせる。「生活と福祉」の分野では、今日本で求められている他人を思いやり、支えるための知識と技能を養う。そして、この三分野の教育によって養われた知性と技能と徳性を融合し、そこから生まれる創造力によって、現代日本社会の諸問題の解決策を考える能力を習得させるとともに、自らの人生をも考える姿勢を身につけさせる。

なお、学生たちの進路としては、公務員、鉄道・電力などの公共公益産業、家業継承を含む地域産業と産業組織(農協関係、森林組合など)、福祉関連事業所・施設、NPO・NGO、報道・言論・出版関係などを想定している。

以上のような教育研究目的を達成するために、組織として研究対象とする中心的な学問分野は社会学・社会福祉学である。

### 2. 学部、学科の特色

すでに述べたように、本学部は、「日本の文化」「現代の社会」「生活と福祉」という三分野についての教育を核として、現代日本社会の諸問題に主体的、創造的に対応し、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成することを教育研究上の目的としている。したがって、「我が国の高等教育の将来像」の区分に従えば、本学部の機能は、「幅広い職業人養成」ということになる。また、主要三分野のいずれにおいても「地域」という観点を重視しているが、それは「社会貢献機能(地域貢献)」を果たそうとの意図からである。

### 3. 学部、学科の名称及び学位の名称

本学部の名称は「現代日本社会学部」、学科名称は「現代日本社会学科」、学位に付する専攻分野の名称は「現代日本社会学」とし、英訳名称については「Faculty for the Study of Contemporary Japanese Society」「Department for the Study of Contemporary Japanese Society」「Bachelor for the Study of Contemporary Japanese Society」とする。理由は以下の通りである。

- ①カリキュラムは、本学部の教育研究目的にしたがって、「日本の文化」「現代の社会」「生活と福祉」の三分野についての学びを中心に構成していることから、学部・学科名称はこれらの分野を総合的に表現できるものである必要があると考えられる。
- ②「日本の文化」「現代の社会」「生活と福祉」に含まれる科目、並びに発展科目に含まれる政治、経済、地方、国際に係わる科目などは、海外でも用いられている広い意味での

「社会学」という名称で包括することができると思われる。

- ③「現代の社会」分野には、社会学の基本的科目が含まれている。
- ④必修となっている基礎科目「現代日本総論」での現代日本社会に対する問題提起に始まり、基幹・展開・発展科目における現代日本社会についての多様な学びを経て、必修の演習科目である「現代日本演習」「課題研究演習」で、現代日本社会への自らの主体的な関わり方を考え、実践できる力量をみがくという学びのプロセスは、この名称と一致している。（「教育研究概念図」資料1）
- ⑤本学部は社会福祉学部を基礎とした改組であることから、「生活と福祉」分野の科目が、科目数では32.7%、単位数では35.9%を占めている（「授業科目分野別構成表」資料2）。しかしながら、教育研究目的が幅広い職業人の養成にあることから、福祉関係科目を必修とはしていない。
- ⑥現代日本社会において福祉の心や技能を学ぶことの大切さを考慮して、社会福祉士の受験資格を必要としない学生にも、基幹科目で4単位、展開科目で4単位、福祉関係科目の修得を義務づけているが、実習や演習については福祉関係科目の単位修得を義務づけてはいない。したがって、学位に付する専攻分野の名称を「学士（社会福祉学）」とすることは難しいと思われる。
- ⑦「現代日本」は、「日本の文化」分野と「現代の社会」分野との両方に含まれ、「生活と福祉」分野でも重要な概念である。現代化された建学の精神、本学部の教育研究目的やカリキュラムの特徴を、内外の受験生、研究者、一般の人々に正しく伝えるためにも必要であると考えて、この言葉を名称に盛り込む必要があると思われる。

#### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

科目区分は、教養科目の「共通科目（全学共通）」、専門科目の「基礎科目」「基幹科目」「展開科目」「発展科目」「実習科目」「演習科目」の7つに設定した。その理由は以下の通りである。

「共通科目（全学共通）」は、本学学生が共通に学ぶ科目群であり、共通教育を「学士課程教育の構築に向けて」において提示された〈改革の方策〉に沿って改良したものである。

「基礎科目」では、本学部生に共有してほしい現代日本についての問題意識と人格を磨くことの必要性への理解を通して、専門教育を受けるにあたっての動機づけを行う。

「基幹科目」では、「基礎科目」での動機づけを前提として、「日本の文化」「現代の社会」「生活と福祉」の三分野についての学びの土台となる広い視野からの基本的な知識を教授する。

「展開科目」では、「基幹科目」で広げられた視野を前提として、「日本の文化」「現代の社会」「生活と福祉」の三分野を細分化し、個別具体的な専門知識を教授する。

「発展科目」では、三分野の外あるいは周辺分野で、現代日本の諸課題を考える場合に必要になるとと思われる専門的知識を教授する。

「実習科目」では、「日本の文化」「現代の社会」「生活と福祉」の三分野についての体験的・実践的な学びの場を提供する。

「演習科目」では、以上のような科目によって得られた知性と技能と徳性を融合して、現代の課題に応える方法を考えるとともに、それと並行して、自らの生き方や進路を定めていく。

各科目区分の科目構成とその理由は以下の通りである。

「共通科目（全学共通）」では「皇学」「総合基礎」「外国語」「日本文化と世界」「現代と生活」「自然と科学」「伝統の心と技」「人生と仕事」という分野についての学びを提供する。「皇学」は建学の精神を理解するために置かれた科目群であり、「総合基礎」は、導入教育や情報処理のための科目を含んだ科目群である。「外国語」は英語を中心

として、バランスのとれたコミュニケーション能力を育成するための科目からなっており、「日本文化と世界」「現代と生活」「自然と科学」は、学生の幅広い学びを保証するための科目群である。そして、「伝統の心と技」は、豊かな人間性を育むために日本の伝統文化に触れる機会を提供するための科目群であり、「人生と仕事」は生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指すキャリア教育のための科目群である。このような全学共通の教養科目によって、内外で日本を体現し得る学士力の基礎教育を行う。

「基礎科目」では、「現代日本総論」において、現代日本が直面している諸課題の中から本学部が重視するものを取り上げ、何故にそれが大切なのかを説明することで、新入生に本学部での学びの方向性と意義を理解させ、今後の学習に主体的に取り組んでいけるだけの精神的基礎を築く。また、「日本人物論」で、本学部が問題関心を抱く分野において先駆者や模範となってきた人物について講義し、知識ばかりでなく人格を磨くことの大切さを伝え、国家及び社会の形成者にとって必要な資質とは何かを学生に考えさせる。具体的には、豊かな情操と道徳心、個人の尊重、創造性、自主及び自律の精神、勤労の重視、公共の精神、生命・自然・伝統文化を大切にす精神、国と郷土を愛し、他国を尊重する態度といった改正教育基本法に掲げられた徳目を身につけることの必要性を理解させる。同時に、これらの資質を身につければ、自分たちも祖先と同じように国家社会に貢献できることを理解させる。さらに、「日本国家論」によって、古代から現代まで、日本史の各時代において、われわれの先祖はどのような国家の理想を描き、それをどのように具体化し、なぜそれが変化していったのかを概説する。それによって、私達が属し、形成している日本という国の特徴を知り、日本人という国民としてまとまっていることの意味、意義、意味を理解し、わが国と郷土を愛する態度を養うとともに、公共の精神に基づいて、主体的に国家や地域の形成に参画し、発展に寄与しようとする意欲を高める。

「基幹科目」では、「日本の文化」分野に「日本文化論」「日本文学論」「日本歴史論」「日本民俗論」において、広い視野から日本の文化・文学・歴史・民俗の基本的な特徴を教授する。また、「現代の社会」分野には「社会学概論」「現代社会論」「現代人権論」「社会保障論」「現代憲法論」において、現代の日本社会を俯瞰した上で、それを的確に認識するための基本的な知識と視点を教授する。さらに、「生活と福祉」分野については「社会福祉原論」「福祉政策論」「地域福祉論」において、現代日本を福祉の観点から考える上での基本的な知識と視点を教授する。

「展開科目」では、「日本の文化」分野に「日本建築論」他9科目、「現代の社会」分野に「地域社会論」他23科目、「生活と福祉」分野に「社会福祉援助技術論Ⅰ」他18科目において、それぞれの分野を詳細に個別具体的に掘り下げて理解できるようにしている。

「発展科目」では、「日本経済論」「日本政治論」他21科目において、三分野の外あるいは周辺分野にもふれて、現代日本の諸課題を考える場合に、さらに広く深く多角的且つ体系的に考察できるようになるための専門的知識を教授する。

「実習科目」では、三分野に関連する実習科目15科目において、三分野についての体験的・実践的な学びの場を提供する。

「演習科目」では、「現代日本演習Ⅰ」「現代日本演習Ⅱ」「課題研究演習（卒業研究）」において、「基礎科目」「基幹科目」「展開科目」「発展科目」「実習科目」の学習によって得られた知性と技能と徳性を融合し、現代の課題に応える方法を考えるとともに、それと並行して、自らの生き方や進路を定めていくように指導する。「現代日本演習Ⅰ」「現代日本演習Ⅱ」では、担当教員の指導の下に、他の科目で学んだことを土台として、問題を発見し、それを理論的・論理的に分析し、解決策を考えるという体験を通じて、学生の主体性、問題発見能力、理論的・論理的思考力、問題解決能力を高めることを目指す。そして、「課題研究演習（卒業研究）」で、担当教員の指導の下に、本学部で学んだ全てのものを総合して、一つの課題に対する自らの見解をまとめあげる

ことによって、自らの人生の方向性を定め、国家を担い、社会を支える主体者としての自覚と能力を養うことを目指す。

この流れを図式化したものが添付した「教育研究概念図」（資料1参照）であるが、これを簡単に言えば、「基礎科目」で学びの基礎を整え、「基幹科目」「展開科目」「発展科目」の順で学びを拡大、深化、発展、体験させていき、「演習科目」で調査、分析、融合、創造、選択という形で完結するという体系化・構造化を図った学びの流れである。したがって、この流れにそって、最初の「基礎科目」と最後の演習科目（「現代日本演習Ⅰ」「現代日本演習Ⅱ」「課題研究演習（卒業研究）」）とを必修とし、「基幹科目」「展開科目」「実習科目」「発展科目」は選択科目とした。

そして、履修順序も、専門科目については、原則的には①「基礎科目」→②「基幹科目」「展開科目」「実習科目」→③「演習科目」の順で、重層的・複合的な学びの必要性も考慮して、それを楔形に配することとした。

## 5. 教員組織の編成の考え方及び特色

本学部は、「日本の文化」「現代の社会」「生活と福祉」という三つの分野についての教育を核として、現代日本社会の諸問題に主体的、創造的に対応し、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成することを教育研究上の目的としていることから、中心となる「日本の文化」（専任3人）、「現代の社会」（専任4人）、「生活と福祉」（専任6人）の分野や関連の深い政治・法律（専任3人）に専任教員を配置し、主要分野の主要科目については基本的に専任教員が担当する。さらに、諸分野を総合する責任者として専任の学部長1名を置くことで、専門性・体系性・総合性を確保することとしている。これらの専任教員の内、5人が博士の学位、12人が修士の学位を有している。

具体的に言えば、まず、「基礎科目」である「現代日本総論」は専任教員5人がオムニバスで担当し、「日本人物論」は専任教員2人と兼任教員1人がオムニバスで担当し、「日本国家論」については、専任教員1人が担当する。

「基幹科目」については、「日本歴史論」「社会保障論」（いずれも兼任）を除いて、すべて専任教員が授業を担当する。

「展開科目」では、全53科目中、35科目を専任教員が担当し、「発展科目」は、全22科目中、9科目を専任教員が担当する。

なお、本学部の特色の一つである「文化継承実習」については、その分野で高い実績をあげている非常勤講師を当て、地域社会系や現代福祉系の実習、さらに演習については専任教員が担当して指導することとしている。

教員組織の専任教員の年齢構成（開設時）は、60代が2人、50代が5人、40代が6人、30代が4人というバランスの取れたものとなっており、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成となっている。

## 6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1) 授業方法

学科の専門科目について、知識の伝達を主とするものについては講義形式で教授し、技能の修得に関するものは実習形式とし、知識の融合や質疑応答、思考訓練が必要なものは演習形式とした。そして、講義形式のものは、必修科目が含まれていることや過年度生の受講も考慮して最大限150人とし、実習形式は教室と効率を考慮して最大限30人、演習形式は個別対応の必要性を考慮して最大限20人とすることにした。

科目の配当年次は、「基礎科目」で学びの基礎を整え、「基幹科目」「展開科目」「発展科目」「実習科目」の順で学びを拡大、深化、発展、体験させていき、「演習科目」で調査、分析、融合、創造、選択という形で完結するという学びの流れにしたがって、原則的には①「基礎科目」→②「基幹科目」「展開科目」「発展科目」「実習科目」→③「演習科目」の順で考えたが、実際には重層的・複合的な学びの必要性も考慮して、

①「基礎科目」(1年次)→②「基幹科目」(1年から3年次)「展開科目」(1年から4年次)「発展科目」(2年次から4年次)「実習科目」(2年次から4年次)→③「演習科目」(2年次から4年次)という楔形の配置とした。

学生がより効果的な履修計画を立てられるようにするため、半期完結型のセメスター制度を導入した。ただし、実習・演習科目は除くこととした。

## (2) 卒業要件

「共通科目(全学共通)」については、必修8単位を含めて30単位以上とした。これは「皇学」「総合基礎」「外国語」「日本文化と世界」「現代と生活」「自然と科学」「伝統の心と技」「人生と仕事」という各分野にわたって、最低2科目ずつとれるようにすることで、それぞれの分野の教育を確保することによって「幅広い学び」を保証できるとの考えから導かれた単位数である。

「基礎科目」については全3科目6単位を必修とした。これは、この科目群が本学部生に共有してほしい現代日本についての問題意識と人格を磨くことの必要性への理解を通して、専門教育を受けるにあたっての動機づけを行い、学びの基礎を整えるためのものだからである。

「基幹科目」については、全12科目30単位の内、「日本の文化」「現代の社会」「生活と福祉」の各分野から最低4単位、合計18単位以上を必修とした。これは、「三つの分野についての教育を核」とするという方針に照らして、各分野について、最低でも複数の科目を履修する必要があると考えたからである。他方で、自ら選択した科目については熱心に取り組むが、修得を義務づけられている科目については意欲が下がる傾向を持つ近年の学生気質を考慮した結果でもある。

同様の考えから「展開科目」においても、全53科目118単位の内、「日本の文化」「現代の社会」「生活と福祉」の各分野から最低4単位を必修とした。

そして、「発展科目」は全22科目42単位を選択科目とした。それは、この科目群の性質上、学生の興味により学びの幅を広げるために自由に選択できる科目と位置付けたからである。

「実習科目」は、全15科目31単位の内、4単位以上を必修とした。これは、最低でも1科目を受講することで、体験的・実践的な学びとし、「演習科目」で融合につなげるという考えによる。

さらに、「演習科目」は、全8科目21単位の内、「現代日本演習Ⅰ」「現代日本演習Ⅱ」「課題研究演習(卒業研究)」の3科目12単位を必修とした。それは、これらの科目が、知性と技能と徳性を融合して現代の課題に応える方法を考えるとともにそれと並行して自らの生き方や進路を定めていく、言い換えれば、調査、分析、融合、創造、選択という形で完結するという学びの流れの結び役だからである。

以上の条件を満たして、共通科目30単位以上、専門科目62単位以上、計124単位以上を取得することを卒業要件とした。

なお、他学部で修得した専門科目30単位までを、本学部の専門科目の単位に充てることができる。

## (3) 履修モデル

現代日本における文化、社会、福祉などの教育を通じて知性と技能と徳性を磨き、それらの融合から引き出される応用力によって現代日本社会の諸問題に主体的・創造的に対応することで、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人を養成するという目的にしたがって、履修モデル(資料3)を作成した。

## (4) 履修科目の年間登録上限

単位制度の実質化の観点から、各学年40単位までを年間登録の上限とした。これは、

週5日間毎日2科目を履修した場合、学生の学習時間は授業と予習復習を含めて1日9時間となり、これが一日に無理なく可能な学習時間の上限であろうと考えたからである。

## 7. 施設、設備等の整備計画

### (a) 校地、運動場の整備計画

本学では、大学の目標に示された、「神道精神に基づく人間性豊かな立派な日本人の育成」のための教育にふさわしい環境として、緑に囲まれた自然豊かな中での教育展開と学士課程教育の構築に必要な整備を行うことを考えている。

本学伊勢キャンパスは、法人所有地 80,516 m<sup>2</sup>(寮敷地 8,567 m<sup>2</sup>を含む)、借用地 6,103 m<sup>2</sup>、合わせて 86,619 m<sup>2</sup>の校地を有している。本学部設置後は、既設の文学部（神道学科、国文学科、国史学科、コミュニケーション学科）、教育学部（教育学科）とあわせて、3学部6学科、学生収容定員は合計 2,480 名となるが、大学設置基準で定められた学生一人あたり 10 m<sup>2</sup>の基準を十分に満たしている。

大学専用の運動場（10,500 m<sup>2</sup>）は、主に陸上競技専用のグラウンドであるが、サッカーなどの球技活動もできるように整備されており、300mトラック、100m走直線トラックや走り幅跳び、走り高跳び、棒高跳び用の施設がある。これらは教育学部の小学校教員や保健体育科の中・高教員養成のための授業や課外活動等で使用している。運動用施設設備としては、総合体育館（2階建て、5,407 m<sup>2</sup>）があり、メインアリーナ（1,555 m<sup>2</sup>）、サブアリーナ（571 m<sup>2</sup>）、柔道場（602 m<sup>2</sup>）、剣道場兼薙刀道場（288 m<sup>2</sup>）、トレーニングルーム（241 m<sup>2</sup>・各種トレーニングマシン設置）などを設けている。メインアリーナは、バスケット2面の広さを持ち、バレーボール、ハンドボール、バトミントンのコートと共用している。2階には、バスケットボール1面のサブアリーナがあり、トレーニングルームも併用している。アリーナについては、主に教育学部の小学校教員や保健体育科の中・高教員養成のための授業などでそれぞれ使用しており、夜間は活発に課外活動が行われている。また、柔道場や剣道場兼薙刀道場は、主に共通科目の「武道」で使用されているが、近年、女子学生の柔道志向がみられる。テニスコートは、昨年、人工芝に改修され、夜間照明を付けたため、クラブ活動も活発に行われるようになった。その他、課外活動等のための弓道場、武道場、学生食堂の入った倉陵会館などがある。

伊勢キャンパスは、伊勢志摩国立公園の入口にあたり風致地区に指定されており、構内全体が樹木に囲まれているが、特に整備された2号館、3号館周辺は、学生の休息場所として利用されている。また、昭和57年に皇學館大學創立百周年記念事業の1つとして造成された万葉遊歩道には、万葉集で詠まれている万葉の植物（木本類 67 種、その中で万葉植物は 31 種、草本類 37 種、その中で万葉植物は 10 種）が群生している。

現在、新校舎の建設が進みつつあるが、周辺に樹齢40年を越えるソメイヨシノ（桜並木）があり、保存を前提とした計画となっており、さらなる植栽により自然環境の充実を図る計画である。

### (b) 校舎等の施設の整備計画

本学伊勢キャンパスは、1号館（講義室・研究室・演習室・音楽室・実習室等）、2号館（講義室）、3号館（研究室、会議室）、4号館（講義室、語学教室）、5号館（講義室、情報処理教室、演習室）、祭式教室（教室、更衣室）、記念館（教室、和室、事務室）、図書館、総合体育館（アリーナ、柔道場、剣道場、トレーニングルーム、研究室、演習室）、佐川記念神道博物館、記念講堂（事務室、会議室、講堂）、倉陵会館（演習室、和室、食堂、事務室）、などの教育研究施設が整備されている。

本学部は、現代日本社会の諸問題に主体的、創造的に対応し、各領域においてリーダーとして貢献できる幅広い職業人の養成を教育目的としており、そのために「共通科目」「基礎科目」「基幹科目」「展開科目」「発展科目」「実習科目」の各科目を体系的におこなっているが、これらの科目での学びを総合する「演習科目」を重視している。

今般の学部設置に当たり既設学部との教育環境の整備とあわせ、平成 22 年 8 月竣工、同年 10 月からの使用を目指す新校舎の建設工事に平成 21 年 6 月に着工する。この新校舎は講義室 22 室、実験実習室 27 室からなり、新校舎竣工後の教室数は、伊勢キャンパス全体で講義室 40 室、演習室 34 室、実験実習室 48 室、情報処理教室 3 室、語学教室 1 室となり、充実した教育環境が整えられることになる。

新校舎の講義室 22 室の内訳は、300 人教室 1 室、120 人教室 3 室、80 人教室 5 室、40 人教室 6 室、情報処理教室 1 室で構成されており、既設学部の教室使用を考慮してもその稼働率（平成 20 年度、55.6%）から、本学部の「演習科目」重視の考え方を踏まえた、1 学年分の演習を同じ時間に行えるだけの少人数教室を整備することができる。

さらに 1 学年 100 名となることから、共通科目（学科別クラス分け）や学科必修科目を想定し、過年度学生を含めて、120 人教室を新たに 3 室用意することで十分な対応が可能となる。また、各講義室には最新の映像放送設備等を整備する計画である。

また、平成 23 年度には、本学部は 17 人の専任教員を予定しているため、新校舎完成後に現 1 号館を改修して新たに研究室を 13 室増設し、さらに新 1 号館 5 階に 12 室を設けて、十分な室数の個人研究室を整備するとともに、学部（学科）研究室を整備して、本学部の教育目的を実現するための授業内容の検討など、学部（学科）運営のための様々な方策を検討する場とする予定である。

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学伊勢キャンパスでは、昭和 37 年 4 月再興以来、常に図書館機能の整備充実に積極的に取り組んできた。

そこで、現在の図書館（4,244 m<sup>2</sup>）においては、1,005 m<sup>2</sup>の閲覧室に 233 席の閲覧席を設けており、各閲覧室には、各学科の専門図書を中心とする図書 316,637 冊、「社会学評論」、「社会福祉学」、「社会心理学研究」、「東方宗教」、「神道史研究」、「国文学解釈と鑑賞」、「日本文学」、「日本歴史」、「史学雑誌」等学術雑誌 5,916 種、視聴覚資料 3,669 点を整えているとともに、学術情報検索のための情報システムを整備している。

また、カウンターでは国内の雑誌データファイルを一括して検索できる統合データベースのマガジンプラス、1984 年以降の朝日新聞の記事が検索できる朝日新聞聞蔵、明治、大正時代の新聞の記事が検索できる読売新聞等といったデータベースを提供するなどして、利用者へは教育研究の基となる学術情報の整備充実を目指している。

しかし、電子ジャーナル等はまだ導入していないが、今後は他大学と共同で購入するコンソーシアムも視野に入れながら、導入するかどうかを検討している。

今般、社会福祉学部社会福祉学科を基に現代日本社会学部現代日本社会学科を設置するため、既に社会学・社会福祉学関係 27,119 冊、神道関係（宗教・神道）12,041 冊、国文関係（日本・外国文学）38,877 冊、国史関係（歴史・地理）40,834 冊等、関連関係の図書を完備している。

各学科・研究所等に所蔵する図書を有効に活用するために、図書データの一元化を目指した。そこで、平成 18 年度より約 3 年かけて計画を立て遡及入力を行っ



た結果、精度の高いデータができ、学内のみならず学外からも検索が可能となった。また、現在各学科研究室にも社会学・社会福祉学関係を始めとする約13,500冊の図書を整備し、利用提供を行なっている。今後も引続き図書館および各学科研究室との連携を保ち、資料の充実を図りながら、図書および学術情報の基盤を整備していきたいと考えている。

## 8. 入学者選抜の概要

現代日本社会学部現代日本社会学科は、建学の精神を理解し、日本の文化と伝統に根ざした高潔な理想のもとに、現代日本社会が直面するさまざまな社会的課題を克服する人材の育成を目的として、以下のアドミッションポリシー設け、それにふさわしい入学生を獲得するための入学者選抜を実施する。(資料4)

- ①将来、国、地方、地域のためにリーダーとして貢献したいと思っている者
- ②日本の伝統的価値観に基づき住みよい社会作りに尽力したいと思っている者
- ③本学への志望理由が明確で、入学を強く希望する者

入学者選抜の体制は、一般選考試験、推薦入学試験とし、選抜体制は以下の通りである。なお、学部の募集人員は別表(資料4)に示したとおりである。

一般選考は、AO方式と筆記試験方式を併用する。AO方式においては、アドミッションポリシーの理解や、現代日本の課題を解決しようとする意欲と資質を持っていることをプレゼンテーションや質疑によって確認し、相互理解に基づいて本学部がめざす教育にふさわしい入学者を選抜する。また、海外青年協力隊への参加やボランティア活動などのさまざまな社会活動に参加した経験や参加の意思など、広く現代社会の諸問題に目を向けていることを重視する。筆記試験方式においては、高等学校卒業程度の基礎学力を有していることを求める。そのために、大学入試センター試験利用入試も併用し、偏った入学選抜にならないように配慮する。

推薦入学試験においては、学業および人物に優れ、現代日本の諸課題や日本の文化、伝統に深い関心と高い理想を有し、旺盛な学習意欲をもつ者を、小論文、面接あるいはプレゼンテーションを組み合わせ選抜する。

## 9. 現代日本社会学部で取得可能な資格

### (1) 取得可能な資格の一覧

現代日本社会学部現代日本社会学科で取得可能な資格は次のとおりである。

	資格の発行者	取得対象	修了要件か	追加科目履修必要性
社会福祉士	国家資格	国家試験受験資格取得	修了要件でない	不要
精神保健福祉士	国家資格	国家試験受験資格取得	修了要件でない	不要
社会調査士	財団法人社会調査協会	資格取得	修了要件でない	不要

## 10. 実習の具体的計画

### A) 社会福祉士国家試験受験資格取得教育課程設置における実習について

- ①実習計画の概要－「社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に関わる指針について」(平成20年3月28日厚生労働省社援発第0328001号)により、「相談援助実習」を行う。なお、受講者数は40名を想定している。
- ②実習目標－「相談援助実習」(本学開講科目名：社会福祉援助技術現場実習)に

において以下の諸課題を習得させる。

ア、利用者やその関係者、施設・事業所・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成方法を学ぶ。

イ、利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成方法を学ぶ。

ウ、利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成方法を学ぶ。

エ、利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）と評価方法を学ぶ。

オ、他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践を学ぶ。

カ、社会福祉士としての職業倫理、施設・事業所・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解を学ぶ。

キ、施設・事業所・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践を学ぶ。

ク、当該実習先が地域社会の中の施設・事業所・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する内容を学ぶ。

③「社会福祉援助技術現場実習」に関する科目を以下のとおりとする。

ア、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（事前指導）2単位 3年前期 必修

イ、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（事後指導）1単位 3年後期 必修

ウ、社会福祉援助技術現場実習 4単位 3年通期 必修

④実習施設確保の状況

ア、「社会福祉援助技術現場実習」については、県内13箇所、種別については、高齢者関係施設・事業所4箇所、障害者関係施設・事業所2箇所、児童関係施設・事業所4箇所、行政関係機関3箇所から、合計66名の受入の承諾を得ている。（資料5）

イ、問題対応、きめ細かな指導を行うに至っては、当該学生、実習施設の実習指導者そして本学担当指導教員との3者の連携において、実習計画書を作成し計画通りの実習が円滑に実施されるよう3者の日常的な連携を行う。

⑤実習指導の概要

ア、実習前・後指導の具体的指導内容

- ・社会福祉援助技術現場実習における実習前・後指導、個別指導、集団指導の意義
- ・実際の実習現場の利用者理解や施設・事業所・機関・団体・地域社会との関係に関する基本的な理解
- ・実習現場の関連業務に対する基本的な理解
- ・実習前指導における見学実習や体験実習の意義
- ・相談援助に関わる知識と技術の理解
- ・実習現場の個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解と個人情報保護法などの制度の理解
- ・実習生、現場の実習指導者、実習担当教員との3者協議を踏まえた実習計画書の作成
- ・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
- ・実習の評価全体総括会の開催

イ、実習期間中の実習指導者による実習指導（学生は、実習中に実習指導者から以下のような内容の指導を受ける）

- ・利用者やその関係者、施設・事業所・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方な

どの円滑な人間関係の形成

- ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメント）とその評価方法
- ・他職種連携をはじめとする支援チームにおけるチームアプローチの実際
- ・社会福祉士としての職業倫理、施設・事業所・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- ・施設・事業所・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- ・当該実習先が地域社会の中の施設・事業所・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

ウ、実習中の学生に対する実習担当教員の指導

- ・現場実習担当教員は3名とし、巡回指導を通して、学生、実習指導者との連絡調整を密に行いながら、学生の実習状況の把握を行うとともに、上記の諸課題について個別指導を行う。

#### ⑥健康診断、予防接種等

現場実習は、多くの場合集団の場であり生活の場であることから、保健衛生面に対する十分な配慮が求められる。従って、実習先から求められる健康診断や諸検査については、実施したうえで実習に臨むように指導する。

#### ⑦実習の評価

実習の評価に当たっては、評価基準を明確にし、実習指導者の評価に加え、実習生本人の自己評価も考慮して総合的な評価を行う。

### B) 精神保健福祉士国家試験受験資格取得教育課程設置における実習について

- ①実習計画の概要－「精神保健福祉士法第7条第1号の規定に基づく精神障害者の保健及び福祉に関する科目」（平成20年5月12日厚労告307）により、「精神保健福祉援助実習」を行う。なお、受講者数は10名を想定している。
- ②実習目標－「精神保健福祉援助実習」において以下の諸課題を習得させる。
  - ア、利用者やその関係者、施設・事業所・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成方法を学ぶ。
  - イ、利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成方法を学ぶ。
  - ウ、利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成方法を学ぶ。
  - エ、利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）と評価方法を学ぶ。
  - オ、他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際を学ぶ。
  - カ、精神保健福祉士としての職業倫理、施設・事業所・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解を学ぶ。
  - キ、施設・事業所・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ。
  - ク、当該実習先が地域社会の中の施設・事業所・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する内容を学ぶ。
- ③「精神保健福祉援助実習」に関する科目を以下のとおりとする。
  - ・精神保健福祉援助実習 6単位 3年通期 必修
- ④実習施設確保の状況

- ア、「精神保健福祉援助実習」については、県内6箇所、種別については、精神科病院4箇所、精神障害者生活訓練施設1箇所、障害者自立支援法に規定する障害福祉サービス事業・相談支援事業施設及び地域活動支援センター1箇所から、合計11名の受入の承諾を得ている。(資料6)
- イ、問題対応、きめ細かな指導を行うに至っては、当該学生、実習施設の実習指導者そして本学担当指導教員との3者の連携において、実習計画書を作成し計画通りの実習が円滑に実施されるよう3者の日常的な連携を行う。

#### ⑤実習指導の概要

##### ア、実習前・後指導の具体的指導内容

- ・精神保健福祉援助実習における実習前・後指導、個別指導、集団指導の意義
- ・実際の実習現場の利用者理解や施設・事業所・機関・団体・地域社会との関係に関する基本的な理解
- ・実習現場の関連業務に対する基本的な理解
- ・実習前指導における見学実習や体験実習の意義
- ・実習現場の個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解と個人情報保護法などの制度の理解
- ・実習生、現場の実習指導者、実習担当教員との3者協議を踏まえた実習計画書の作成
- ・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
- ・実習の評価全体総括会の開催

##### イ、実習期間中の実習指導者による実習指導（学生は、実習中に実習指導者から以下のような内容の指導を受ける）

- ・利用者やその関係者、施設・事業所・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメント）とその評価方法
- ・他職種連携をはじめとする支援チームにおけるチームアプローチの実際
- ・精神保健福祉士としての職業倫理、施設・事業所・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- ・施設・事業所・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- ・当該実習先が地域社会の中の施設・事業所・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

##### ウ、実習中の学生に対する実習担当教員の指導

- ・現場実習担当教員は1名とし、巡回指導を通して、学生、実習指導者との連絡調整を密に行いながら、学生の実習状況の把握を行うとともに、上記の諸課題について個別指導を行う。

#### ⑥健康診断、予防接種等

現場実習は、多くの場合集団の場であり生活の場であることから、保健衛生面に対する十分な配慮が求められる。従って、実習先から求められる健康診断や諸検査については、実施したうえで実習に臨むように指導する。

#### ⑦実習の評価

実習の評価に当たっては、評価基準を明確にし、実習指導者の評価に加え、実習生本人の自己評価も考慮して総合的な評価を行う。

## 11. 企業等実習

産業社会実習におけるインターンシップについて

### (1) 実習の位置づけ

本学では平成18年度より、三重県、財団法人三重県産業支援センター、三重県経営者協会と連携し、三重県内で授業としてインターンシップ実習を実施し、単位認定してきた実績がある。産業社会実習において、官公庁や企業等でのインターンシップを実施し、現代日本の課題について産業社会の最前線で学ぶ学習効果を狙っている。また、その就業体験によって、自らの就業意識を高めて将来の自分の進路について真剣に取り組むきっかけとしてもらう。なお、受講者は30名を想定している。

### (2) 実習先の確保の状況

三重県、財団法人三重県産業支援センター、三重県経営者協会と連携しており、混乱なく三重県内の全大学が円滑に実習先を確保できるように、実習先への依頼は年度ごとにおこなうことになっていて、本学もそれに従っている。平成18～20年度の受入先は（資料7）の通りである。

### (3) 実習の進め方

実習の進め方については次の通りである。

<4月>

【学 生】履修登録、ガイダンスを開始。

【実習先】年度頭に実習学生の受入を書面にて依頼し、書面にて内諾を得る。

<5月>

【学 生】事前指導実施

【実習先】実習内容の確認

<6月>

【学 生】実習希望先確定。マッチング面接（学内）実施・選考。マッチング面接（実習先）実施・実習先決定

【実習先】マッチング面接の実施

<7月>

【学 生】調査書、誓約書、健康診断書（必要に応じて）の提出

【実習先】実習学生との慈善打ち合わせ

<8～9月>

【学 生】実習実施、巡回指導

【実習先】実習実施

<10～12月>

【学 生】事後指導の実施

【実習先】実習評価

<1月>

【学 生】報告書原稿作成、提出

<2月>

【学 生】報告書刊行

【実習先】報告書を受け取る

### (4) 実習先との連携体制

実習先とは下記の要領で連携を図る。

- (1) 三重県内での卒業生の就職先を中心に、年度頭に企業等に実習受入の依頼をし、内諾を得た実習先からは実習学生に対する要望を事前に受け取っておく。

- (2) 事前指導を受けた学生が実習先希望を決定した後、授業担当教員によって学内マッチング面接を実施し、実習先の要望と学生の希望が合致するか確認する（受入人数枠より希望者が多い場合は選考も行う）。
- (3) 学内マッチング面接で確認の取れた学生は自分で実習希望先と連絡を取り、マッチング面接を受け、正式に受入を決定してもらう。
- (4) 実習先担当者に必要な書類を提出し、実習内容について実習学生と事前に打ち合わせてもらう。
- (5) 実習中は授業担当教員 2 名が実習先担当者と連絡を取り合う。授業担当教員は実習中に巡回指導を最低 1 回は行い、実習学生と実習先担当者と面談して実習の円滑な運営を図る。
- (6) 実習終了後、実習先担当者に講評を依頼し、その内容に基づいて事後指導を行う。
- (7) 年度終わりに報告書を刊行し、実習先担当者に送付する。

(5) 成績評価体制及び単位認定方法

産業社会実習は通年開講 2 単位科目である。インターンシップとビジネスプラン作成・発表を実習の 2 本柱としており、インターンシップの部分は実習先の担当者からいただく予定である講評も成績評価の参考資料として用いる。しかし、講評はあくまで実習中の中間的な評価であり、学生が事後指導を受けていかに自分の就業体験を反省し咀嚼するかを真の評価対象とする。成績評価に関する責任はすべて科目担当者にある。

12. 管理運営

大学の教学面における管理運営体制については、学則第 56 条第 4 項の規定に基づき、本学の教育に関する重要事項を評議する大学評議会を置き、その下に教授会を設置している。教授会には各学部教授会（以下「教授会」という。）と学部合同教授会があり、いずれも学生の教育並びに研究を円滑に行うための審議を行う役割を担っている。教授会及び学部合同教授会の構成は、専任の教授、准教授、講師及び助教をもって組織される。定例教授会は原則学部合同教授会とし、月 1 回程度開催される。本学建学の精神に則って、学部合同教授会は下記の事項を審議し、教授会では学部合同教授会での審議事情を除く固有の事項を審議する。

- ① 教育課程、授業及び学科考査に関する事項
- ② 学生の入学、退学、休学、卒業その他学生の修学に関する事項
- ③ 学生の賞罰、指導及び厚生に関する事項
- ④ 学生定員に関する事項
- ⑤ 委託生、研究生及び科目等履修生に関する事項
- ⑥ 学則並びに教学一般に関する諸規程の制定、改廃に関する事項及び教育の改善に関する事項
- ⑦ 学部、大学院並びに専攻科等の新設、増設、廃止及び変更に関する事項
- ⑧ 教員の任免、進退に関する事項
- ⑨ 評議員の選出に関する事項
- ⑩ 自己点検・評価に関する事項
- ⑪ 学長の諮問した事項
- ⑫ その他学部運営に関する重要事項

学部合同教授会には、学部合同教授会規程第 2 条第 3 項に基づき、必要により次のような委員会がおかれている。

総務委員会（学部の運営に関する事項を審議）、研究委員会（研究の推進に係わる事項を審議）、広報委員会（広報活動に関する事項を審議）、入学試験委員会（入学

選抜を適正に行うための重要な事項を審議)、教務委員会(本学の教育方針に基づき、学部の教務に関する事項を審議)、学生委員会(本学の教育方針に基づき、学部における学生の厚生補導に関する事項を審議)、就職委員会(学部の学生の就職に関する事項を審議)、FD推進委員会(FDの支援、推進に関する事項を審議)

### 13. 自己点検・評価

#### (1) 恒常的な自己点検・評価システムについて

本学の自己点検・評価体制は、「学校法人皇學館自己点検・評価規程」で次のような3つの組織で構成されることが定められている。

- i) 法人の理事長が委員長となり、法人並びに大学、高等学校及び中学校の役職者を構成員として、建学の精神の確認や点検・評価の基本構想の策定、自己点検・評価の実施体制・実施方法・評価結果の活用の定期的見直し等を主な任務とした「全学自己点検・評価委員会」
- ii) 学長が委員長で、全学自己点検・評価委員会が策定した基本構想に基づき教育研究及びそれに関わる管理運営に関する自己点検・評価を実施する「教育研究自己点検・評価委員会」(学長・各研究科長・各学部長・各学科主任・附置研究所長等)  
(大学の点検評価実施項目) ①教員組織、②教育活動、③研究活動、④入学関係、⑤広報関係、⑥就職関係、⑦学生関係、⑧教務関係、⑨図書館、⑩附置研究機関及び博物館、⑪専攻科、⑫大学院、⑬出版部、⑭国際交流関係、⑮その他
- iii) 全学自己点検・評価委員会が策定した基本構想に基づき管理運営及びそれに関わる教育研究に関する自己点検・評価を実施する「管理運営自己点検・評価委員会」  
(点検評価実施項目) ①組織運営、②経営管理、③教育研究支援、④施設設備、⑤広報・地域活動、⑥大学支援、⑦その他
- iv) 必要に応じて設置する「個別委員会・作業部会」

自己点検・評価活動を実質的に機能させるために恒常的に行うための制度システムとして、以下の4つを実施している。

#### i) 授業評価アンケートの実施

学期毎にアンケート調査を実施している。アンケート調査は、専任・非常勤も含めて殆どの講義・演習科目が対象で、結果は学内ホームページに掲載している。授業評価アンケート結果については、集計結果に基づきFD推進委員会で数値分析を行い、総合評価で60%未満の担当科目がある教員に対して、FD推進委員会委員長から改善に向けての指導をし、その後の経過を見て改善が見られない場合は、担当者の変更を検討する等、授業改善を推進している。

#### ii) 学生生活実態調査(寮生実態調査も含む)の実施

平成17年度実施した学生生活実態調査をベースに平成19年度も実施し、過去のデータとの比較分析を進め、学部学科の改善・改革に活用する。調査結果については、アンケート内容に関わる各種委員会(教務委員会・学生委員会等)に情報を提供して改善に対する検討を行っており、主要10項目については、経年比較を通してPDCAサイクルを廻すように努めている。

#### iii) 卒業時・入学者アンケートの実施

平成20年度卒業生から卒業時アンケートを開始するとともに、平成21年度入学生に対して入学者アンケートを実施し、入学者の本学に対する期待や目的と、卒業者の意識・満足度などについて調査することにより、入り口から出口までの一貫した教育展開のあり方について、検討を進める。

#### iv) 研究教育業績データベースの稼働

教員の教育研究活動等について、従前は自己点検・評価の一環として「皇學館大学研究要覧」を3年に一度刊行していたが、平成18年度より「教育研究業績データベ

ース」を稼働させて、学内の全教職員はアクセス可能とし、編纂・刊行を行わないこととした。公式ホームページでの公開を、全学研究委員会で承認しており、平成 19 年 10 月から研究業績を順次公式ホームページで公開を開始している。教育研究業績データベースの稼働と公式ホームページでの公開により、教育研究の活性化を図っており、効果が現れている。更に、教育研究業績の点数化を確立して、教員評価に発展させる検討を行っている。

(2) 自己点検・評価の結果などにより改善・改革を行うための制度システムについて

本学の自己点検・評価の結果は、「学校法人皇學館自己点検・評価規程」の第 6 条に「本学の自己点検・評価の結果は、教育研究及び管理運営の各分野において、それぞれの活動の水準の向上と活性化とに生かされなければならない」と定められている。

また、「学校法人皇學館全学自己点検・評価委員会規程」では、全学委員会・教育研究自己点検・評価委員会及び管理運営自己点検・評価委員会の役割分担が示され、全学委員長（理事長）の指揮のもと、自己点検・評価を実施するに際し、基本理念である建学の精神の確認を行い、その実施体制、実施方法、評価結果の活用等について、定期的に見直しを行い、それらの改善に努めるよう定めている。このように規定の整備によって、新たな自己点検・評価の基本構想の策定と総合的な自己点検・評価を実施する組織として機能し成果を上げている。「改善方策」は、教育研究自己点検・評価委員会委員長である学長、管理運営自己点検・評価委員会委員長の判断により、問題点等を抽出し関係する各種委員会等によって討議・立案され、教授会へ報告する形態となっている。

このような体制のもとで改善・改革が行われているが、大学運営の根幹に関わるような重大かつ広範囲にわたる問題については、常勤理事会（構成員は、理事長・常務理事・学長・各学部長・高校長（中学校長）・事務局長等）で協議され、自己点検・評価の結果全体を教育体系に留意し大所高所から捉えて、改革・改善に取り組む組織体制が確立されている。

教学部門では、大学評議会によって検討がなされ、各種委員会や学部教授会などに提起し、それらを検討・協議し承認を得た上で、各執行機関に改善や指導を発する体制が基本的には存在する。自己点検・評価結果を全学的な改善・改革に結びつけるために、平成 19 年度から学長補佐制度を発足させ、改善・改革に向けた点検・評価活動を確実に実行することとしている。なお、自己点検・評価報告書の公表は、印刷物として刊行し、教職員には配布しているが、ホームページでの公表は行っていない。今後 Web 上での公表を行う予定である。

更に、本年度から教育研究自己点検・評価委員会で、下記の課題について検討・改革を進めることとなっている。

(7) 学士課程教育の構築

- ①「3つの方針」の確立 ②単位の実質化 ③PDCAサイクルの確立

(1) 研究の活性化

- ①各教員の研究活性化のためのシステム作り ②組織的研究体制の再構築

(3) 外部認証評価機関による「大学評価」の受審について

平成 21 年度に（財）大学基準協会による第三者評価を受けるために、平成 19 年 4 月から平成 20 年 10 月まで自己点検・評価を実施し、平成 20 年 12 月 25 日付けで自己点検・評価報告書（草案）並びに大学基礎データを提出し、平成 21 年 1 月 8 日付けで申請書を提出した。その後、平成 21 年 2 月 12 日付け公文書にて「平成 21 年度大学評価申請受理および今後の手続について」の受理通知を受け取り、平成 21 年度の「大学評価」を受けることとなっている。

14. 情報の提供



本学における情報提供の具体的な方法としては、ホームページでは法人の財務の状況（予算・決算・事業計画・事業実績報告）、教育研究目標や計画（大学院・学部・学科・専攻科の教育目標・教員一覧・取得資格一覧・カリキュラム・シラバス等）、入学試験に関する情報、学習機会（科目等履修生・研究生）に関する情報、キャンパスライフ、卒業後の進路（就職・進路支援）に関する情報、附置機関（神道研究所・史料編纂所）・附属図書館・出版部・神道博物館・公開講座・学園報（PDF）などの情報を積極的に公表している。また、大学要覧及び大学案内、K-らいふ（学園報）、館友をはじめとする各種媒体において、関係者に提供すべき情報を整理し、効果的かつ有効的な情報の提供を行なっている。更に、学生による授業評価アンケートについては、学内ホームページ並びに冊子にして、学生・教職員に公表しており、教員の履歴・業績についても、教職員ネットワークに公表している。

以上のように現在も情報の公表を行っているが、私立学校法第47条の規定に基づき、情報公開規程（学校法人皇學館情報公開規程：平成19年11月17日から施行）の具体的な整備を行った。

#### 開示内容

- ① 収支予算及び事業計画書
- ② 決算及び事業報告書
- ③ 学生・生徒数
- ④ 教職員数
- ⑤ 入学試験実施状況
- ⑥ 卒業生就職状況
- ⑦ 評価結果（第三者評価及び自己点検・評価）
- ⑧ その他理事長が必要と認めた情報

#### IR情報公開（公式ホームページ）

<http://www.kogakkan-u.ac.jp/html/kogakkan/p04.html>

#### <記載内容>

規程（学校法人皇學館寄附行為、皇學館大学学則、皇學館大学大学院学則、皇學館高等学校学則、皇學館中学校学則）、決算（平成17～19年度）、事業報告（平成17～19年度）、予算（平成18～20年度）、事業計画（平成18～20年度）、研究教育業績、教員一覧

### 15. 教員の資質の維持向上の方策

#### (1) 組織とその運営

授業改善に関しては、本学に付置されている教育開発センターを中心にして取り組む。本学の教育開発センターは、学長を中心とするセンター運営委員会において教育方法とその検証についての基本方針を策定し、それを受けたセンター長がセンター委員で構成されたセンター会議において具体化する。そこで具体化された方針を、教学に関しては全学FD協議会、事務手続等に関しては学務課を通じて各学部にしし実践する体制を整えている。さらに、通常の授業体制で補えない学習支援については、教育開発センター内に置かれた学習支援室において対応する。（資料8）

#### (2) PDCAサイクルによる具体的活動

教育開発センターは、入学準備プログラム・カリキュラム開発・補習授業などの基本方針を策定し（plan）、それに基づいて各学部・各学科において授業を具体化する（do）、その検証は授業評価アンケートやプレースメントテスト（国語・英語など基礎学力向上の検証）を活用して全学FD協議会で検証する（check）。その検証結果は、教育開発センターに送られた後、センター会議において改善方法

を策定し、センター運営会議の承認を得て各学部・各学科に次年度に向けての改善計画（action）を指示する。（資料9）

(3) 授業改善に関する具体的取り組み

授業改善に関する具体的取り組みについては、今回改組における主たる対象の社会福祉学部にあつては、平成18年度より初年次導入教育「キャンパス・セミナー」を必修科目として新設した。それに先立つ平成17年12月に、導入に向けて日本福祉大学・大同工業大学・金沢工業大学などの取り組みを視察し、十分な準備の元に初年時教育を実施した。その後、FD委員会を中心とした授業研究会・講演会を継続的に実施し、当該年度の成果を検証し、教務委員会・学生委員会の協力の下に、次年度の授業計画を立案実施する体制を整えた。以下に、平成19年度、20年度の取り組みを挙げておく。

平成19年度

○FDフォーラムの実施

第1回【筒井琢磨教授】第2回【檜垣博子教授】

○他大学FD活動視察・研修会参加

佛教大学視察報告【宮城洋一郎教授】・大学教育学会第29回大会出席報告【池田久代教授】・私大連盟FD推進会議出席報告【橋本雅之教授】・大学コンソーシアム京都主催2007年度第1回FDセミナー出席報告【櫻井治男学部長】・大学コンソーシアム京都主催第13回FDフォーラム参加報告【松岡武夫教授、川口昭二事務部長】

○平成20年度

FD講演会【金沢工業大学、藤本元啓教授】

○他大学FD活動視察・研修会参加

関西学院大学視察報告【筒井琢磨教授、森正樹学務課長】・e-Learning WORLD2008報告【張磊准教授】・大学コンソーシアム京都主催第14回FDフォーラム参加報告【宮城洋一郎教授】・大学教育改革フォーラム in 東海2009出席報告【藤井恭子講師】

(4) 取組内容の公開

本学における授業内容方法の改善に関しては、以下の方法で公開する。

- ①学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を公開する。
- ②教育開発センターから検証結果とその改善に関する取組についての白書を作成し、それを公開する。

# 教育研究概念図

資料1

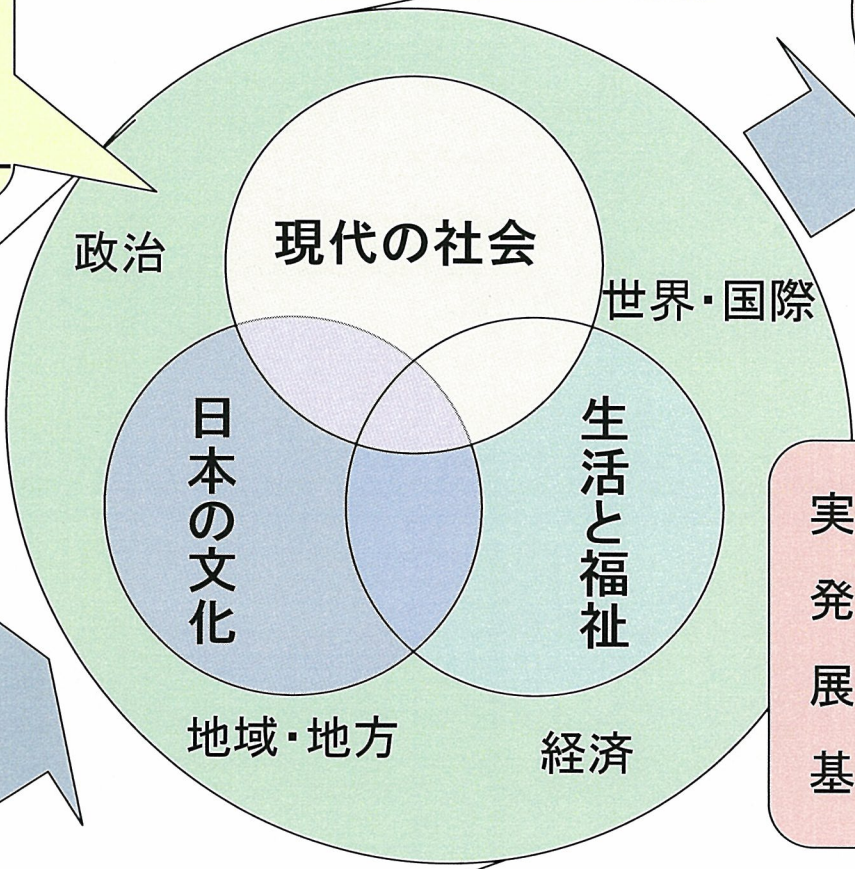
- 三分野を核とした多様な知識
- 問題意識の深化
- 融合から生まれる創造力
- 学問的理論に基づく探求力とマナー

- 心と知性と技能の融合
- 問題解決の試みと実践力の養成
- 職業の選択と人生の設計

演習科目

- 現代日本社会への問題提起
- 専門の学びへの動機づけ
- 国家・社会・人物モデルの提示

基礎科目



- 実習科目
- 発展科目
- 展開科目
- 基幹科目

カリキュラムの進行

# 授業科目分野別構成表

分野	総合		日本の文化		現代の社会		生活と福祉		科目数		単位数	
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	計	%	計	%
基礎科目	現代日本総論	2							3	2.7%	6	2.4%
	日本人物論	2										
	日本国家論	2										
	3	6	0	0	0	0	0	0				
基幹科目			日本文化論	2	社会学概論	2	社会福祉原論	4	12	10.6%	30	12.1%
			日本文学論	2	現代社会論	2	福祉政策論	2				
			日本歴史論	2	現代人権論	2	地域福祉論	4				
			日本民俗論	2	社会保障論	4						
				2	現代憲法論	2						
	0		4	8	5	12	3	10				
展開科目			日本建築論	2	地域社会論	2	社会福祉援助技術論Ⅰ(専門職制度)	4	53	46.9%	118	47.6%
			日本倫理思想史	2	心理学	2	社会福祉援助技術論Ⅱ(理論)	4				
			日本工芸論	2	医学概論	2	介護概論	2				
			地域文化論	2	政治社会学	2	児童・家庭福祉論	2				
			日本礼法論	2	地域情報論	2	精神保健福祉論Ⅰ(援助理念)	2				
			日本芸能論	2	社会情報学	2	精神保健福祉援助技術総論	4				
			日本神話論	2	精神医学	4	社会福祉援助技術論Ⅲ(実践)	4				
			神道概説	2	精神保健学	4	障害者福祉論	2				
			武士道論	2	国土構造論	2	公的扶助論	2				
			日本宗教概説	2	地域構造論	2	社会福祉発達史	2				
					国土計画論	2	高齢者福祉サービス論	2				
					地域計画論	2	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ(援助活動)	2				
					社会調査法	2	リハビリテーション論	2				
					社会情報分析	2	精神保健福祉論Ⅱ(施策と業務)	2				
					教育社会学	2	医療福祉論	2				
					家族社会学	2	精神保健福祉論Ⅲ(制度とサービス)	2				
					産業社会学	2	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ(ケアマネジメント)	2				
					社会統計学Ⅰ(基礎統計)	2	精神科リハビリテーション論	2				
					産業革新論	2	神道福祉論	2				
					文明開化論	2						
					質的調査論	2						
					社会統計学Ⅱ(多変量解析)	2						
					観光社会学	2						
					医療社会学	2						
	0	0	10	20	24	52	19	46				
発展科目			近代神道論	2	日本経済論	2	スクールソーシャルワーク論	2	22	19.5%	42	16.9%
			サブカルチャー論	2	日本政治論	2	権利擁護と成年後見制度	2				
			文化政策論	2	経済政策論	2	福祉行財政と福祉計画	2				
					日本マスコミ論	2	社会福祉経営論	2				
					日本外交論	2	司法福祉論	1				
					農業政策論	2						
					公共政策論	2						
					地方自治論	2						
					コミュニティビジネス論	2						
					起業論	2						
					地方財政論	2						
					政教問題論	2						
					国際政治論	2						
					雇用政策	1						
	0	0	3	6	14	27	5	9				
実習科目			文化継承実習Ⅰ	1	産業社会実習	4	社会福祉援助技術現場実習	4	15	13.3%	31	12.5%
			文化継承実習Ⅱ	1	社会調査実習	2	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ(事前指導)	2				
			文化継承実習Ⅲ	1	社会臨床実習	1	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ(事後指導)	1				
			文化継承実習Ⅳ	1	社会情報実習	2	精神保健福祉援助実習	6				
			文化継承実習Ⅴ	1			スクールソーシャルワーク実習	2				
			文化継承実習Ⅵ	1								
	0	0	6	6	4	10	5	15				
演習科目	現代日本演習Ⅰ	4					社会福祉援助技術演習Ⅰ(コミュニケーションスキル)	2	8	7.1%	21	8.5%
	現代日本演習Ⅱ	4					社会福祉援助技術演習Ⅱ(相談援助のプロセス)	2				
	課題研究演習(卒業研究)	4					精神保健福祉援助演習	2				
							社会福祉援助技術演習Ⅲ(相談援助の実際)	1				
							スクールソーシャルワーク演習	2				
	3	12	0	0	0	0	5	9				
科目数	計	6	23		47		37		113	100%		
	%	5.3%	20.4%		41.6%		32.7%		100%			
単位数	計	18	40		101		89				248	100%
	%	7.3%	16.1%		40.7%		35.9%				100%	

## 履修モデル

	1前		1後		2前		2後		3前		3後		4前		4後		単位数計
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
共通科目	キャンパスセミナー	2	伊勢学	2													30
	皇学	2	文章応用	2													
	文章入門	2	英語基礎Ⅱ	1													
	英語基礎Ⅰ	1	英語コミュニケーションⅡ	1			世界の歴史	2									
	英語コミュニケーションⅠ	1	日本の思想	2													
	政治学入門	2															
	経済学入門	2															
	自然地理学	2															
	自然科学史	2															
	伝統の心と技1	2	伝統の心と技6	2													
基礎科目	現代日本総論	2	日本人物論	2													6
			日本国家論	2													
基幹科目	[日本の文化]				日本文化論	2	日本歴史論	2									22
	[現代の社会]				日本文学論	2											
				社会学概論	2	現代社会論	2	現代憲法論	2								
	[生活と福祉]						福祉政策論	2	地域福祉論	4							
展開科目	[日本の文化]				日本建築論	2			日本礼法論	2	日本神話論	2					28
	[現代の社会]				日本倫理思想史	2											
					社会情報学	2	社会調査法	2	地域情報論	2	国土計画論	2					
	[生活と福祉]						公的扶助論	2	国土構造論	2	社会情報分析	2					
										社会福祉発達史	2				社会福祉援助技術論Ⅰ(専門職制度)	4	
発展科目					日本政治論	2	日本マスコミ論	2	農業政策論	2	文化政策論	2	日本経済論	2	地方財政論	2	18
								公共政策論	2			日本外交論	2				
												地方自治論	2				
実習科目					産業社会実習	2	産業社会実習	2	文化継承実習Ⅰ	1	文化継承実習Ⅱ	1	社会調査実習	1	社会調査実習	1	8
演習科目					現代日本演習Ⅰ	2	現代日本演習Ⅰ	2	現代日本演習Ⅱ	2	現代日本演習Ⅱ	2	課題研究演習(卒業研究)	2	課題研究演習(卒業研究)	2	12
単位数計	20		20		18		18		17		13		9		9		124

## 平成22年度 入試内容(案)

入試種別		方式	試験教科・科目	時間	配点	配点合計	試験場	備考
AO	AO	一般選考	セミナー受講	60分	—	200	伊勢	
			受講内容レポート	40分	100			
			面談(個人)	約20分	100			
		特別奨学生選考A・B	プレゼンテーション	約15分	100	100	伊勢	・評定平均3.8以上。 ・合格者はセンター試験を受験すること。
			質疑応答	約15分				
		スポーツ選考	第1次面談 (競技種目担当教員による)	—	段階評価	—	(第1次)伊勢 (原則として)	・対象競技種目は陸上競技、駅伝、柔道のみ
第2次面談 (現日担当者による)	約20分		(第2次)伊勢					
推薦	附属高校推薦	A (専願)	面接	約10分	段階評価	—	伊勢	
			B (国公立との併願型)	小論文、基礎学力試験(国語)より選択	60分	100	250	伊勢
		面接(個人)		約10分	100			
		調査書(評定平均値を10倍)		—	50			
	スポーツ型	面接	約10分	段階評価	—	伊勢	・特定競技種目において所定の成績を収め、評定平均2.8以上のもの。 ・対象競技種目は剣道、弓道、バレーボール、硬式野球。競技成績を別に定める。	
	指定校推薦	—	面接	約10分	段階評価	—	伊勢	
	一般推薦	A	小論文、基礎学力試験(国語)より選択	60分	100	250	伊勢	・小論文、基礎学力試験(国語)よりいずれか選択 ・面接に学科の基礎的な質問を含む。
			面接(個人)	約10分	100			
			調査書(評定平均値を10倍)	—	50			
		B	国語、日本史、英語より選択	60分	100	200	伊勢	・現日(国語・英語より) ・面接に学科の基礎的な質問を含む。
	面接(個人)		約10分	50				
	調査書(評定平均値を10倍)		—	50				
	資格取得者対象自己推薦	—	自己推薦書	—	—	100	伊勢	<出願対象資格> 現日:漢検2級以上、英検2級以上
	館友推薦	前期・後期	小論文	60分	100	200	伊勢	
面接(個人)			約10分	100				
一般	一般前期	A方式(3科目)	国語、英語、地歴(日本史、世界史、地理から1科目)、公民(現代社会)、数学から3教科3科目選択	各50分	各100	300	伊勢 名張 四日市 東京 浜松 名古屋 大阪 神戸 福岡	マーク式 ※地歴、公民の2科目選択不可
			A方式(2科目)	国語、英語、地歴(日本史、世界史、地理から1科目)、公民(現代社会)、数学から2教科2科目選択	各50分			各100
		B方式(2科目) (得意科目入試)	国語、英語、地歴(日本史、世界史、地理から1科目)、公民(現代社会)、数学から2教科2科目選択	2科目で100分	各100	300	伊勢 名張 四日市 東京 浜松 名古屋 大阪 神戸 福岡	マーク式 <現日>国語又は英語必須 ※地歴、公民の2科目選択不可
			Bの国語、英語、地歴(日本史、世界史、地理から1科目)、公民(現代社会)、数学からの2教科2科目選択と、センター試験の高得点1科目を利用	2科目で100分	各100			300
	一般後期	マーク2科目 (得意科目入試)	国語、英語、地歴(日本史、世界史から1科目)、数学から2教科2科目選択	2科目で100分	各100	300	伊勢 名張 名古屋 大阪	マーク式2科目 <現日>国語又は英語必須
センター	センター試験利用	A3・B3・C3	国語、外国語、地歴、公民、数学、理科から3教科3科目選択	—	各100	300	—	・3教科3科目以上受験の場合、高得点の3教科3科目を利用 ・地歴、公民の2科目選択不可

## 平成22年度 入試日程(案)

試験種別	エントリー期間	書類審査	書類審査発表	プレゼン・セミナー実施	出願許可判定	出願許可発表	出願期間	判定	合格発表	手続期間	
AO入試	特別奨学生選考A	7/6(月)～7/23(木)	7/25(土) ※現日担当 者で審査	7/27(月)	8/6(木)	8/6(木) ※現日担当 者で審査	8/7(金)	8/10(月)～ 8/26(水)	9/2(水)	9/4(金)	9/7(月)～ 9/25(金)
	特別奨学生選考B	10/8(木)～10/22(木)	10/24(土) ※現日担当 者で審査	10/26(月)	11/7(土)	11/11(水) ※現日担当 者で審査	11/13(金)	11/16(月) ～ 12/4(金)	12/16(水)	12/18(金)	12/21(月)～ 1/8(金)
	一般選考	7/27(月)～8/19(水)	—	—	8/27(木)	9/2(水)	9/4(金)	9/7(月)～ 9/18(金)	9/30(水)	10/2(金)	10/5(月)～ 10/23(金)
	スポーツ選考	(次頁)									

特別奨学生選考Aのプレゼン書類チェックは、7/25(土)、特別奨学生選考Bの書類チェックは10/24(土)。(担当教員)

試験種別	出願期間	試験日	判定	合格発表	手続期間
指定校推薦	10/19(月)～10/30(金)	11/7(土)	11/11(水)	11/13(金)	11/16(月)～12/4(金)
附属高校推薦(専願・併願・スポーツ型)					
一般推薦A・館友推薦(前期) 資格取得者対象自己推薦	10/19(月)～11/3(火)	11/7(土)			
一般推薦B	11/24(火)～12/8(火)	12/12(土)	12/16(水)	12/18(金)	12/21(月)～1/8(金)
一般前期	1/6(水)～1/22(金)	A方式(3科目)	2/9(火)	2/12(金)	2/15(月)～2/26(金)
		A方式(2科目)			
		B方式(2科目)			
		B方式(2科目) +センター			
センター試験利用 A3	1/6(水)～1/15(金)	—			
一般後期	2/12(金)～2/23(火)	2/27(土)	3/3(水)	3/4(木)	3/5(金)～3/12(金)
センター試験利用 B3		—			
館友推薦(後期)	3/4(木)～3/12(金)	3/15(月)	3/17(水)	3/18(木)	3/19(金)～3/25(木)
センター試験利用 C3	3/4(木)～3/12(金)	—			

## A O入試

### スポーツ選考日程表 (案)

面談 (伊勢キャンパス)	出願判定	出願許可 通知	出願期日	合否判定	合格発表	手続期間	備考
7/19(日) オープンキャンパス	7/19(日)	7/24(金)	9/ 7(月)～ 9/18(金)	9/30(水)	10/ 2(金)	10/ 5(月)～10/23(金)	
9/26(土)	9/30(水)	10/ 2(金)	10/ 5(月)～10/15(木)	10/21(水)	10/23(金)	10/26(月)～11/13(金)	
11/28(土)	12/ 2(水)	12/ 3(木)	12/ 4(金)～12/11(金)	12/16(水)	12/18(金)	12/21(月)～ 1/ 8(金)	
3/ 5(金)	3/ 5(金)	3/ 6(土)	3/ 8(月)～ 3/12(金)	3/17(水)	3/19(金)	3/20(土)～ 3/25(木)	



# 平成22年度入試 募集人員配分(案)

A O					推 薦									AO 推薦 小計	一般前期				一般 後期	センター試験利用			一般 入試 小計	全入試 小計
一般 選考	神職 後継者 対象選考	特別奨学 生選考A	特別奨学 生選考B	スポーツ 選考	附属A (専願)	附属B (併願)	附属 (スポ- ツ)	指定校	一般 A	一般 B	資格取 得者対 象自己 推薦	館友 (前期)	館友 (後期)		A方式 (3科 目)	A方式 (2科 目)	B方式 (2科 目)	B方式 + センタ-		A	B	C		
10	—	2	2	若干名	10	若干名	若干名	8	10	6	2	若干名	若干名	50	9	9	7	7	6	6	3	3	50	100

## 社会福祉援助技術現場実習受入施設一覧

N.º	種別	施設名称	所在地	受入人数	備考
1	特別養護老人ホーム	国 津 園	名張市	5	
2	特別養護老人ホーム	南勢カトリック特別養護老人ホーム	松阪市	2	
3	介護老人保健施設	なごみの里	多気町	5	
4	介護老人保健施設	明 和 苑	明和町	5	
5	障害者支援施設	ま も り 苑	津市	2	
6	知的障害者更正施設	済 美 寮	伊勢市	2	
7	母子生活支援施設	菜 の 花 苑	四日市市	5	
8	児童養護施設	エスペランス四日市	四日市市	2	
9	肢体不自由児施設	三重県立草の実リハビリテーションセンター	津市	5	
10	児童養護施設	真 盛 学 園	津市	3	
11	社会福祉協議会	伊賀市社会福祉協議会	伊賀市	5	
12	社会福祉協議会	伊勢市社会福祉協議会	伊勢市	5	
13	社会福祉協議会	志摩市社会福祉協議会	志摩市	20	
計				66	

## 精神保健福祉援助実習受入施設一覧

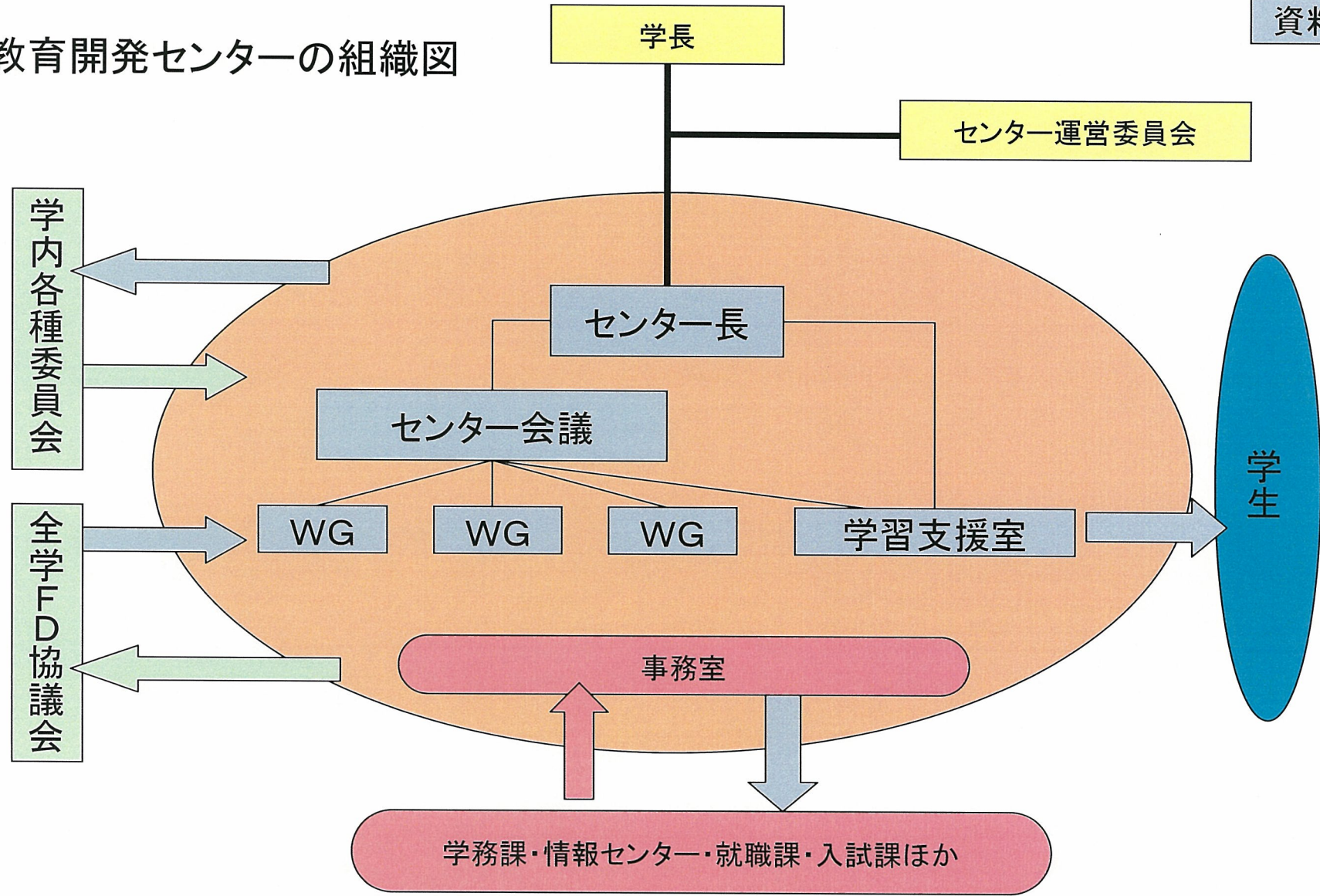
	種別	施設名称	所在地	受入人数	備考
1	精神科病院	多度あやめ病院	桑名市	1	
2	精神科病院	鈴鹿厚生病院	鈴鹿市	1	
3	精神科病院	上野病院	伊賀市	2	
4	精神科病院	南勢病院	松阪市	2	
5	精神障害者生活訓練施設	生活訓練施設あじさい	いなべ市	2	
6	障害福祉サービス事業・相談支援事業施設及び地域活動支援センター	就労移行支援事業・就労継続支援事業B型レインボークラブ	名張市	3	
計				11	

## 平成 18～20 年度の企業等実習受入先一覧

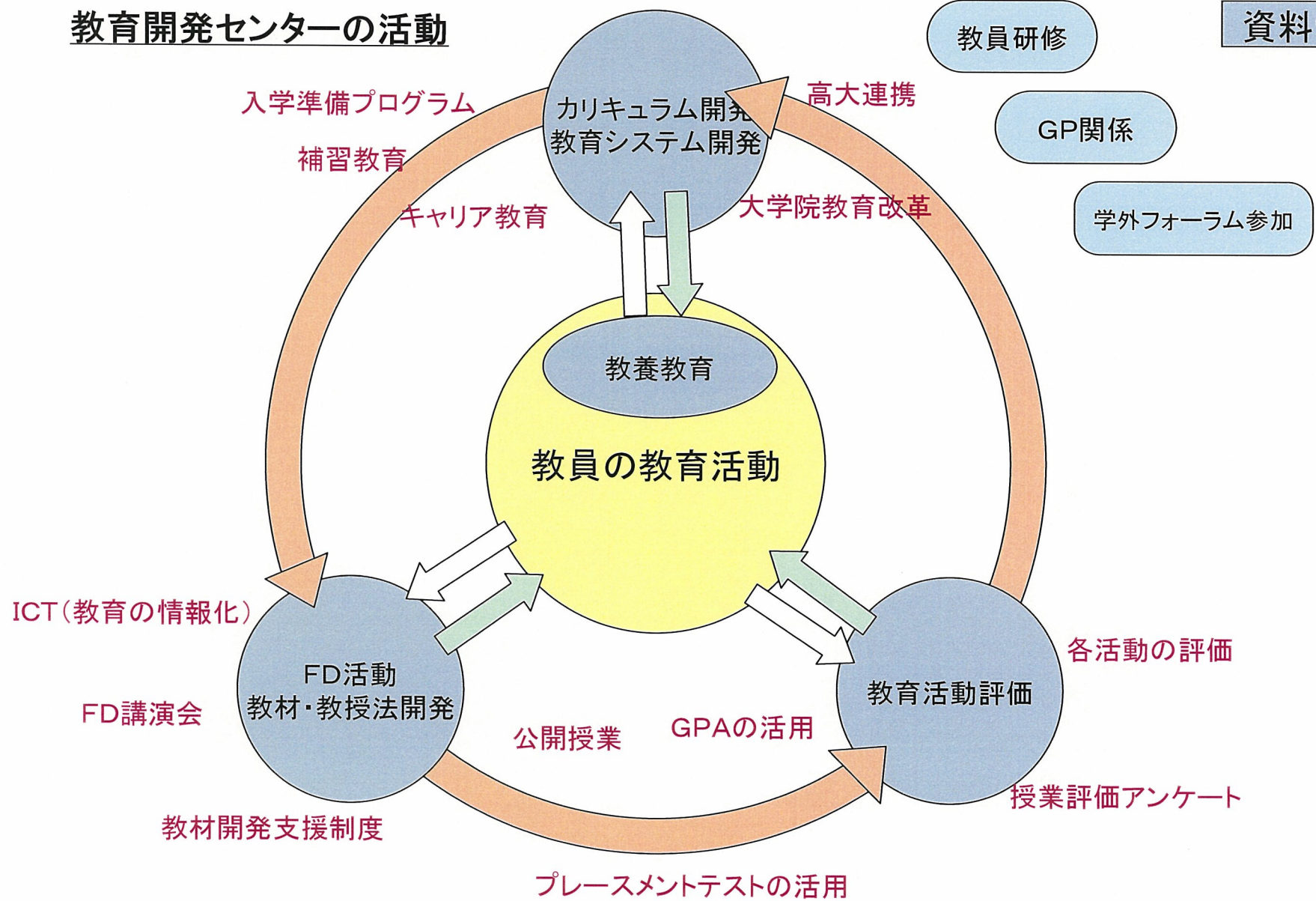
種別	施設名	所在地	受入人数
官公庁 (都道府県)	三重県庁 (環境森林部 ごみゼロ推進室)	津市	1名
	三重県庁 (環境森林部 森林保全室)	津市	//
	三重県庁 (環境森林部 地球温暖化対策室)	津市	//
	三重県庁 (健康福祉部 こども家庭室)	津市	//
	三重県庁 (健康福祉部 障害福祉室)	津市	//
	三重県庁 (健康福祉部 地域福祉室)	津市	//
	三重県庁 (県土整備部 景観まちづくり室)	津市	//
	三重県庁 (県土整備部 都市政策室)	津市	//
	三重県庁 (生活部 NPO室)	津市	//
	三重県庁 (生活部 交通安全室)	津市	//
	三重県庁 (生活部 国際室)	津市	//
	三重県庁 (生活部 情報公開室)	津市	//
	三重県庁 (生活部 文化振興室)	津市	//
	三重県庁 (政策部 統計室)	津市	//
	三重県庁 (農水商工部 農水産物安全室)	津市	//
	三重県庁 (防災管理部 消防・保安室)	津市	//
官公庁 (市町村)	伊賀市役所 (観光課)	伊賀市	//
	津市役所 (環境部)	津市	//
	名張市役所 (健康福祉部 介護保険室)	名張市	//
	名張市役所 (健康福祉部 健康福祉政策室)	名張市	//
	名張市役所 (健康福祉部 子育て支援室)	名張市	//
	名張市役所 (健康福祉部 障害者支援室)	名張市	//
	名張市役所 (生活環境部 人権・男女共同参画推進室)	名張市	//
	名張市役所 (生活環境部 環境保全室)	名張市	//
	名張市役所 (総務部 情報政策室)	名張市	//
	名張市役所 (教育委員会 スポーツ振興室)	名張市	//
	松阪市役所 (政策課 市民活動センター)	松阪市	//
	松阪市役所 (こども支援研究センター)	松阪市	//
	松阪市役所 (保護課 生活保護係)	松阪市	//
一般企業	株式会社百五銀行	津市	//
	株式会社第三銀行	松阪市	//
	三重テレビ放送株式会社	津市	//

	株式会社伊勢新聞社	津市	〃
	株式会社ユー	名張市	〃
	松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社	松阪市	〃
	株式会社 INAX	伊賀市	〃
	カネソウ株式会社	三重郡朝日町	〃
	株式会社クラユニコーポレーション	津市	〃
	大倉自動車部品株式会社	松阪市	〃
	株式会社豊栄モータース	鈴鹿市	〃
	ヴィンテージ宮田自動車販売株式会社	桑名市	〃
	昭和印刷株式会社	桑名市	〃
	株式会社柳屋奉善	松阪市	〃
	株式会社グリーンズホテルシステムズ	津市	〃
	志摩観光ホテル	志摩市	〃
	鳥羽シーサイドホテル株式会社	鳥羽市	1～2名
	メナード青山リゾート	伊賀市	1名
	Bridal&community BLANCA	名張市	〃
	株式会社三重平安閣	四日市市	3名
	株式会社津松菱	津市	1名
	株式会社中部近鉄百貨店	四日市市	〃
	株式会社ステップ	鈴鹿市	〃
	株式会社常磐	四日市市	〃
	株式会社ビーイング	津市	〃
	三交旅行株式会社	津市	1～2名
	株式会社伊勢スイミングスクール	伊勢市	〃
	三重日産自動車株式会社	津市	2名
	株式会社ライフ・テクノサービス	津市	1名
	株式会社イーネット	名張市	〃
非 営 利 法 人	財団法人 MAP みえこどもの城	松阪市	〃
	NPO 法人五十鈴塾	伊勢市	〃
	NPO 法人植物セラピー普及協会	伊勢市	〃
	NPO 法人ファミリア	名張市	1～2名
	NPO 法人三重にフリースクールを作る会	津市	1名

# 教育開発センターの組織図



# 教育開発センターの活動



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ハン イシロウ 伴 五十嗣郎 <平成22年4月>		文学修士		皇學館大学学長 (平成15年4月)



教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学に 従事する週当たり平均 日数
1	専	教授 (学部長)	ミカワ 泰夫 宮川 泰夫 <平成22年4月>		理学博士		現代日本総論 ※ 国土構造論 地域構造論 国土計画論 地域計画論 産業革新論 文明開化論	1前 2前 2前 2後 2後 3前 3後	0.4 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 文学部 特別招聘教授 (平成21年4月)	5日
2	専	教授	ハシモト 雅之 橋本 雅之 <平成22年4月>		博士 (文学)		皇学 ※ キャンパス・セミナー 文章入門 文章応用 現代日本総論 ※ 日本文化論 日本文学論 日本神話論 サブカルチャー論 現代日本演習 I 現代日本演習 II 課題研究演習 (卒業研究)	1前 1前 1前 1後 1前 2前 2前 3後 3後 2通 3通 4通	0.13 2 2 2 0.4 2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 教授 (平成16年4月)	5日
3	専	教授	ニッポ 均 新田 均 <平成22年4月>		政治学修士 博士 (神道学)		総合演習 現代日本総論 ※ 日本人物論 ※ 日本国家論 現代人権論 近代神道論 現代日本演習 I 現代日本演習 II 課題研究演習 (卒業研究)	2前・後 1前 1後 1後 2前 3前 2通 3通 4通	4 0.4 0.67 2 2 2 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 文学部 教授 (平成16年4月)	5日
4	専	教授	トシガキ 健 富永 健 <平成23年4月>		法学修士 ※		法学 (日本国憲法) 現代憲法論 地方自治論 政教問題論 司法福祉論 現代日本演習 I 現代日本演習 II 課題研究演習 (卒業研究)	2前 2後 3前 3後 4前 2通 3通 4通	4 2 2 2 1 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 文学部 教授 (平成19年4月)	5日
5	専	教授	ツツイ 琢磨 筒井 琢磨 <平成22年4月>		文学修士 ※		現代日本総論 ※ 社会情報学 社会調査法 質的調査論 医療社会学 産業社会実習 社会臨床実習 現代日本演習 I 現代日本演習 II 課題研究演習 (卒業研究)	1前 2前 2後 3後 3後 2通 3通 2通 3通 4通	0.4 2 2 2 2 4 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 教授 (平成17年4月)	5日
6	専	教授	ヤマシ 克文 山路 克文 <平成22年4月>		社会学 修士		現代日本総論 ※ 日本人物論 ※ 社会福祉原論 福祉政策論 社会福祉経営論 社会福祉援助技術演習 I (コミュニケーションスキル) 社会福祉援助技術演習 II (相談援助のプロセス) 社会福祉援助技術演習 III (相談援助の実際) 課題研究演習 (卒業研究)	1前 1後 1後 2後 4前 2後 3前 3後 4通	0.4 0.67 4 2 2 2 2 2 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 教授 (平成19年4月)	5日

教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学に 従事する 週当たり平均 日数	
7	専	教授	モト トミ 守本 友美 <平成23年4月>	[Redacted]	文学修士		地域福祉論 社会福祉援助技術論Ⅱ (理論) 社会福祉援助技術演習Ⅰ (コミュニケーションスキル) 社会福祉援助技術演習Ⅱ (相談援助のプロセス) 社会福祉援助技術演習Ⅲ (相談援助の実際) 課題研究演習(卒業研究)	3前 2前 2後 3前 3後 4通	4 4 2 2 1 4	1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 教授 (平成20年4月)	5日	
	専	准教授	ヤマカ マサル 山中 優 <平成23年4月>		博士 (法学)		総合演習 政治学入門 政治社会学 日本政治論 現代日本演習Ⅰ 現代日本演習Ⅱ 課題研究演習(卒業研究)	2前・後 1前 2前 2前 2通 3通 4通	4 2 2 2 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 准教授 (平成14年4月)	5日	
	兼担	准教授	ヤマカ マサル 山中 優 <平成22年4月>		博士 (法学)		政治学入門	1前	2	1			
9	専	准教授	エノト ヒロカ 榎本 悠孝 <平成23年4月>		修士※ (学術)		現代と福祉 精神保健福祉論Ⅰ(援助 理念) 精神保健福祉援助技術総 論 精神保健福祉援助技術各 論Ⅰ(援助活動) 精神保健福祉論Ⅱ(施策 と業務) 精神保健福祉論Ⅲ(制度 とサービス) 精神保健福祉援助技術各 論Ⅱ(ケアマネジメント) 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助演習 課題研究演習(卒業研究)	1前 2前 2後 3前 2前 2後 3前 3通 3前 4通	2 2 4 2 2 2 2 6 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 准教授 (平成21年4月)	5日	
	兼担	准教授	エノト ヒロカ 榎本 悠孝 <平成22年4月>		修士※ (学術)		現代と福祉	1前	2	1			
10	専	准教授	イサキ マサ 岩崎 正弥 <平成22年4月>		工学修 士		伝統の心と技4 伝統の心と技6 日本建築論 日本工芸論 日本礼法論 文化政策論 現代日本演習Ⅰ 現代日本演習Ⅱ 課題研究演習(卒業研究)	1前・後 1前・後 2前 2後 3前 3後 2通 4通 4通	4 4 2 2 2 2 4 4 4	2 2 1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	5日	
	専	准教授	カハラ マサ 笠原 正嗣 <平成23年4月>		经济学 修士※		社会学概論 産業社会学 観光社会学 雇用政策 産業社会実習 課題研究演習(卒業研究)	1後 3前 3後 2後 2通 4通	2 2 2 1 1 4	1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 准教授 (平成14年4月)	5日	
	兼担	准教授	カハラ マサ 笠原 正嗣 <平成22年4月>		经济学 修士※		社会学概論	1後	2	1			

教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学に 従事する 当たり平均 日数
12	専	准教授	セネ カル 関根 薫 <平成23年4月>		修士※ (社会学)		現代社会論 社会情報分析 家族社会学 社会調査実習 現代日本演習Ⅰ 現代日本演習Ⅱ 課題研究演習(卒業研究)	2前 2後 2後 3通 2通 3通 4通	2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 准教授 (平成18年4月)	5日
13	専	准教授	フジイ キョウコ 藤井 恭子 <平成23年4月>		修士 (文学) 博士 (学術)		教育社会学 社会統計学Ⅰ(基礎統計) 社会統計学Ⅱ(多変量解析) 社会調査実習 社会情報実習 課題研究演習(卒業研究)	2後 3前 3後 3通 3通 4通	2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 准教授 (平成21年4月)	5日
14	専	准教授	タベ タツコ 建部久美子 <平成23年4月>		修士 (社会学)		社会福祉援助技術論Ⅲ (実践) 障害者福祉論 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ(事前指導) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ(事後指導) 課題研究演習(卒業研究)	2後 2後 3通 3通 3通 4通	4 2 4 2 1 4	1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 准教授 (平成18年4月)	5日
15	専	准教授	ノジリ キョウコ 野尻 京子 <平成23年4月>		修士 (社会福祉学)		介護概論 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ(事前指導) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ(事後指導) 課題研究演習(卒業研究)	2前 3通 3通 3通 4通	2 4 2 1 4	1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 准教授 (平成21年4月)	5日
16	専	准教授	ウズマ リナ 鷗沼 憲晴 <平成23年4月>		修士※ (文学)		高齢者福祉サービス論 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ(事前指導) 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ(事後指導) 社会福祉援助技術演習Ⅰ (コミュニケーションスキル) 社会福祉援助技術演習Ⅱ (相談援助のプロセス) 社会福祉援助技術演習Ⅲ (相談援助の実際) 課題研究演習(卒業研究)	2後 3通 3通 3通 2後 3前 3後 4通	2 4 2 1 2 2 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 准教授 (平成14年4月)	5日
17	専	講師	イタイ マサキ 板井 正斉 <平成23年4月>		修士 (文学)		日本民俗論 神道概説 神道福祉論 課題研究演習(卒業研究)	2後 3後 4前 4通	2 2 2 4	1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 講師 (平成18年4月)	5日
18	兼担	教授	マツウラ ミツノブ 松浦 光修 <平成22年4月>		文学修士 博士 (神道学)		皇学 ※ 日本の思想	1前 1後	0.13 2	1 1	皇學館大学 文学部 教授 (平成18年4月)	
19	兼担	教授	モトザワ マサヒ 本澤 雅史 <平成22年4月>		博士 (文学)		皇学 ※ ボランティアⅡ	1前 2後	0.13 1	1 1	皇學館大学 文学部 教授 (平成19年4月)	

## 教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年 次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学に従事する 週当たり平均 日数
20	兼担	教授	マツダ 典祀 松田 典祀 ＜平成22年4月＞		修士 (教育学)		皇学 ※	1前	0.13	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成18年4月)	
21	兼担	教授	イカリ 千秋 市川 千秋 ＜平成22年4月＞		教育学修 士※		皇学 ※	1前	0.13	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成16年4月)	
22	兼担	教授	オシマ 信生 大島 信生 ＜平成22年4月＞		博士 (文学)		皇学 ※ 伝統の心と技9	1前 1後	0.13 2	1 1	皇學館大学 文学部 教授 (平成20年4月)	
23	兼担	教授	イシ 政晏 井後 政晏 ＜平成22年4月＞		文学修士		伊勢学 ※	1後	0.13	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成6年4月)	
24	兼担	教授	オカ 登 岡田 登 ＜平成22年4月＞		文学修士		伊勢学 ※ 伝統の心と技10	1後 1後	0.13 2	1 1	皇學館大学 史料編纂所 教授 (平成10年4月)	
25	兼担	教授	カシ 睦夫 深津 睦夫 ＜平成22年4月＞		博士 (文学)		伊勢学 ※	1後	0.13	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成10年4月)	
26	兼担	教授	ハンダ 美永 半田 美永 ＜平成22年4月＞		博士 (文学)		伊勢学 ※	1後	0.13	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成6年4月)	
27	兼担	教授	ウエ 秀治 上野 秀治 ＜平成22年4月＞		文学修士 ※		伊勢学 ※	1後	0.13	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成5年4月)	
28	兼担	教授	カケ 一紀 高倉 一紀 ＜平成22年4月＞		文学修士		伊勢学 ※	1後	0.13	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成15年4月)	
29	兼担	学長	ハン イシヲ 伴 五十嗣郎 ＜平成22年4月＞		文学修士		伊勢学 ※	1後	0.13	1	皇學館大学 学長 (平成15年4月)	
30	兼担	教授	トシム 誠 豊住 誠 ＜平成22年4月＞		教育学 修士		英語資格A 英語資格B 英語資格C 外国語 I インターンシップ ボランティア I	1後 1後 1後 1後 2前 2前	2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1	皇學館大学 文学部 教授 (平成19年4月)	
31	兼担	教授	ヤマ やすこ 山田やす子 ＜平成22年4月＞		文学修士 ※		ドイツ語 I ドイツ語 II ドイツ語 III ドイツ語 IV 言語学	1前 1後 1前 1後 1後	1 1 1 1 4	1 1 1 1 2	皇學館大学 文学部 教授 (平成16年4月)	
32	兼担	教授	シヤマ 芳太郎 白山芳太郎 ＜平成22年4月＞		博士 (文学)		神道	1後	4	2	皇學館大学 文学部 教授 (平成7年4月)	
33	兼担	教授	シズ 潔 清水 潔 ＜平成22年4月＞		文学修士 博士 (法律学)		日本の歴史	1後	2	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成4年4月)	
34	兼担	教授	モリ 真一 森 真一 ＜平成22年4月＞		博士 (社会学)		社会学入門	1前	2	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成18年4月)	

教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年 次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学に従事する 週当たり平均 日数
35	兼担	教授	ミヤギ 洋一郎 宮城洋一郎 <平成23年4月>		文学修士 博士 (社会学)		人権論 社会福祉発達史	2前 2後	2 2	1 1	皇學館大学 社会福祉学部 教授 (平成10年4月)	
36	兼担	教授	トヤマ シュウイチ 外山 秀一 <平成22年4月>		博士 (文学)		環境地理学 自然地理学 地域情報論	1前 1前 2前	2 4 2	1 2 1	皇學館大学 文学部 教授 (平成12年4月)	
37	兼担	教授	マスイ セツオ 増井 節郎 <平成22年4月>		文学士		武道 I 武道 II 武道 III 武道 IV	1前 1後 2前 2後	6 6 1 1	6 6 1 1	皇學館大学 文学部 教授 (平成5年4月)	
38	兼担	教授	オガシ トキオ 大串 兎紀夫 <平成24年4月>		教育学士		生涯学習概論	3前	4	2	皇學館大学 教育学部 教授 (平成20年4月)	
39	兼担	教授	ナカムラ テツオ 中村 哲夫 <平成23年4月>		体育学修士		ボランティア I	2前	1	1	皇學館大学 教育学部 教授 (平成20年4月)	
40	兼担	教授	オノ トモヒコ 岡野 友彦 <平成23年4月>		文学修士 博士 (歴史学)		日本歴史論	2後	2	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成17年4月)	
41	兼担	教授	カワヅエ ヨシ 川添 裕 <平成24年4月>		文学士		日本芸能論	3前	2	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成13年4月)	
42	兼担	教授	サクライ ハチロウ 櫻井 治男 <平成25年4月>		文学修士 博士 (宗教学)		日本宗教概説	4前	2	1	皇學館大学 社会福祉学部 教授 (平成10年4月)	
43	兼担	教授	カミホ トシオ 上久保達夫 <平成22年4月>		教育学修 士 博士 (農学)		地域社会論	1後	2	1	皇學館大学 文学部 教授 (平成12年4月)	
44	兼担	准教授	マツモト カシ 松本 丘 <平成22年4月>		修士※ (神道学)		皇学 ※	1前	0.13	1	皇學館大学 文学部 准教授 (平成19年4月)	
45	兼担	准教授	ナカガワ テルマサ 中川 照将 <平成22年4月>		教育学修 士 博士 (文学)		皇学 ※ 古文 I 古文 II 日本の文学	1前 1前 1後 1後	0.13 2 2 2	1 2 2 1	皇學館大学 文学部 准教授 (平成21年4月)	
46	兼担	准教授	カワムラ カズヨ 川村 一代 <平成22年4月>		Master of Arts in English (米国)		皇学 ※ 基礎英語 I 基礎英語 II 英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	1前 1前 1後 1前 1後	0.13 2 2 2 2	1 2 2 2 2	皇學館大学 文学部 准教授 (平成21年4月)	
47	兼担	准教授	サイトウ ケイ 齋藤 平 <平成22年4月>		文学修 士※		伊勢学 ※ ビジネス実践論 ※	1後 2後	0.13 0.25	1 1	皇學館大学 文学部 准教授 (平成16年4月)	
48	兼担	准教授	チヨウ ライ 張 磊 <平成22年4月>		博士 (工学)		情報処理 I (基礎) 情報処理 II (応用)	1前 1後	2 2	2 2	皇學館大学 社会福祉学部 准教授 (平成14年4月)	
49	兼担	准教授	ジョン グイクス ジョン・グイクス <平成22年4月>		法学士		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英会話 I 英会話 II	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	皇學館大学 文学部 准教授 (平成12年4月)	
50	兼担	准教授	ワタナベ ユウジ 渡邊 毅 <平成22年4月>		文学士		現代と教育 日本人物論 ※	1前 1後	2 0.67	1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成16年4月)	

教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年 次	担当 単位数	年間 開講 数	現職 (就任年月)	申請に係る大 学に従事する 週当たり平均 日数
51	兼任	准教授	スギノ ユカ 杉野 裕子 <平成22年4月>		教育学 修士		数学	1前	2	1	皇學館大学 文学部 准教授 (平成21年4月)	
52	兼任	准教授	ナカマツ ユカ 中松 豊 <平成22年4月>		博士 (農学)		生物学 自然科学史	1前 1前	4 2	2 1	皇學館大学 文学部 准教授 (平成21年4月)	
53	兼任	准教授	カシコクラ ヒロシ 上小倉一志 <平成23年4月>		修士 (芸術学)		書道 I 書道 II	2前 2後	1 1	1 1	皇學館大学 文学部 准教授 (平成17年4月)	
54	兼任	准教授	タラ マサノリ 田浦 雅徳 <平成23年4月>		博士 (文学)		インターンシップ	2前	1	1	皇學館大学 文学部 准教授 (平成9年4月)	
55	兼任	講師	タダ ジツドウ 多田 實道 <平成22年4月>		修士 (文学)		皇学 ※	1前	0.13	1	皇學館大学 文学部 講師 (平成18年4月)	
56	兼任	講師	マツタ 道信 松下 道信 <平成22年4月>		修士※ (文学)		漢文 I 漢文 II 外国語 II 世界の思想	1前 1後 1後 1後	2 2 2 2	2 2 1 1	皇學館大学 文学部 講師 (平成19年4月)	
57	兼任	講師	マエダ リカ 前田 至剛 <平成22年4月>		修士※ (社会学)		情報処理 I (基礎) 情報処理 II (応用) 情報処理 III (ネットワーク) 情報処理 IV (プログラミング)	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	皇學館大学 文学部 講師 (平成19年4月)	
58	兼任	助教	オホヒラ 和典 大平 和典 <平成22年4月>		修士 (文学)		伊勢学 ※	1後	0.13	1	皇學館大学 文学部 助教 (平成20年4月)	
59	兼任	助教	ウエノ フジエ 上野 文枝 <平成23年4月>		家政学 修士 修士 (社会福 祉学)		児童・家庭福祉論 スクールソーシャルワーク論 スクールソーシャルワーク実習 スクールソーシャルワーク演習	2前 3後 4前 4前	2 2 2 2	1 1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 助教 (平成20年10月)	
60	兼任	講師	カサネ 十八 加藤 十八 <平成22年4月>		高等師 範学校		皇学 ※	1前	0.13	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成18年4月)	
61	兼任	講師	カサネ 寛次 勝岡 寛次 <平成22年4月>		教育学 修士※		皇学 ※	1前	0.13	1	明星大学 非常勤講師 (平成11年4月)	
62	兼任	講師	タナカ ヒロシ 田中 英道 <平成22年4月>		博士 (文学)		皇学 ※	1前	0.13	1	国際教養大学 特任教授 (平成17年9月)	
63	兼任	講師	ワタベ トシム 渡部 年晴 <平成22年4月>		文学士		皇学 ※	1前	0.13	1	皇學館大学 文学部 寮長・非常勤講師 (平成20年4月)	
64	兼任	講師	ニシヤマ カヨ 西山嘉代子 <平成22年4月>		芸術学 士		皇学 ※	1前	0.13	1	皇學館大学 教育学部 教授 (平成21年4月)	
65	兼任	講師	ホンマ イッセイ 本間 一誠 <平成22年4月>		文学士		皇学 ※	1前	0.13	1	皇學館高等学校 教頭 (平成18年4月)	

教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学に 従事する 週当たり平均 日数
66	兼任	講師	ニシネ キヨミ 西根 清美 <平成22年4月>		家政学 士		伊勢学 ※	1後	0.13	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
67	兼任	講師	ニシムラ ナホミ 西村 尚美 <平成22年4月>		文学士		伊勢学 ※	1後	0.13	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
68	兼任	講師	モリノ タカオ 森下 隆生 <平成22年4月>		短期大 学		伊勢学 ※	1後	0.13	1	伊勢市長 (平成18年4月)	
69	兼任	講師	オノ タツヤ 小野 達哉 <平成22年4月>		修士※ (文学)		漢文Ⅰ 漢文Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成18年4月)	
70	兼任	講師	ナガセ イチ 永瀬 伊織 <平成22年4月>		博士 (学術)		漢文Ⅰ 漢文Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成16年4月)	
71	兼任	講師	ウダ ノリノ 宇田 紀之 <平成22年4月>		社会学 修士		情報処理Ⅰ (基礎) 情報処理Ⅱ (応用)	1前 1後	2 2	2 2	名古屋産業大学 環境情報ビジョン 学部長 准教授 (平成13年4月)	
72	兼任	講師	タノベ シノブ 田畑 忍 <平成22年4月>		博士 (工学) 修士 (教育学)		情報処理Ⅰ (基礎) 情報処理Ⅱ (応用)	1前 1後	6 6	6 6	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成17年4月)	
73	兼任	講師	イトウ ヒサミ 伊藤ひさみ <平成22年4月>		教育学 士		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 1 1	2 2 2 2 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成19年4月)	
74	兼任	講師	オリハラ マチコ 折原真希子 <平成22年4月>		修士※ (人文科 学)		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	2 2 2 2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成16年4月)	
75	兼任	講師	ウマダ ユキコ 駒田ゆき子 <平成22年4月>		修士 (人文社会 科学)		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ	1前 1後	2 2	2 2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
76	兼任	講師	タニ マサキ 巽 幸政 <平成22年4月>		教育学 修士		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ	1前 1後	2 2	2 2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
77	兼任	講師	ニシオ ヨシナリ 西尾 吉成 <平成22年4月>		教育学 修士		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	2 2 2 2	藤田保健衛生大学 衛生学部 准教授 (平成8年4月)	
78	兼任	講師	ヤマカミ シゲトシ 山川 茂俊 <平成22年4月>		文学修 士		英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	2 2 2 2	名古屋学芸大学 短期大学部 教授 (平成16年4月)	
79	兼任	講師	クスダ エイコ 楠田 英子 <平成22年4月>		文学修 士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語資格対策Ⅰ 英語資格対策Ⅱ	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成13年4月)	
80	兼任	講師	ハツグメ ノブヒコ 橋爪 仙彦 <平成22年4月>		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	鳥羽商船高等専門学校 准教授 (平成12年4月)	

教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年 次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学に従事する 週当たり平均 日数
81	兼任	講師	マルティンス・オコン・コ フィオン マルティンス・オコ ン・エフィオン <平成22年4月>		Master of Science in Botany (イギリス) 7)		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英会話 I 英会話 II	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
82	兼任	講師	7林 好 青木 幸美 <平成22年4月>		文学修 士※		フランス語 I フランス語 II フランス語 III フランス語 IV	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成10年4月)	
83	兼任	講師	7テ エリンガ 幸江 伊達エリンガ 幸江 <平成22年4月>		医学士		ポルトガル語 I ポルトガル語 II ポルトガル語 III ポルトガル語 IV	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成9年4月)	
84	兼任	講師	コウ ジュンセイ 高 潤生 <平成22年4月>		博士 (文学)		中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV	1前 1後 1前 1後	3 3 1 1	3 3 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成5年4月)	
85	兼任	講師	7ルカ コイ 古坂 紘一 <平成22年4月>		文学修 士※		哲学	1後	4	2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成18年4月)	
86	兼任	講師	ハチヨ サユミ 濱千代早由美 <平成22年4月>		修士※ (社会学)		日本の民俗 地域文化論	1後 1後	2 2	1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成15年4月)	
87	兼任	講師	オウダ ヤヒロ 奥田 泰広 <平成22年4月>		修士 (人間環 境学)		世界の歴史 日本外交論 国際政治論	1後 3前 3後	4 2 2	2 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
88	兼任	講師	シマ ヨシヒロ 島 義博 <平成22年4月>		修士※ (経済学)		経済学入門 統計学入門 起業論	1前 1前 3前	4 2 2	2 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成18年4月)	
89	兼任	講師	ハラダ ハ 原田 華 <平成22年4月>		修士 (教育学)		心理学入門	1前	6	3	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成17年4月)	
90	兼任	講師	ヒバサミ ヒロシゲ 樋廻 博重 <平成22年4月>		医学博 士		現代と健康	1前	2	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成17年4月)	
91	兼任	講師	タムラ ケイジ 田村 圭司 <平成22年4月>		社会学 士		現代の課題 日本マスコミ論	1前 2後	1 2	1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
92	兼任	講師	ヨシザワ マサキ 吉澤 雅之 <平成22年4月>		専門学 校		現代の課題	1前	1	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
93	兼任	講師	ノモト タケオ 野本 建雄 <平成22年4月>		理学博 士		化学	1前	4	2	皇學館大学 社会福祉学部 非常勤講師 (平成15年4月)	
94	兼任	講師	ウチダ トモヨシ 内田 富儀 <平成22年4月>		理学博 士		物理学	1前	2	1	三重大学 教育学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
95	兼任	講師	タケノカ タカ 為永 辰郎 <平成22年4月>		理学博 士		天文学	1前	4	2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成14年4月)	
96	兼任	講師	カワグチ マサヒト 川口 正人 <平成22年4月>		体育学 士		武道 I 武道 II	1前 1後	2 2	2 2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成17年4月)	



教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講 数	現職 (就任年月)	申請に係る大 学に従事する 週当たり平均 日数
97	兼任	講師	フクダ ケイコ 福田 啓子 <平成22年4月>		西洋史 学修士		武道 I 武道 II 文化継承実習 I 文化継承実習 II 文化継承実習 III 文化継承実習 IV 文化継承実習 V 文化継承実習 VI	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	4 4 2 2 2 2 2 2	4 4 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成11年4月)	
98	兼任	講師	オノ ケン 岡野 央 <平成23年4月>		文学士		書道 I 書道 II	2前 2後	1 1	1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成13年4月)	
99	兼任	講師	シウダ アキト 庄田 昭人 <平成23年4月>		経済学 士		書道 I 書道 II	2前 2後	2 2	2 2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
100	兼任	講師	ホカ アキミ 堀田 明美 <平成22年4月>		文学士		伝統の心と技 1 伝統の心と技 1 2	1前・後 1後	4 2	2 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
101	兼任	講師	アサマ ヒロシ 淺沼 博 <平成22年4月>		工学士		伝統の心と技 2 文化継承実習 I 文化継承実習 II 文化継承実習 III 文化継承実習 IV 文化継承実習 V 文化継承実習 VI	1前・後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	4 2 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 文学部 特別招聘教授 (平成21年4月)	
102	兼任	講師	ヤマカ チエノ 山中ちえの <平成22年4月>		高等女 学校		伝統の心と技 2	1前・後	4	2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
103	兼任	講師	オノ マチコ 奥野 昌子 <平成22年4月>		文学士		伝統の心と技 2	1前・後	4	2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
104	兼任	講師	タカバヤシ コウジ 高林 皓二 <平成22年4月>		高等学 校		伝統の心と技 3	1前	2	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
105	兼任	講師	カベ ヨシマサ 観世 喜正 <平成22年4月>		法学士		伝統の心と技 3	1後	2	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
106	兼任	講師	カベ ヨシキ 観世 喜之 <平成22年4月>				伝統の心と技 3	1後	2	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
107	兼任	講師	ヒガ モトシ 飛騨 大富 <平成22年4月>		文学士		伝統の心と技 5 文化継承実習 I 文化継承実習 II 文化継承実習 III 文化継承実習 IV 文化継承実習 V 文化継承実習 VI	1後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
108	兼任	講師	カガミ アキシ 川上 昭光 <平成22年4月>		文学士		伝統の心と技 7	1後	2	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
109	兼任	講師	マツフジ ツカサ 松藤 司 <平成22年4月>		経済学 士		伝統の心と技 8	1前・後	4	2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
110	兼任	講師	オノ ヒロヒコ 岡野 弘彦 <平成22年4月>		文学士		伝統の心と技 9	1後	0.27	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	

教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年 次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学に従事する 週当たり平均 日数
111	兼任	講師	ナカムラ リウオ 中村 立夫 <平成22年4月>		高等学校		伝統の心と技11	1前・後	4	2	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
112	兼任	講師	オシマ ケン 大島 謙 <平成23年4月>		工学修 士		人生と仕事	2前	1	1		
113	兼任	講師	ヤマシタ カズナ 山下 数奈 <平成23年4月>		文学士		ビジネス実践論 ※	2後	0.125	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
114	兼任	講師	イワサ マサノリ 岩佐 政徳 <平成23年4月>		工学士		ビジネス実践論 ※	2後	0.125	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
115	兼任	講師	ヤマダ コウイチロウ 山出公一郎 <平成23年4月>		高等学 校		ビジネス実践論 ※	2後	0.125	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
116	兼任	講師	イノウエ マサヒロ 井上 雅平 <平成23年4月>		高等学 校		ビジネス実践論 ※	2後	0.125	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
117	兼任	講師	オカダ ミチエ 岡田美千絵 <平成23年4月>		薬学士		ビジネス実践論 ※	2後	0.125	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
118	兼任	講師	ノノ ノリコ 野間 紀子 <平成23年4月>		高等学 校		ビジネス実践論 ※	2後	0.125	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
119	兼任	講師	イワサキ トシヒコ 岩崎 利彦 <平成23年4月>		博士 (経済学)		社会保障論 公的扶助論 福祉行財政と福祉計画	2前 2後 4前	4 2 2	1 1 1	皇學館大学 社会福祉学部 准教授 (平成19年4月)	
120	兼任	講師	クリハラ コウ 栗原 剛 <平成23年4月>		博士 (文学)		日本倫理思想史	2前	2	1	皇學館大学 文学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
121	兼任	講師	カサヤ カズヒコ 笠谷和比古 <平成24年4月>		博士 (文学)		武士道論	3後	2	1	国際日本文化研究センター 研究部 教授 (平成8年4月)	
122	兼任	講師	イケガキ ヨコ 池田 曜子 <平成22年4月>		博士 (学術)		心理学	1後	2	1	皇學館大学 社会福祉学部 非常勤講師 (平成20年4月)	
123	兼任	講師	コタニ ヒロミ 小谷 裕実 <平成23年4月>		博士 (医学)		医学概論	2前	2	1	花園大学 社会福祉学部 教授 (平成21年4月)	
124	兼任	講師	サキヤマ シノブ 崎山 忍 <平成23年3月>		医学博 士		精神医学 精神保健学	2前 2前	4 4	1 1	鈴鹿国際大学 国際人間科学部 教授 (平成21年4月)	
125	兼任	講師	ウエカキ トシユキ 植田 寿之 <平成22年4月>		修士 (文学)		社会福祉援助技術論Ⅰ(専 門職制度)	1後	4	1	梅花女子大学 現代人間学部 准教授 (平成19年4月)	
126	兼任	講師	ナカタ スミレ 成田すみれ <平成23年4月>		修士 (社会 福祉 学)		リハビリテーション論	2後	2	1	(社福) 横浜市リハビリ テーション事業団横浜市総 合リハビリテーションセンター (昭和62年4月)	

## 教員の氏名等

(現代日本社会学部現代日本社会学科)

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学に 従事する週当たり平均 日数
127	兼任	講師	カタカチノ 片岡千都子 <平成24年4月>		社会学士		医療福祉論	3前	2	1	皇學館大学 社会福祉学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
128	兼任	講師	ヤマカケ リキオ 山形 力生 <平成24年4月>		教育学士		精神科リハビリテーション論	3前	2	1	姫路獨協大学 医療保健学部 教授 (平成18年4月)	
129	兼任	講師	イマエ ヒデジ 磯前 秀二 <平成23年4月>		農学博士		日本経済論 経済政策論 農業政策論	2前 2後 3前	2 2 2	1 1 1	名城大学 農学部 教授 (平成13年4月)	
130	兼任	講師	スズキ ヒデカ 鈴木 英敬 <平成24年4月>		修士 (経済学)		公共政策論 地方財政論	3前 3後	2 2	1 1	立命館大学 非常勤講師 (平成18年4月)	
131	兼任	講師	タケダ ヒデアキ 武田 秀一 <平成24年4月>		工学士		コミュニケーション論	3前	2	1	三重大学 非常勤講師 (平成19年4月)	
132	兼任	講師	シノ ノリツ 七野 敏光 <平成24年4月>		法学修士※		権利擁護と成年後見制度	3後	2	1	皇學館大学 社会福祉学部 非常勤講師 (平成16年4月)	
133	兼任	講師	コカサワ キヨタカ 小笠原清忠 <平成23年4月>		商学士		文化継承実習Ⅰ 文化継承実習Ⅱ 文化継承実習Ⅲ 文化継承実習Ⅳ 文化継承実習Ⅴ 文化継承実習Ⅵ	2前 2後 3前 3後 4前 4後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	弓馬術礼法小笠原教 場三十一世宗家継承 (平成4年6月) 大正大学 非常勤講師 (平成21年4月)	